

造石税ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出検査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石税ヲ納ムルコトヲ得  
製造場ニ箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出検査ヲ受ケヘシ

第七條 免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ賣渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期內ニ天災又ハ避ケヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ検査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩留ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用菜ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請買ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高竝仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證憑ヲ携帯スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十一條 第五條第六條ノ査定ヲ妨ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及違稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ検査ヲ受サル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徴ス

第二十四條 此税則ヲ犯タル者ニハ刑シ法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス  
第二十五條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス  
醬油製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡癩ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此税則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附 則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

第二十九條 此税則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

醬油税則施行細則 (明治二十一年八月大藏省令第九號)

本年六月勅令第四十七號醬油税則施行細則左ノ相通定ム

醬油税則施行細則

第一條 税則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ第一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但第一區域ノ倉庫建物ト雖モ検査済ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ設置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條 (二十七年大藏省令第十號ヲ以テ刪除ス)

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用機械ノ種類員數目錄ヲ所管租税検査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキハ其時時所管租税検査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租税検査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ新々ニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ税則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ  
第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ  
第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租税検査員派出所ニ申出検査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑「口頭ヨリ三寸下リタル箇所」胴徑「口底徑ノ中央」底徑「底板面ノ箇所」孰レモ内測ニテ縱横  
①圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シニテ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等孰モ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ヲ以之ヲ除ス但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算 則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス  
口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス  
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四「乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス」ヲ乘シニテ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得  
容器中廻類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條 石敷査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス  
假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四「乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下進之」ヲ乘シ其得ル石敷ヲ容器帳簿記載ノ石敷ヨリ減シ現在ノ石敷ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス「此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス」

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス  
假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石敷ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一代替書替ハ 六十日間  
一其他ノ書替再渡ハ 十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣（移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添へ管廳ニ届出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石敷等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石敷査定未済ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳  
醬油製造帳

鹽油仕込帳  
鹽油賣場帳

- 第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ
- 第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ検査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、個數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ検査ヲ請ヒ検査濟證明書ヲ受クヘシ
- 第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ
- 第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ參合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均參合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス
- 第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數、箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ検査ヲ受クヘシ
- 第二十二條 稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス
- 第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ效ヲ失フモノトス
- 第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケザル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十五條 此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

葉煙草專賣法

(明治二十九年三月法律第三十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル葉煙草專賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

葉煙草專賣法

- 第一條 政府ハ葉煙草ノ專賣權ヲ有ス
- 第二條 葉煙草ハ政府之ヲ收納シ總テ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ  
何人ヲ問ハス政府ヨリ買受ケタル葉煙草ニ非サレハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス
- 第三條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ乾燥ノ後總テ其ノ葉煙草ヲ政府ニ納付スヘシ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得ス
- 第四條 葉煙草ヲ耕作シタル者葉煙草ヲ納付スルトキハ政府ハ之ニ對シ賠償金ヲ交付スヘシ葉煙草ノ賠償金ハ政府之ヲ定メ公示スヘシ其ノ品位等級ハ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシム若此ノ鑑定ニ不服アルトキハ更ニ鑑定ヲ求ムルコトヲ得
- 第五條 葉煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年四月三十日迄ニ政府ニ其ノ段別ヲ届出ヘシ
- 第六條 葉煙草ハ政府ニ届出テタル土地ニ非サレハ耕作スルコトヲ得ス
- 第七條 葉煙草耕作者ノ變更シタルトキハ其ノ耕作ヲ繼承シタル者ヨリ其ノ旨政府ニ届出ヘシ
- 第八條 煙草製造ヲ業トスル者及葉煙草賣買ヲ業トスル者ハ葉煙草ヲ耕作スルコトヲ得ス
- 第九條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草收穫ノ前及葉煙草乾燥ナ了リタル後政府ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
- 第十條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ノ乾燥ナ了リタル後翌年三月三十一日迄ニ政府ノ指定シタ

ル場所ニ之ヲ耕作スヘシ此ノ購得ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セムトスルトキハ政府ノ認許ヲ受ケヘシ  
第十一條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ葉煙草ヲ買受クルコトヲ得ス又自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏  
スルコトヲ得ス但當該官吏ノ承認ヲ受ケ標本トシテ買受クルハ此ノ限ニ在ラス  
第十二條 輸出ニ供スル葉煙草ハ政府ノ認許ヲ受クルトキハ之ヲ政府ニ納付セスシテ他ニ賣渡ス  
コトヲ得

第十三條 前條ノ葉煙草ハ政府ノ保管ニ付スヘシ

第十四條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ其ノ保管證ヲ以テ賣買スルコトヲ得

第十五條 政府ニ於テ保管スル葉煙草ハ保管後一箇年内ニ輸出セサルトキハ政府ハ之ヲ收納シ第  
四條ニ依リ賠償金ヲ交付スヘシ

第十六條 政府ニ於テ保管シタル葉煙草ハ輸出ノ際之ヲ輸出者ニ交付スヘシ

第十七條 保管者ハ運搬ノ爲ニ生シタル費用ハ保管證所有者ノ負擔トス

第十八條 政府ハ何人ノ所屬ヲ問ハズ葉煙草耕作地及貯藏所其ノ他所在ノ場所ヲ検査スルコトア  
ルヘシ此ノ場合ニ於テ當該官吏ハ葉煙草所在場所又ハ葉煙草ノ所在ト認ムル場所ニ立入又ハ監  
督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得其ノ運送中ニアルモノハ其ノ所在ニ就キ之ヲ検査ヲ爲スコトヲ  
得

第十九條 政府ハ各地方便宜ノ地ニ葉煙草取扱所ヲ設ケテ葉煙草ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

第二十條 耕作ノ届出ヲ爲サスシテ葉煙草ヲ耕作シタル者又ハ届出ヲ爲ササル土地ニ葉煙草ヲ耕  
作シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ葉煙草ヲ沒收ス

第二十一條 葉煙草ヲ耕作スル者政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡又ハ消費シタルトキハ十圓

以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキハ何人ノ所有ヲ問ハス政府  
ハ之ヲ收納シ第四條ニ準シテ其ノ賠償金ヲ交付スヘシ

第二十二條 葉煙草ヲ耕作スル者葉煙草ヲ買受ケ又ハ自己ノ耕作セサル葉煙草ヲ貯藏シ又ハ政府  
ノ認許ヲ受ケスシテ翌年三月三十一日ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ  
罰金ニ處ス但犯罪ニ係ル葉煙草ノ現存スルトキ其ノ收納及賠償金ノ交付ハ前條但書ヲ適用ス

第二十三條 葉煙草耕作者變更ノトキ其ノ繼承ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下  
ノ科料ニ處ス

第二十四條 葉煙草ノ收穫ヲ始ムル前又ハ葉煙草ノ乾燥ヲ了リタル後之カ届出ヲ爲ササル者ハ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 政府ニ對シ及ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ之ヲ怠リタル者ハ三圓  
以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 葉煙草ノ検査ニ際シ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ支障ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加  
ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第二十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス但刑  
法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 葉煙草ヲ耕作スル者ハ其ノ代理人、家族、同居者、雇人ニシテ其ノ業務ニ關シ本法  
ヲ犯シタルトキ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

附則

第二十九條 本法ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第三十條 邊陲ノ島嶼ニシテ内地ト一般ノ形勢ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ地方ニ對シ勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得

本法ヲ施行セサル地方ヨリ本法施行地ニ葉煙草ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三十一條 明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス但煙草製造營業者ニ於テ本法施行前ヨリ持越タル葉煙草ヲ以テ製造シタル煙草ニ關シテハ仍明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用ス

第三十二條 本法施行ノ際煙草仲買人又ハ葉煙草新作者ノ所持スル葉煙草ハ政府ニ納付スヘシ但納付ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

葉煙草專賣法施行細則 (明治三十年三月六號省令第六號)

葉煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム

葉煙草專賣法施行細則

第一條 葉煙草專賣法第五條ノ届出ヲ爲ス者ハ第一號ノ書式ニ準シタル書面ヲ所管葉煙草專賣所ニ差出スヘシ

第二條 枯葉蝕損其他不熟葉等ニシテ政府ニ納付スルコト能ハサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄ノ處分ヲ爲スヘシ

第三條 葉煙草新作者生葉ノ收穫ヲ了シタルトキハ直チニ其幹根ヲ拔除スヘシ

第四條 葉煙草ハ總テ左ノ葉分ニ據リ調理スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ當該官吏ノ承認ヲ得テ葉分ヲ增加スルコトヲ得

一 土葉 最下ニアル三四枚

二 中葉 土葉ノ上本葉マテ

三 本葉 中葉ノ上天葉マテ

四 天葉 最上ニアル三四枚

屑葉等ニシテ前項ノ葉分ニ據リ雖キモノハ雜葉トシテ之ヲ調理スヘシ

第五條 聯干ノモノハ各自同尺ノ繩ヲ用井種類葉分毎ニ區分スヘシ

幹干ノモノハ葉ノ採收後種類葉分毎ニ各自一定ノ把ト爲スヘシ

第六條 葉煙草ハ其種類及葉分ニ據リ區別シ其品類、葉莖同等ノモノヲ取揃ヘ成ルヘク一定ノ枚數ヲ以テ一把トシ輕量ノ篋、管、紙等ヲ以テ結束シ凡ソ六貫匁ヲ以テ一包トシ每包ニ種類葉分產地、姓名ヲ標記シ第二號書式ノ納付書ヲ添ヘ所管葉煙草專賣所ニ納付スヘシ但本文ノ量目ニ漏タサルモノハ別ニ結束シ納付スヘシ

包裝ハ蒲、吳座或ハ紙ノ類ヲ用井葉先ヲ内ニシ十字形ニ積重子違路ノ運搬ニ差支ナキ樣堅固ニ結束スヘシ

第七條 左ニ掲ケル如キ調理ノ不充分ナル葉煙草ハ新作者ニ於テ相當ノ調理ヲ施シタル後ニアラサレハ納付スルコトヲ得ス

一 過度ノ濕氣ヲ含ムモノ

一 幹子付又ハ鏈付ト稱シ其餘ノ部分ヲ附著シアルモノ

一 種類、葉分、葉莖、包裝ノ亂雜ナルモノ

第八條 葉煙草專賣法第十條ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ其旨所管葉煙草專賣所ニ申出テ認許ヲ受

クヘシ但貯藏期限四箇月以上ニ添ルモノハ葉煙草ノ種類、葉分毎ニ量目ヲ記載シタル書面ヲ差  
出スヘシ

第九條 葉煙草耕作者葉煙草ヲ輸出ニ供セムトスルトキハ第三號書式ノ書面ニ現品ヲ添へ所管葉  
煙草專賣所ニ差出スヘシ

第十條 前條ニ據リ葉煙草專賣所ニ保管シタル葉煙草ニ調理ヲ加ヘムトスルトキハ調理ノ理由場  
所及日時等ヲ詳記シタル書面ニ保管證ヲ添へ所管葉煙草專賣所ニ差出シ承認ヲ受クヘシ

第十一條 前條葉煙草ノ調理ヲ了シタルトキハ撰府、葉莖等葉煙草ヨリ出テタル一切ノ屑ヲ葉煙  
草ト共ニ所管葉煙草專賣所ニ提供シ其處分ヲ受クヘシ

第十二條 保管葉煙草ヲ輸出セムトスルトキハ其輸出港ヲ指定シテ所管葉煙草專賣所ニ申出テ廻  
送ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ葉煙草輸出港ニ到達シタルトキハ葉煙草專賣法第十七條ノ費用ヲ納付シテ保管證ヲ差出  
シ葉煙草ノ交付ヲ請フヘシ

第十三條 保管證ヲ毀損汚染シタル者ハ所管葉煙草專賣所ニ申出テ保管證ノ交換ヲ求ムルコトヲ  
得

第十四條 保管證ヲ亡失シタル者ハ葉煙草ノ價格ニ相當スル金錢又ハ國債證券ヲ擔保トシテ提供  
シ又ハ葉煙草專賣所ニ於テ相當ト認ムル資産ヲ有スル者二名以上ノ保證人ヲ定メ損害ノ保證ヲ  
爲ストギハ保管葉煙草ノ交付ヲ爲スヘシ

第十五條 收穫ノ葉煙草若クハ認許ヲ受ケタル貯藏葉煙草ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ直  
チニ所管葉煙草專賣所ニ届出ヘシ

第十六條 葉煙草ノ賣渡ヲ請フ者ハ葉煙草ノ名稱、品類、葉分、數量ヲ葉煙草專賣所ニ申出ヘシ

第十七條 葉煙草ハ包裝ノ儘賣渡ヲナシ分割スルコトナシ但標本トシテ賣渡ヲ爲スモノハ此ノ限  
ニアラス

第十八條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ直ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

第十九條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者葉煙草專賣所ノ指定スル金額又ハ之レニ相當スル國債證券  
ヲ擔保トスルトキハ代金ノ延納ヲ請フコトヲ得

第二十條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡契約ノ日ヨリ三日以内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當  
ノ保管料ヲ徴收ス但契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニアラス

### ●葉煙草專賣法ヲ施行セサル地方ニ關スル件

(明治三十年五月勅令第六十九號)

朕葉煙草專賣法ヲ施行セサル地方ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十條ニ依リ左ノ地方ニハ當分ノ内同法ヲ施行セス

一 北海道廳管下國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡、藥取郡

一 東京府管下小笠原島及伊豆七島

一 鹿兒島縣管下大島郡ノ内硫黃島、黑島、竹島、口ノ島、臥蛇島、平島、中ノ島、惡石島、諏訪  
ノ瀨島、寶島、沖永良部島、與論島

一 沖繩縣管下伊平屋島、伊是名島、具志川島、野甫島、久米島 渡嘉敷島、前島、座間味島、阿  
嘉島、慶留間島、久場島、栗國島、渡名喜島、鳥島、多良間島、大神島、水納島、鳩間島、波

照間島、與那國島、大東島、魚釣島

葉煙草再鑑定規程

(明治三十年九月大藏省令第十六號)

葉煙草再鑑定規程

- 第一條 葉煙草專賣法第四條第二項ニ依リ葉煙草ノ品位等級ノ再鑑定ヲ求ムルモノハ鑑定不服ノ要領ヲ具シ所管葉煙草專賣所ニ申出ヘシ
- 第二條 葉煙草專賣所ハ前條再鑑定ノ申出アリタルトキハ二名以上ノ鑑定人ヲシテ之ヲ鑑定セシムヘシ
- 前項ノ鑑定人ハ少クモ其ノ半數ヲ葉煙草專賣所員以外ヨリ選定スルモノトス
- 第三條 再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作り再鑑定申出人ニ交付スヘシ

煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程

(明治三十年九月大藏省令第十七號)

煙草仲買人及葉煙草耕作者葉煙草納付規程

- 第一條 煙草仲買人又ハ葉煙草耕作者ニシテ葉煙草專賣法施行ノ際葉煙草ヲ所持スル者ハ左ノ期限ニ從ヒ所管葉煙草專賣所ニ納付スヘシ但葉煙草耕作者ニシテ此ノ期限ヲ過キ葉煙草ヲ貯藏セントスルトキハ所管葉煙草專賣所ノ認許ヲ受クヘシ
- 一葉煙草仲買人

明治三十一年一月三十一日限

一葉煙草耕作者 明治三十一年三月三十一日限

- 第二條 煙草仲買人及葉煙草耕作者ヨリ納付スル葉煙草ニ對シテハ大藏大臣定ムル所ノ賠償金ヲ交付ス

- 第三條 煙草仲買人及葉煙草耕作者納付葉煙草ノ再鑑定ヲ求ムルトキハ明治三十年大藏省令第十

- 六號ヲ準用ス
- 第四條 葉煙草耕作者ヨリ納付スヘキ葉煙草ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外葉煙草專賣ニ關スル一般ノ規程ヲ準用ス

煙草製造營業者煙草稅現金收納ニ關スル件

(明治三十年三月法律第四十號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル煙草製造營業者煙草稅現金收納ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十一條但書ノ場合ニ於テ煙草製造業者ハ煙草製造高ヲ豫定シ之ニ貼川スヘキ印紙ニ相當スル税金ヲ納付スルコトヲ得其ノ製造高及定價計算方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 前項ノ納金額ハ政府ノ認許ヲ得テ之ヲ分納スルコトヲ得但明治三十一年六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

前二項ニ依レル納稅濟ノ煙草ニ對シテハ明治二十一年勅令第二十號煙草稅則ヲ適用セス

附 則





第十一條 (同上法律ニテ本條削除セラル)

第十二條 (同上)

第十三條 第八條ノ組合ニ加入セスシテ水産物ノ營業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス

第十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條 水産稅ノ納期及稅則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則

第十六條 従前現品定稅ヲ徵收シ又ハ現品稅ヲ徵收セス若クハ無稅ニシテ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ產出高詳カナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現產出高ニ就キ第六條ノ稅品拂下平均代價ヲ以テ價格ヲ定メ其百分ノ五ヲ稅金トシテ徵收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シタル上ハ大藏大臣ニ於テ本稅則ニ據リ改正スヘシ

第十七條 前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ稅金ニ係ル事項ヲ除クノ外總テ此稅則ニ從フヘシ

第十八條 第十六條ノ營業人ニシテ其水産物ノ產出高ヲ偽リ通稅シタル者ハ其通稅高三倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徴ス但自首スル者其稅金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第十九條 明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及従前北海道物産稅ニ關スル命令規則ハ此稅則施行ノ日ヨリ廢止ス

北海道水産稅則施行細則

(明治二十五年六月大藏省令第六號)

明治二十年(四月)大藏省令第六號北海道水産稅則施行細則左ノ通改正ス

北海道水産稅則施行細則

第一條 水産稅ノ納期及其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ毎納期ノ納額割合ヲ繰上ケ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

渡島國(函館區龜田郡ヲ除ク)、後志國、石狩國(石狩郡ヲ除ク)、天鹽國、北見國

第一期 六月一日ヨリ六月三十日限リ 百分ノ四十

但北海道廳長官ハ各地方漁業ノ期節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ本項ノ納期ヲ七月三十一

日マテ繰下クルコトヲ得此場合ニ於テハ其事由ヲ具シ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二期 八月一日ヨリ八月三十一日限リ 百分ノ四十

第三期 十月一日ヨリ十月三十一日限リ 百分ノ七

第四期 十二月一日ヨリ十二月二十八日限リ 百分ノ七

第五期 翌年三月一日ヨリ同年三月三十一日限リ 百分ノ六

膽振國、日高國、十勝國、釧路國、根室國、千島國、石狩國(石狩郡)、渡島國(函館區龜田郡)

第一期 六月一日ヨリ六月三十日限リ 百分ノ五

第二期 八月一日ヨリ八月三十一日限リ 百分ノ二十

第三期 十月一日ヨリ十月三十一日限り

百分ノ二十五

第四期 十二月一日ヨリ十二月二十八日限り

百分ノ二十五

第五期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限り

百分ノ二十五

第二條 納稅委員ハ毎年水産物毎種類産出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ産出ノ水産物總高尙價格ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戸長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ツヘシ但其産出ノ季節ヲ限ラサルモノハ前半年分ヲ其年八月ニ後半年分ヲ翌年二月ニ取調ヘ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 水産物ノ總高取調ニ關シ水産物營業人ニ於テ其水産物産出高及價格ヲ偽リ又ハ納稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス但産出高及價格ヲ偽リタルモノ自首スルトキハ其罪ヲ問ハス

第四條 北海道廳長官ハ必要アリト認ムルトキハ各組合水産物産出高尙價格届出ノ正否及稅金賦課徵收方法等ノ實況ヲ検査スルコトアルヘシ

製茶稅則 (明治二十九年十月律令第九號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル製茶稅則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

製茶稅則

第一條 凡ソ製茶ヲ業トスル者ハ此稅則ニ從ヒ製茶稅ヲ納ムヘシ

第二條 製茶稅率ハ製茶百斤ニ付金二圓四十錢トス

第三條 製茶業者ハ製茶ヲ販賣若ハ運搬スル以前ニ於テ納稅検査所ニ到リ現品ノ検査ヲ受ケ前條ノ製茶稅ヲ納付シ其納濟證書ヲ申受クヘシ

製茶ヲ貨渡シ又ハ買入書入若ハ讓與スルトキ亦同シ

第四條 製茶ヲ運搬スルトキハ納濟證書ヲ現品ニ添付シ租稅検査所ノ検査ヲ受ケ其ノ納濟證書ハ最後ノ検査所ニ納付ス

第五條 製茶業者若ハ製茶ノ仲買運送等ヲ營業トスル者ノ家屋倉庫其ノ他ノ場所及營業ニ關スル簿書物品ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ

第六條 第三條ヲ犯シタルトキハ當事者雙方ヲ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ尙現在ノ製茶ヲ沒收ス但賣渡シタル場合ニ於テハ其代金ヲ追徵ス

第七條 第四條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本稅則施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第九條 製茶業者ニ於テ此稅則施行以前ヨリ持越シタル製茶ニ對シテモ仍此稅則ヲ適用ス

第十條 本稅則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

樟腦油稅則 (明治三十年八月律令第九號)

臺灣總督ハ茲ニ緊急ノ必要アリト認メ明治二十九年法律第六十三號第三條ニ依リ樟腦油稅則ヲ發布ス

樟腦油稅則

第一條 樟腦油製造營業者ハ樟腦油百斤ニ付金三圓ノ製造稅ヲ納ムヘシ

第二條 納稅未済ノ樟腦油ト樟腦トヲ混和シ又ハ納稅未済ノ樟腦ト樟腦油トヲ混和シタルトキハ

全數量ニ對シ樟腦稅ヲ課ス

第三條 樟腦油ノ營業及取締ニ關シテハ明治二十九年日令第十二號ヲ適用ス但樟腦ノ營業又ハ仕入、出賣鑑札ヲ受ケタル者ニアラサレハ樟腦油ノ營業又ハ仕入、出賣ヲ爲スコトヲ許サス

附 則

第四條 此規則ハ明治三十年九月一日ヨリ施行ス

第五條 樟腦製造營業者又ハ樟腦油ノ仲買者ハ搬出營業者ニ於テ此規則施行以前ヨリ持越シタル樟腦油ニ對シテモ仍稅則ヲ適用ス

樟腦油稅則施行規則 (明治三十年九月臺灣總督府令第四十號)

樟腦油稅則施行規則左ノ通相定ム

樟腦油稅則施行規則

第一條 樟腦油營業者ハ樟腦營業場以外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 樟腦稅則ニ依リ鑑札ヲ受ケタル者ハ樟腦油營業鑑札ヲ受ケルニ及ハス

第三條 樟腦稅則施行細則第二條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十二條ノ規定ハ樟腦油營業者ニモ之ヲ適用ス

第四條 第一條ニ違背シタル者又ハ帳簿及送狀ノ保存ヲ爲サス及帳簿ノ調製記載ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 營業ノ帳簿ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ若ハ故ラニ記載ヲ爲ササル者ハ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

契稅規則 (明治三十年三月律令第四號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル契稅規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

契稅規則

第一條 土地建物ノ買受人買入人ハ土地建物所在地ヲ管轄スル地方廳ニ届出テ左ノ稅率ニ從テ納稅シ契尾ヲ受ケヘシ

一 買買ハ其代價百分ノ三

一 買ハ債務金額百分ノ一

第二條 土地建物ヲ買受買入シテ届出ヲ爲サス又ハ買受代價及質債務金額ヲ偽リ脫稅シタル者ハ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第三條 此規則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、敝罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四條 此規則ノ施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

契稅規則施行細則 (明治三十年三月臺灣總督府令第九號)

契稅規則施行細則左ノ通相定ム

契稅規則施行細則

第一條 契稅規則第一條ノ屆書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

第二條 契稅規則第一條ノ屆書ヲ送附トキハ左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 賣買又ハ買入契約書

二 賣渡人又ハ買入人ノ所有タルコトヲ證明スヘキ書類

前項提出書類ハ契尾ト共ニ之ヲ差出人ニ還付ス

第三條 行政官廳ノ公賣處分又ハ裁判執行上ノ羅賣等ニ依リ土地建物ノ所有權ヲ得タルトキハ落札達書又ハ命令書ヲ提出スヘシ

第四條 官有ノ土地建物ノ拂下ヲ受ケタルトキハ其指令又ハ達書若ハ契約書ヲ提出スヘシ

第五條 地方廳ニ於テ賣買價格買入債務金額其他ニ關シ實地調査ノ必要アリト認ムルトキハ關係人ヲ立會セシメ實地調査ヲ爲スコトアルヘシ (書式畧之)

臺灣地租規則 (明治二十九年八月律令第五號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣地租規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣地租規則

第一條 地租ハ舊價ニ依リ明治二十九年ヨリ之ヲ徵收ス

第二條 地租ヲ遁脱シタル者ハ其租額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第三條 本規則ノ施行細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

臺灣地租規則施行細則

(明治二十九年八月臺灣總督府令第二十八號)

明治二十九年(八月)律令第五號ニ依リ臺灣地租規則施行細則左ノ通り定ム

臺灣地租規則施行細則

第一條 田園ノ地租ハ從來ノ規則ニ依リ毎甲錢糧ヲ以テ一箇年ノ定率トス

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ依リテ増減セス

第三條 地租ハ小租戸ヨリ徵收ス

第四條 地方官ハ左ニ定ムル期限内ニ於テ適宜納期ヲ限定シ之ヲ告示スヘシ

一前期 其年七月一日ヨリ其年九月三十日マテ 其年分半額

一後期 其十二月一日ヨリ翌年二月末日マテ 殘半額

地方ノ狀況ニ依リ本項期限ノ變更ヲ要スルトキハ總督ノ指揮ヲ請フヘシ

第五條 田園ノ地盤丈量ハ魯班尺一丈二尺五寸ヲ戈トシ方二十五戈ヲ一甲トス

第六條 田園ノ等級ハ地味ノ沃瘠耕耘ノ難易水利運輸ノ便否等ヲ審査シ尙其土地ノ情況ニ應シテ之ヲ定ム

第七條 開墾成功シタルトキハ第一號書式ニ依リ賦租願書ヲ差出スヘシ但明治三十年(三月)律令

第三號ニ該當スルモノハ此限ニアラス (明治三十年七月臺灣總督府令第三十六號ヲ以テ本條全文ヲ改ム)

開墾成功地ノ地租ハ其年六月三十日以前ニ成功シタルモノハ全年分ヲ其七月一日以後ニ係ルモノハ半年分ヲ徵收ス但前項但書ノ場合ハ免租年期滿限ノ翌年分ヨリ徵收ス

第八條 田園ノ鐵道用地道路敷地其他官有地トナリ又ハ官有地其他免租地ノ有租地トナリタルトキハ第二號書式ニ準シ賦除租願書ヲ差出スヘシ(同上)

前項地租ハ其年六月三十日以前許可又ハ命令ヲ受ケタルモノハ全年分ヲ其七月一日以後ニ係ル

モノハ半年分チ收除ス

第九條 地租ヲ定メ又ハ地租ヲ減免スルトキハ其地目甲敷及實地ノ現形ヲ畫キ四至ヲ詳記シ之ヲ願書ニ添附スヘシ

第十條 納租人他ノ管轄ニ住居スルトキハ田園所在地ヘ納租代理人ヲ定メ第三號書式ニ依リ雙方連署ノ書面ヲ差出スヘシ

第十一條 田園ヲ賣買讓與シタルトキハ第四號書式ニ依リ納租人ノ異動訂正ヲ届出ツヘシ  
(書式略之)

### 臺灣地租稅率換算方ニ關スル件

(明治二十九年七月臺灣總督府令第二十三號)

地租官租等ノ稅率ニシテ庫平兩ヲ以テ定マレルモノハ庫平一兩ニ付一圓五十三錢八厘ノ割合ヲ以テ換算スヘシ

### 臺灣私設鐵道用地地租免除規則

(明治三十年七月律令第七號)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣私設鐵道用地地租免除規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス  
鐵道用地地租免除規則

第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ敷設スル鐵道用地ハ其地租ヲ免除ス

第二條 左ニ掲クルモノヲ以テ鐵道用地トス

- 第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應ジテ定ムルモノトス
- 第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地
- 第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地
- 第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

### 鹿兒嶋縣管下大島及川邊兩郡各嶋地租

徵收期限 (明治三十年三月法律第五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鹿兒嶋縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地租徵收期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鹿兒嶋縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス

大隅國大島郡ノ内大島、徳ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島

翌年五月一日ヨリ同三十一日限

薩摩國川邊郡ノ内硫黃島、竹島、黒島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀨島、臥蛇島、黒石島、寶島

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限

### 震災地方租稅特別處分法 (明治三十年三月法律第二十二號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル震災地方租稅特別處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ秋田縣巖手縣ニ限リ明治二十九年八月三十一日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源溜湯水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十九年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其ノ餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十九年ヨリ十箇年以内七割以下ノ低價年額ヲ付與スルコトヲ得

第四條 市街ニ準スヘキ部落ニシテ過半ノ家屋壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キモノハ其ノ實況ニ依リ明治二十九年ヨリ七箇年以内七割以下ノ低價年額ヲ其ノ地ノ宅地ニ付與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年額期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受ケタルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十九年分地租未納金ハ明治三十年ヨリ三箇年以内延納ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ延納ニ係ル地租ハ年賦納付ヲ許可スルコトヲ得

第七條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第八條 菓子賣藥ノ營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若ハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ菓子製造稅ハ明治二十九年分未納稅金賣藥營業稅ハ明治三十年前半年分ノ稅金ニ限リ減免スルコトヲ得

租

トヲ得

第九條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十年七月三十一日迄ニ申出ツヘシ若此ノ期限内ニ申出テサル者ハ本法ノ處分ヲ受ケルコトヲ得ス

賣藥印紙稅規則

(明治十五年十月第五十一號布告)

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

- 一 定價一錢迄 印稅一厘
- 一 同 二錢迄 同 二厘
- 一 同 三錢迄 同 三厘
- 一 同 五錢迄 同 五厘
- 一 同 十錢迄 同 一錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

- 一 一厘 淡黑色

一百 稅

二	匣	青	色
三	匣	黃	色
五	匣	茶	褐色
一	錢	赭	色
二	錢	綠	色
三	錢	濃	青色
四	錢	橙	黃色
五	錢	紫	色
十	錢	深	紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ニ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若ハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若ハ之ヲ販賣シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

(印紙貼用ノ雛形ハ之ヲ略ス)

### 賣藥印紙交換規則

(明治十九年七月大藏省令第二十三號)

賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性价ヲ失シタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口十圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ

一 既貼印紙十圓以上一圓ニ付 交換新印紙 八十錢

一 二十圓以上一圓ニ付 同 八十五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ検査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

### 無印紙ノ賣藥自用者買受讓受等ノ禁令

(明治十九年十月大藏省令第三十一號)



賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ譲受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス扱ス者ハ金一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

◎證券印稅規則 (明治十七年五月第十一號布告)

明治七年(七月)第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス  
但明治八年(七月)第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ  
第二條 證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

- 左ニ掲ケル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ  
但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得
- 一 當座預リ金引出小切手 印稅五 厘
  - 一 委任狀 同 五 厘
  - 一 金高記載ナキ約定證文 同 一 錢
  - 一 遺金、物證文 同 一 錢
  - 一 跡式證文 同 一 錢
  - 一 圖與證文 同 一 錢

- 一 期限ヲ定メサル預リ金證文 同 一 錢
- 一 耕地小作證文 同 一 錢
- 一 雇人請合狀 同 一 錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ證文 同 一 錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用證文 同 一 錢
- 一 地所家屋預リ證文 同 一 錢
- 一 諸物品切手 同 一 錢
- 一 借地借家證文 同 一 錢
- 一 賣買仕切書 同 一 錢
- 一 保險證文 同 一 錢
- 一 諸會社株券 同 一 錢
- 一 送金手形 同 一 錢
- 一 金錢、諸物品通帳 一年以内一冊ニ付 同 一 錢
- 一 金錢、諸物品判取帳同 同 二十 錢
- 一 結社約定書 同 一 錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ功カヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ  
左ニ掲ケル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一 醫藥ニ關スル送狀

印稅一 錢

一營業ニ關スル請取書

同 一 錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付一錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ爲替手形  
約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文

一地所、家屋賣買證文

一金高記載アル諸物品預リ證文

一金高記載アル諸物品借用證文

一諸物品賣買證文

一金錢定期預リ證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書

金高一圓以上二十圓未滿

印稅一 錢

金高二十圓以上五十圓未滿

同 三 錢

金高五十圓以上百圓未滿

同 四 錢

金高百圓以上百五十圓未滿

同 六 錢

金高百五十圓以上二百圓未滿

同 八 錢

金高二百圓以上三百圓未滿

同 十 一 錢

金高三百圓以上四百圓未滿

同 十 四 錢

金高四百圓以上六百圓未滿

同 二十 錢

金高六百圓以上八百圓未滿

同 二十六 錢

金高八百圓以上千圓未滿

同 三十二 錢

金高千圓以上千四百圓未滿

同 三十八 錢

金高千四百圓以上千七百圓未滿

同 四十四 錢

金高千七百圓以上二千圓未滿

同 五十 錢

金高二千圓以上二千五百圓未滿

同 六十 錢

金高二千五百圓以上三千圓未滿

同 七十 錢

金高三千圓以上三千五百圓未滿

同 八十 錢

金高三千五百圓以上四千圓未滿

同 九十 錢

金高四千圓以上

同 一 圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅四 錢

一金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ證文

一貨物(預リ書、小札)

金高一圓以上二十圓未滿

印稅一 錢

金高二十圓以上

同 二 錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿 印稅二 錢  
金高百圓以上 同 四 錢

一爲替手形

一荷爲替手形

一約束手形

金高五十圓未滿 印稅一 錢

金高五十圓以上百圓未滿 同 二 錢

金高百圓以上二百圓未滿 同 四 錢

金高二百圓以上五百圓未滿 同 八 錢

金高五百圓以上千圓未滿 同 十五 錢

金高千圓以上二千圓未滿 同 二十五 錢

金高二千圓以上 同 五十 錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト效用ヲ同ブスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條 印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クゴトヲ得ス

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ検査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一官吏准官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ納入ヘ差出ス請取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書(明治二十三年法律第三十號ヲ以テ本項追加)

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官検査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡タルトキハ更ニ紙數ヲ増加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ内國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト效用ヲ異ニスルモノ若クハ金高二増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ルモノハ處罰ヲ受ケル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請入證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ検査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

二處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

印紙類賣下賣捌規則 (明治二十三年十一月勅令第二百七十一號)

朕印紙類賣下賣捌規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙類賣下賣捌規則

第一條 此規則ニ依リ賣下又ハ賣捌ヲ爲スヘキ印紙類ハ左ノ如シ

證券印紙(手形用紙共)

煙草印紙

訴訟用印紙

賣藥印紙

登記印紙

第二條 各府縣ニ左ノ印紙類賣捌人ヲ置ク

元賣捌人

府縣廳ヨリ印紙類ヲ拂受ク之ヲ其管内ニ於ケル賣捌人ニ賣渡スモノトス

賣捌人

元賣辦人ヨリ印紙類ヲ買受ケ之ヲ各需用者ニ賣捌クモノトス  
第三條 賣捌人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ許可スヘシ但本條第三ニ該當スル者ハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ許可スルモノトス

- 一 陸海軍人其他公務ノ爲メニ受ケタル傷痕又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受ケル者
- 二 法律ニ依リ扶助料ヲ受ケル者
- 三 一般人民

第四條 印紙類賣捌ヲ爲サントスル者ハ府縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第五條 煙草營業人若ハ其家族又ハ同居ノ者ニハ煙草印紙、賣藥營業者請賣者行商者若ハ其家族又ハ同居ノ者ニハ賣藥印紙ノ元賣捌及ヒ賣捌ヲ許可セス

第六條 印紙類ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七以内ノ割引ヲ爲スヘシ

第七條 印紙類ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ

印紙類ノ賣下代金一回二千圓以上ハ公債證書ヲ抵當ト爲シ六箇月以内ノ延納ヲ許スコトヲ得

第八條 元賣捌人及賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ印紙類額面ニ對シ百分ノ十以内ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得但交換印紙ハ十錢以上取纏メタルモノニ限ル

- 一 印紙類損傷又ハ汚染シタルトキ
  - 一 印紙不用ニ歸シタルトキ
- 第九條 印紙類賣捌ノ許可ヲ得タル者左ノ事項ニ該ルトキハ其效ヲ失フモノトス
- 一 恩給若ハ扶助料ヲ受ケル者其權利消滅若ハ停止セラレタルトキ
  - 一 賣捌區域外ニ移住スルトキ

第十條 印紙類ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

印紙類ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第十一條 元賣捌人及賣捌人ノ配置並ニ第六條第八條ノ割引率合其他此規則ニ關スル施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 此規則ハ府縣知事地方ノ實況ヲ量リ大藏大臣ノ認可ヲ經テ明治二十四年一月一日ヨリ漸次之ヲ施行スヘシ

第十三條 此規則中印紙類ノ割引ニ關スル條項ハ此規則ノ施行ニ拘ハラズ來ル明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

第十四條 明治十九年六月大藏省令第二十一號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條 此規則ハ北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ之ヲ施行セス

●印紙類賣下賣捌施行細則

(明治二十三年十一月大藏省令第三十四號)

明治二十三年十一月勅令第二百七十一號印紙類賣下賣捌規則施行細則左ノ通り相定ム

印紙類賣下賣捌施行細則  
第一條 元賣捌人ハ本店ヲ府縣廳所在ノ地ニ置キ各間稅分署所轄内ニ支店又ハ代理店ヲ設クヘシ賣捌人ハ各間稅分署所轄内チ一區若クハ數區トシ其區内ノ地勢商業等ノ實況ニ應シ府縣知事適

宜其人員ヲ定ムヘシ(明治二十六年大藏省令第二十四號ヲ以テ本項中一區トアル下ニ若クハ數區ノ五字ヲ加フ)

第二條 印紙類ハ額面ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下ケ又ハ賣渡スモノトス

一 間稅署ヨリ賣捌人ニ賣下クルトキ(登記印紙 百分ノ六、其他ノ印紙 百分ノ七)

一 一元賣捌人ヨリ賣捌人ニ賣渡ストキ(登記印紙 百分ノ四、其他ノ印紙百分ノ五)

第三條 規則第八條ノ割引步合ハ額面ニ對シテ左ノ如シ

一 賣捌人ヨリ賣捌人ニ請求スルトキ(登記印紙 百分ノ九、其他ノ印紙 百分ノ十)

一 一元賣捌人ヨリ間稅署ニ請求スルトキ(登記印紙 百分ノ八、其他ノ印紙 百分ノ九)

印紙類ノ交換又ハ買戻ヲ請求セントスルトキハ賣捌人ハ一元賣捌人ニ元賣捌人ハ間稅署ニ申出ヘシ

第四條 規則第七條ノ公債證書ハ有利息ノモノニ限リ其抵當價格ハ明治二十三年勅令第四號第三條ニ依ル

第五條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ各免許賣捌所ノ標札ヲ調製シ戶外ニ掲出スヘシ(明治二十四年大藏省令第三號ヲ以テ本條改正)

第六條 規則第九條ノ場合ニ於テハ總テ廢業ノ取扱ニ依ルヘシ

第七條 印紙類元賣捌人及ヒ賣捌人ハ印紙類受拂帳簿ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其種類員數及ヒ年月日ヲ記載スヘシ但賣捌人ニ於テ煙草印紙賣捌印紙ヲ賣捌キタルトキハ買受人ノ住所氏名ヲモ記載シ置クヘシ

附 則

第八條 印紙類賣下賣捌規則施行ノ前日ニ現在スル印紙類賣捌人ハ更ニ願出ツルヲ要セス將來該規則ニ從ヒ繼續賣捌ヲ爲スコトヲ得

取引所稅法 (明治二十六年三月法律第六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル取引所稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所稅法

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、有價證券 賣買各約定代金高 萬分ノ六箇

一 國債及地方債證券 同 萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管廳ニ届出ヘシ

取引所稅額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所稅金ハ每一箇月分ヲ翌二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脫稅ヲ圖リ又ハ脫稅シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一圓以上一圓九十九錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弁ス  
附 則  
第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

國稅徵收法 (明治三十年三月法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國稅徵收法

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノノ外總テ此ノ法律ニ依ル  
第二條 國稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス  
第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス  
第四條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ニ因リ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得但納稅人タル會社方解散ヲ爲シタルトキ亦同シ  
納稅人他ノ公課ニ付滯納處分ヲ受ケタルニ因リ國稅ノ徵收ヲ爲ストキハ國稅ハ其ノ滯納處分費ニ對シテ先取セサルモノトス  
第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ク地租及勅令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徵收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス  
前項地租徵收ノ費用ハ其ノ市町村ノ負擔トシ其ノ他ノ國稅ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

第六條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間税金ノ徵收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避ケヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得  
前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審查シ其ノ免除ヲ爲スコトヲ得  
第三章 滯納處分

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手数料ヲ徵收ス

第十條 滯納者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ督促手数料及税金ヲ完納セサルトキハ其ノ財産ヲ差押フヘシ

第十一條 收稅官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ滯納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務價額ニ充テ殘

餘ヲ得ル見込ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ實却決行ノ五日前マテニ所有者タルノ證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲ケル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
  - 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
  - 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
  - 四 祭祀禮拜ニ必要ナル認ムル物及石碑、墓地
  - 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
  - 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
  - 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
  - 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
  - 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ
- 第十七條 左ニ掲ケル物件ハ他ニ滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納

者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

- 一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料
- 二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケララルコトナシ

第二十條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財産ヲ占有スル第三者其ノ財産ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及筐匣ニ滯納者ノ財産ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲ爲ストキハ滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家屋雇人ヲ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戶長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十二條 通貨、地金銀、有價證券ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ封印シテ其ノ地ノ市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戶長)ニ保管セシムヘシ

前項ニ掲ケサル物件ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏封印シテ之ヲ保管スヘシ但不動產又ハ運搬ヲ爲スニ付困難ナル物件ヲ差押ヘタルトキハ其ノ保管ヲ滯納者又ハ第三者ニ命スルコトヲ得



第二十三條 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

債務者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ收税官吏ニ對シテ滞納處分費及税金額ヲ限トシ自己ノ債務ヲ支拂フノ義務ヲ有ス其ノ義務ノ消滅セサル前ニ滞納者ニ對シテ爲シタル支拂ハ無効トス

第二十四條 差押ヘタル有體動産及不動産ハ公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受望人ナキカ又ハ其ノ價額見積價額ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上ルコトアルヘシ

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ價フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トナ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滞納處分費ハ督促手数料、財産ノ差押、保管、運搬及公賣ニ關スル費用、通信費及訴訟費用トス

滞納處分ヲ中止シタル場合ニ於テモ之ニ要シタル處分費用ハ仍之ヲ徵收ス

滞納處分費ハ國稅及第三條ノ債權ニ對シテモ之ヲ先取ス

第二十八條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費及税金ニ充テ仍殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件買入書入ト爲シタルモノナルトキハ其ノ代金ヨリ先ツ處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ負債金額ニ充ルマテテ債主ニ交付シ仍殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ但第三條ニ掲ケタル買入書入ノ物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ滞納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ負債金額ニ充ツ

ルマテテ債主ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ仍殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第二十九條 會社ニ對シ滞納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財産ヲ以テ滞納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住居又ハ事務所ニ送達スルモノトス

名宛人ノ住居又ハ事務所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ住居若ハ事務所不明ナルトキハ通知ノ趣旨ヲ公告シ五日ヲ過クルトキハ其ノ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第三十一條 直接國稅滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分ノ結了ヲ以テ終ル滞納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

間接國稅ニ付テハ滞納處分結了スルモ滞納處分費及税金ノ完納ニ至ラサルトキハ納期限後一箇年間ハ隨時其ノ不足額ヲ徵收ス滞納處分ノ執行ヲ止メタルトキ亦同シ

第四章 罰則

第三十二條 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ故意ニ毀損シタルトキ亦同シ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニ施行セス

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎國稅徵收法施行規則 (明治三十年六月勅令第二百二十一號)

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法施行規則

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第二條 各市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏其ノ金額ヲ調査シ之ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第四條 市町村ニ於テ稅金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ノ領收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第六條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ遲滯ナク漸次之ヲ金庫ニ送付シ遲クトモ納期後三日ヲ過

クルコトヲカルヘシ

第七條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申出ヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ地方長官事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條 市町村ハ納期內ニ稅金ノ徵收ヲ了ラサルモノアルトキハ納期後五日以内ニ其ノ滯納者ノ住所氏名及滯納ノ金額等ヲ收稅官吏ニ報告スヘシ

第九條 納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納稅人タル會社方解散ヲ爲シタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ左

- ニ掲クルモノハ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但納期ニ到リ納稅ニ妨ナシト認ムルモノハ此ノ限ニアラス
- 一 納稅告知書ヲ發シタル諸稅
- 二 造石敷查定濟ノ酒類混成酒並醬油ノ造石稅
- 三 當該年分ノ自家用酒製造稅

第十條 國稅ノ滯納ニ因リ其ノ滯納處分ヲ執行スルニ際シ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスル場合ニハ收稅官吏ハ滯納處分費滯納稅金ト共ニ之ヲ徵收スヘシ

前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ滯納者ニ告知スヘシ

第十一條 納稅人他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ強制執行若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ納稅人タル會社方解散ヲ爲シタル場合ニ於テ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ第三十八條第三十九條第四十條ニ準シテ其ノ稅金ノ交付ヲ求ム

へシ

前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ納稅人ニ告知スヘシ

第十二條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ一通毎ニ金五錢ヲ徵收ス

第十三條 收稅官吏滯納者ノ財產差押ヲ爲ストキハ滯納處分費及税金ニ充ツル金額ヲ限度トシ徵收ニ便利ナリト認ムル財產差押フヘシ

第十四條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產差押フルトキハ收稅官吏ハ滯納處分費及税金額等ヲ示シ之ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十五條 國稅徵收法第三條ニ依リ國稅ノ徵收ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前條ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證據書類ヲ添付シテ其ノ事實ヲ證明スヘシ

前項ノ場合ニ於テ提出スヘキ公正證書ハ官吏又ハ公吏其ノ職權ヲ以テ調製シタルモノトス

第十六條 債權差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ債務者ニ通知シ滯納處分費及税金ニ相當スル金額ヲ債務辨濟ノ時期ニ納付スルコトヲ求ムヘシ

第十七條 天然及法定ノ果實ヲ生スヘキ財產差押ヘタルトキ第三者ヨリ果實ノ引渡又ハ仕拂ヲ受ケヘキ場合ニハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ第三者ニ通知スヘシ

第十八條 民事訴訟法ニ依レル假差押ヲ受ケタル財產差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏者ハ強制管理人ニ通知スヘシ

第十九條 差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ノ收稅官吏ニ滯納

處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二十條 差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第二十一條 國稅徵收法第二十九條ニ依リ無限責任社員ニ就キ滯納處分ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ無限責任社員ノ一人ニ對シ又ハ同時若ハ順次ニ總員ニ對シ之ヲ執行スヘシ

第二十二條 數人共同ノ所有物件又ハ事業ニ係ル税金ノ滯納ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自ノ負擔ニ屬スル金額ニ就キ滯納處分ヲ爲スヘシ但數人連帶シテ納稅義務ヲ負擔スル場合ニハ前條ノ例ニ依ル

第二十三條 收稅官吏財產差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ滯納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產差押ヲ解クヘシ

第二十四條 收稅官吏財產差押ヘタルトキハ差押調書ニ通テ調製シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

前項差押調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 差押財產ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項
- 三 差押ノ事由
- 四 調書ヲ作リタル場所年月日

第二十五條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ登記ヲ

受クヘシ

第二十六條 差押ヘタル財産ヲ公賣セムトスルトキハ三日以上差押財産所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戸長役場ノ揭示場ニ公告スヘシ

前項公告ノ外仍必要ト認ムルトキハ便宜地ノ場所若ハ新聞紙ニ公告スヘシ

第二十七條 財産公賣ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滞納者ノ住所氏名

二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情並所在ヲ明ニスル事項

三 入札又ハ競賣ノ場所、日時

四 開札ノ場所、日時

五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

六 代金納付ノ期限

第二十八條 國稅徵收法第二十五條ニ依リ隨意契約ヲ以テ差押財産ヲ賣却セムトスルトキハ見積價格ヲ示シテ豫メ其ノ旨ヲ滞納者ニ通知スヘシ

第二十九條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十條 差押財産ヲ公賣スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ滞納處分費ニ充テ仍殘餘アレハ政府府ノ所得トス

第三十一條 公賣ハ差押財産所在ノ市區町村內ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收稅官吏必要ト認ムルトキ

ハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第二十八條ノ賣却ニ關シテモ之ヲ適用ス

第三十二條 公賣ハ公告ノ翌日ヨリ少クトモ十日ノ期限ヲ過キ之ヲ執行スヘシ但其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ恐れアルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 差押財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ニ於テ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十四條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 差押財産ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキトキ又ハ見積價格以上ノ入札人ナキトキハ更ニ公告シテ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第三十六條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ賣買ハ無効トシ收稅官吏公告シテ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第三十七條 前二條ニ依リ再度ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第三十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得  
第三十八條 國稅ノ滞納者他ノ公課ノ爲メ滞納處分ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ滞納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滞納處分費及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ他ノ公課ニ係ル滞納處分ヲ執行スル官廳又ハ公共團體ニ滞納處分費及税金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第三十九條 國稅ノ滯納者他ノ債務ノ爲メ強制執行ヲ受ケ其ノ財産ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財産ナキカ又ハ差押フヘキ財産アルモ滯納處分費及税金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ滯納處分費及税金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十條 滯納者破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ滯納者タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキハ收稅官吏ハ破産主任官又ハ清算人ニ滯納處分費及税金ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十一條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第四十二條 國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ債權者ニ交付スヘキ金額ハ計算書ヲ滯納者ニ交付シタル日ヨリ五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ

第四十三條 滯納處分ニ關スル書類ノ送達ハ使丁又ハ書留郵便ヲ以テスヘシ

第四十四條 國稅徵收法第三十條第二項ノ公告ハ名宛人ノ住所又ハ事務所所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戸長役場ノ揭示場ニ三日以上揭示シ仍必要アリト認ムルトキハ新聞紙ニ公告スヘシ

附 則

第四十五條 市制町村制ヲ施行セサル地方(稅務署所在地ヲ除ク)ノ戸長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅(酒類造石稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第四十六條 北海道水產稅ハ水產物營業人組合ニ於テ徵收シ之ヲ金庫ニ送付スヘシ  
第四十七條 前二條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戸長若ハ水產物營業人組合ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ之ヲ稅務署收稅官吏ニ報告スヘシ

● 沖繩縣小笠原島伊豆七島

國稅徵收方 (明治二十二年十二月勅令第四百一十一號)

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條 納稅人ハ税金(沖繩縣酒類出港稅ヲ除ク)ヲ金庫ニ拂込ミ其領收證ヲ受ケヘシ(明治二十七年法律第十八號ヲ以テ本條改正)

第二條 國稅品ハ納稅人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

● 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ

關スル件 (明治三十年六月勅令第九十五號)

朕市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ

- 一 所得稅
- 二 營業稅
- 三 自家用酒稅
- 四 賣藥營業稅

附 則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

### 租 稅 條 例

## 第四類 通信

### ● 郵便條例

(明治十五年十二月第五十九號布告)

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

(別冊)

郵便條例目次

- 第一章 郵便物
- 第二章 郵便稅
- 第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙
- 第四章 免稅郵便
- 第五章 書留郵便
- 第六章 郵便物遞送配達
- 第七章 別配達郵便
- 第八章 郵便私書函
- 第九章 留置郵便
- 第十章 貨幣封入郵便
- 第十一章 郵便沒書
- 第十二章 郵便爲替

第十三章 「郵便局」貯金

第十四章 外國郵便

第十五章 罰則

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ五種ト爲ス(明治二十八年法律第十八號ヲ以テ四種ヲ五種ニ改ム)

一 書狀

二 郵便葉書及往復葉書(明治十七年第三十三號布告ヲ以テ「及」以下五字ヲ加フ)

三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、罌紙、營業品ノ見本及雛形(明治二十八年法律第十八號ヲ以テ本項改正)

五 農産物種子(明治二十八年法律第十八號ヲ以テ追加)

第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ牴觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條 二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一 截斷又ハ破却シタルモノ

一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一 紙(配達又ハ返戻ノ爲ニスルモノヲ除ク)其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一 一葉ヲ折り之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ

第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ「郵便總官」ノ認可ヲ受ケ「郵便局」

認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重

量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條 第三種第四種第五種郵便物ハ封緘セサルモノトス(明治二十八年法律第十八號ヲ以テ第

五種ノ三字ヲ加フ)

第八條 第三種第四種第五種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナス

ヘシ(同上)

第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條 營業者ニアラサルモノノ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條 異種ノ郵便物ヲ合装スル時ハ總テ其種類中高額税ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四

條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種第五種郵便物(營業品ノ見本及雛形ヲ除ク)ハ一箇ノ重量三百目ニ超過ス

ヘカラス(同上)

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一箇ノ重量百匁ニ超過スヘカラス(明治二十二年法律第二十一

號ヲ以テ本條改正)

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一 毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品 (明治十九年第四號布告ヲ以テ第一項ヲ分テ本項及次項ノ二項トス)

一流動物、流動腐敗シ易キ物、變化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ「郵便局」若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便

ニ差出スモノハ此限ニアラス

一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫真及物品

一金銀寶玉

一 貨幣

但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便稅

第十七條 郵便稅ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム (明治十七年第三十三號布告ヲ以テ第二項ヲ改正シ同二十二年法律第廿一號ヲ以テ第三第四ノ兩項ヲ改正シ同二十八年法律第十八號ヲ以テ第五號ヲ追加ス)

第一種郵便物 重量二匁毎ニ(二匁未滿亦同シ)

第二種郵便物

葉書一葉

往復葉書一葉

第三種郵便物

一號一箇重量十六匁毎ニ(十六匁未滿亦同シ)

二號又ハ二箇以上一束重量十六匁毎ニ(十六匁未滿亦同シ)

第四種郵便物

重量三十匁毎ニ(三十匁未滿亦同シ)

第五種郵便物

重量三十匁毎ニ(三十匁未滿亦同シ)

第十八條 郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但「驛遞總官」ト約定アルモノハ此限ニアラス (明治十七年第三十三號布告ヲ以テ葉書ノ下ニ「往復葉書」ノ四字ヲ加フ以下同シ)

第十九條 納稅ニ用ヒタル郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ハ「郵便局」ニ於テ消印スヘシ

第二十條 郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス  
第二十一條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取ラサルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス  
受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ  
差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ



第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徴收スルトキハ「郵便局」ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條 郵便切手封皮郵便葉書往復葉書帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便税納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手数料並別配送料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ税額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ「驛遞總官」之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ「驛遞局」ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ「驛遞總官」ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ「郵便局」郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買ス

ハカラス

第三十四條 「郵便局」郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面税額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其效用ヲ有セ

第三十六條 郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚穢毀損捺印アルモノ及税額印面不明瞭ナルモノハ其效用ヲ失フ然レトモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ「驛遞局」ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條 「驛遞局」及一等「郵便局」ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手並封皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ「驛遞局郵便局」府縣廳府縣所屬郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之下往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相

當種類ノ郵便税ヲ徵集スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ證スルモノトス

第四十五條 書留手数料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラヌ六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便税手数料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手数料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ「郵便局」若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ「郵便局」若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免税郵便物ハ書留手数料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ「郵便局」ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 「郵便局」ノ廢置ハ「驛遞總官」新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ履書(寄宿所ノ類以下之ニ做フ)アルモノハ其履書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納税郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免税郵便物亦同シ但市外別配送料解船料貨幣遞送配達費ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納税又ハ不足税ノ郵便物受取人ニ於テ其税ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第一百五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル履書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納税又ハ不足税ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戾スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種第五種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ(明治二十八年法律第十八號ヲ以テ第五種ノ三字ヲ追加ス)

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條 「郵便局」所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ「郵便局」ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ「驛遞局」之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條 會狀ハ「郵便局」ヲ經由セザレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

- 一 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
- 一 郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
- 一 貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ「驛遞局」又ハ「郵便局」ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

- 一 第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額
- 一 第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ「郵便局」ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラザレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ「郵便局」ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙

又ハ葉書往復葉書ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二類ト爲ス

- 一 市内(郵便局所在地)別配達
- 一 市外(郵便局未設地)別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市内別配達料ハ配達ノ「郵便局」ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ「郵便局」ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各「郵便局」ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲「郵便局」所在地ニ達スルモノヲ乙「郵便局」ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地「郵便局」ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其「郵便局」ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各「郵便局」ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ「郵便局」ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免稅郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ「郵便局」ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一箇月金三圓以下ヲ以テ「驛遞總官」之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一箇月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納稅不足稅ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ「郵便局」ニ返納スヘシ之ヲ返納セザルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ「郵便局」ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地「郵便局」留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ

第一百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第一百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第一百五條 貨幣封入郵便物ハ「驛遞總官」ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第一百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程

ニ從ヒ貨幣運送貨及配達貨ヲ運賃ニテ納ムヘシ但貨幣運送貨ハ差出人ニ於テ前納シ配達貨ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第七條 貨幣運送貨及配達貨額ハ「驛遞總官」各「郵便局」ニ揭示スヘシ

第八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ證トシテ受授スヘシ

第十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ「郵便局」ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣運送貨ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ「郵便局」ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第十四條 本人ノ封印ヲ捺シタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルハ「郵便局」ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ「郵便局」ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣運送貨及配達貨ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第十六條 貨幣運送貨又ハ配達貨ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額並還付ノ貨幣運送貨及配達貨ヲ徵收スヘシ

第十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣運送貨及前後ノ配達貨ヲ徵收スヘシ

第十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取りタルモノハ其貨幣運送貨又ハ配達貨ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ「驛遞局」ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二十一條 「郵便局」主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜雖其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノノ外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ「驛遞局」ニ没入スルモノトス

第二十四條 「驛遞總官」ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一箇年間「驛遞局」ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ「驛遞局」ノ帳簿ニ登記シ三箇年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第二十六條 沒書ヲ一箇年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三箇年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ

第二百二十七條 沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三箇年以内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手数料ヲ徴收セスト雖トモ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第二百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但「驛遞局」ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第二百二十九條 郵便爲替ハ「驛遞總官」ノ指定スル「郵便局」ニ於テ取扱フモノトス

第二百三十條 爲替ヲ取扱フ「郵便局」ハ「驛遞總官」新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第二百三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第二百三十二條 爲替料ハ「驛遞總官」之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ「郵便局」ニ揭示スヘシ

第二百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ「郵便局」ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第二百三十四條 爲替差出人ハ「郵便局」ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ

第二百三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第二百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第二百三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルト不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ「驛遞局」ニ其證書ヲ納付シテ

書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルト便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第二百三十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替證書ト引替ニ限ルヘシ但「郵便局」ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第二百三十九條 爲替受取人ハ其爲替證書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキ亦同シ

第二百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ得ス

第二百四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第二百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第二百四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替證書ノ裏面ニ官衙社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第二百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第二百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第二百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第二百四十二條ニ依ルヲ得

第二百四十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クルトキモ第二百四十二條第二百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第二百四十五條 爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第二百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替證書ハ差出人又ハ受取人ヨリ「驛遞局」ニ納付シ其書換ヲ請求スヘシ

第二百四十七條 爲替證書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二箇年以内ニ其書換ヲ請求セザルトキハ「驛遞

總官」新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三箇年内ニ爲替證書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料トシテ徵收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三箇年ヲ過ルモ尙ホ其爲替證書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ没入スヘシ

第四百四十八條 爲替證書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚斑毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ證人ヲ立テ「驛遞局」ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ證書ヲ請求スヘシ

第四百四十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ證書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ證書ヲ交付スルハ其原證書ニ對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第四百五十條 爲替證書ノ書換又ハ再度ノ證書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替證書ノ書換及再度ノ證書ヲ同時ニ請求スルモ同様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

第四百五十一條 再度ノ爲替證書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替證書ヲ見出シタルトキハ之ヲ「驛遞局」ニ納付スヘシ

第四百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ渡方順延スルコトアルヘシ

第四百五十三條 爲替證書又ハ報知書ニ夫誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡ヲ延引スヘシ

第四百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第四百五十五條 郵便爲替ニ事項ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ「驛遞局」ハ之ヲ償フノ責ニ任セス其實ニ任セス

第十三章 「驛遞局」貯金

第四百五十七條乃至第二百二條

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書及往復葉書(明治十七年第三十三號布告ヲ以テ及以下ノ五字ヲ加フ)

三 書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四 圖訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

ナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

スヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニキログラム(凡五百三十二分零六毛)ニ限

過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」(凡曲尺六寸六分六厘)幅十一「センチメートル」(凡三寸三分三厘)厚五「センチメートル」(凡一寸六分六厘)又其重量ハ二百五十「グラム」(凡六十六分五厘)ニ超過スヘカラス

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合書往復葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

- 一 貨幣又ハ高價ノ物品
- 一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品(明治十九年第四號布告ヲ以テ第三項ヲ分テ本項及次項ノ二項トス)

- 一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還納シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外増手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便稅書留手數料及増手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ「驛遞總官」公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノノ外之ヲ紛失シタル國ノ「驛遞局」ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」(「フランク」ハ凡金貨二十錢)若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ「驛遞局」又ハ「郵便局」ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス



一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セザル額  
 一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セザル額  
 第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ  
 第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條(第二百一十二條ノ罰金ヲ除ク)第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第十一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ  
 第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條(第二百二十二條ノ罰金ヲ除ク)第七十三條第九十九條第百條第百一一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
 第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送遅達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條及ヒ第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 已レニ屬セザル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ク又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏僱人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自巳若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ三圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不長ノ事ヲ行ハシカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
行フ處不長ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 「驛遞總官」ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ「驛遞局」認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料船料貨幣遞送配達賃私書國貨與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達料船料貨幣遞送配達賃私書國貨與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剽取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
其未タ消印ヲササル切手ヲ剽取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ提出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(明治二十三年法律第六十三號ヲ以テ本條改正)

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便國郵便行竊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

配達證明郵便規則 (明治二十五年三月遞信省令第八號)

配達證明郵便規則左ノ通相定メ明治二十五年五月十六日ヨリ施行ス

配達證明郵便規則

第一條 配達證明郵便ハ配達局ノ證明書ヲ以テ其郵便物ノ正ニ配達シタルコトヲ證明スルモノトス

- 第二條 郵便差出人其郵便物配達ノ證明ヲ得ントスルトキハ之ヲ差出局所ニ請求スルコトヲ得
- 第三條 配達證明書ハ配達局ヨリ之ヲ差出人ニ送付ス可シ
- 第四條 配達證明郵便ハ書留郵便物ニ限ルモノトス
- 第五條 配達證明手数料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハララス參錢トス  
其手数料ハ前納ニ限ルヘシ
- 第六條 配達證明手数料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス
- 第七條 配達證明郵便料ハ其表面ニ配達證明ト記載スヘシ
- 第八條 此規則ハ外國郵便ニ適用セス

◎**第三種郵便物認可規則** (明治二十五年二月逓信省令第四號)

- 第三種郵便物認可規則左ノ通り相定ム
- 第三種郵便物認可規則
- 第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケントスル定時印刷物ノ發行人ハ全部印刷シタル見本一部ヲ添ヘ願書ニ左記ノ事項ヲ記載スヘシ
  - 一 題號
  - 二 記載事項ノ性質種類
  - 三 發行ノ定日
  - 四 發行所
  - 五 發行人(官廳會社學校協會等ハ其代表人)ノ居所氏名

本條ノ規定ニ違由セサル願書ハ之ヲ受理セス

- 第二條 前條ノ發行人ハ其印刷物ニ付文章ヲ以テ左記ノ諸件ヲ證明スヘシ
  - 一 毎月一回以上逐號定期發行スルコト
  - 二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定ス可ラサルコト
  - 三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト
  - 四 發行ノ目的政事時事學術商事工藝其他公共ノ性質アル事項ヲ報道論議スルニ在ルコト及廣ク之ヲ公衆ニ發賣スルコト
- 本條ノ證明ヲナササル印刷物ハ第三種郵便物トシテ之ヲ認可セス
- 第三條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ハ其題號、番號、認可及發行ノ年月日、逓信省認可ノ文字ヲ見易キ場所ニ印刷スヘシ
- 第四條 認可ヲ受ケタル定時印刷物ニ左記ノ異動ヲ生スルトキハ發行人(代表人)ヨリ七日以内ニ届出ツヘシ(明治二十五年逓信省令第十五號ヲ以テ本項改正)
  - 一 題號、紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類、發行所又ハ發行定日ヲ變更シタルトキ但紙面ノ體裁、記載事項ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ見本一部ヲ差出ス可シ又發行所ヲ變更シタルトキハ舊發行所ヲ記載スヘシ
  - 二 發行人轉居又ハ變更ノトキ但變更ノトキハ舊發行人ノ氏名ヲモ記載スヘシ
  - 三 廢刊休刊又ハ發行禁止若クハ停止ノトキ
- 第五條 認可ヲ受ケタル印刷物ニシテ前後届出ノ有無ニ拘ラス第二條ニ記載シタル條件ノ一ヲ闕クニ至リタルト認ムルトキハ其認可ヲ取消スヘシ認可ノ取消ハ其違書ヲ發行人ノ住所ニ送達シ

タル翌日より効力ヲ生スルモノトス(明治二十五年遞信省令第十五號ヲ以テ本條改正)

認可ノ取消ヲ受ケタル印刷物ハ認可ヲ得サルモノト見做ス

第六條 第四條ノ届出ヲ期限内ニ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第七條 本令發布ノ日以前ニ第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定時印刷物發行人(代表人)ハ本令第一條及第二條ニ依リ明治二十五年三月三十一日迄ニ更ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ從前ノ認可ハ該日限ヲ以テ其效ヲ失フ

第二種郵便物ノ號外種別 (明治二十五年二月遞信省令第二號)

第三種郵便物ノ認可ヲ經タル定時印刷物ノ號外ハ次號ノ發行期ヲ待ツ能ハサル緊急ノ時事ヲ報道スルモノニ限リ第三種郵便物トシ其他ハ總テ第四種郵便物トス

第四種郵便物トシテ差出ス營業品見本及

雛形帶紙包紙ニ記載方 (明治二十四年九月遞信省令第十四號)

第四種郵便物トシテ差出スヘキ營業品見本及雛形ハ其帶紙包紙等ノ表面ニ營業見本若クハ營業品雛形ト記載シ且ツ差出人受取人雙方氏名ノ上又ハ傍ニ業名ヲ附記スヘシ若シ差出人又ハ受取人ノ一方營業者ナルトキハ其一方ニノ業名ヲ附記スヘシ此記載ナクシテ差出ストキハ前記ノ郵便物ニアラサルモノト見做シ取扱ヒテ爲スヘシ

郵便小爲替規定 (明治二十年六月遞信省告示第百十七號)

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

郵便小爲替規定

第一條 郵便小爲替證書一枚ノ金額ハ三圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第二條 爲替料ハ小爲替證書一枚ニ付三錢トス

第三條 小爲替ハ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條 爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ルヘシ

第五條 爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ

其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

第六條 小爲替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受

領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ

第七條 爲替受取人爲替金ヲ受取ルトキハ其證書ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ遞送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

(明治廿七年遞信省告示第二一號ヲ以テ本條改正)

第八條 爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ其證書ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ

差出人タルコトヲ證明スヘシ(同上)

第九條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人

爲替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ

第十條 小爲替證書ノ效用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス

第十一條 郵便局ノ許可ヲ受ケス拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ爲替金ヲ拂渡ササルモノトス但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニアラス

第十二條 左ニ掲タル場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ再度小爲替證書ヲ請求スヘシ但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得

一 小爲替證書有効期限ヲ經過シタルトキ

二 小爲替證書ヲ失ヒタルトキ

三 小爲替證書毀損汚斑シ點檢上支障アルトキ

第十三條 再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ更ニ爲替料ヲ納ムヘシ

第十四條 小爲替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初振出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非サレハ之ヲ交付セズ

### 小包郵便法 (明治二十五年六月法律第二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小包郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小包郵便法 第一條 何等ノ物品ヲ問ハス左ニ記載スルモノヲ除ク外ハ小包郵便物トシテ之ヲ郵便ニ差出スコトヲ得

第一 郵便條例第十六條第一項乃至第三項ノ物品但第二項ノ物品ハ郵便局ノ承認ヲ受ケテ郵便ニ差出スコトヲ得

第二 信書又ハ信書ノ性質ヲ有スルモノ若ハ音信文記入ノ物品

第三 但其ノ價額ハ實價ヲ超過スルコトヲ得ス

第四 小包郵便物ヲ其ノ受取人ニ交付セス又ハ差出人ニ還付セサル前ニ生シタル損害ニ付テハ政府其ノ賠償ノ責ニ任ス

第五條 小包郵便物、保險料、賠償金額並ニ小包郵便物ノ容積重量及價額登記ノ制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 左ノ場合ニ係ル損害ハ政府其ノ賠償ノ責ニ任セス

第一 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因ルトキ

第二 物品自己ノ性質ニ因ルトキ

第三 差出人ノ過誤怠慢ニ因ルトキ

第七條 本法郵便條例及其ノ施行ニ關スル命令ヲ遵守セスシテ郵便ニ差出シタルトキ

第八條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變異ナキトキハ政府損害賠償ノ責ニ任セス受取人若ハ差出人ニ於テ異議ナク該郵便物ヲ受領シタルトキ亦同シ

第九條 小包郵便物損害ニ對スル賠償ノ請求ハ其ノ郵便物ノ差出人ヨリ遞信大臣ノ指定スル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便料ノ返付ヲ請求スルコトヲ得但其ノ請求期限ハ郵便物差出ノ日ヨリ三箇月トス此ノ期限ヲ經過スルトキハ政府其ノ責ヲ免ル

第八條 賠償又ハ郵便料ノ返付ニ關シ郵便局ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 政府賠償ヲ爲シタルトキハ其ノ郵便物若ハ損害ニ付賠償受領者ノ有スル所有權若ハ第三者ニ對スル請求權ヲ當然承繼ス但亡失シタル郵便物ヲ發見シタル場合ニ於テ差出人ハ受領シタル賠償金及郵便料ヲ返納シテ其物品ノ還付ヲ請求スルコトヲ得其ノ請求期限ハ亡失郵便物發見ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月トス

第十條 郵便事務ニ關シ郵便官署ノ間相互遞送スル小包郵便物ハ郵便料ヲ免除ス

第十一條 小包郵便物ノ轉送又ハ還付ニ對スル郵便料ヲ納メサル者及之ヲ徵收セサル者ハ郵便條例第二百四十條ノ例ニ據リ之ヲ處斷シ小包送票ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ル者ハ同條例第二百四十一條ノ例ニ據リ之ヲ處斷ス

第十二條 第一第二ニ掲ケルモノヲ小包郵便物トシテ差出シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ノ施行細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十四條 本法及其ノ施行ニ關スル命令ニ明文ナキ事項ハ郵便條例ヲ準用ス

附則

第十五條 此ノ法律ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

◎小包郵便法施行細則 (明治二十五年九月遞信省令第十三號)

小包郵便法施行細則左ノ通相定メ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

小包郵便法施行細則目次

第一章 總則

第二章 差出

第三章 料金

第四章 留置

第五章 送達

第六章 賠償

小包郵便法施行細則

第一章 總則

第一條 小包郵便物ノ取扱ハ特ニ指定シタル郵便局郵便受取所ニ限ルヘシ

第二條 小包郵便物ハ差出人ノ望ニ依リ配達證明又ハ別配達又ハ留置トナスコトヲ得 (明治二十九年遞信省令第六號ヲ以テ本條改正)

配達證明又ハ別配達ハ一般ノ規則ニ依リ別ニ相當ノ手数料ヲ徵收ス

第三條 小包郵便物ヲ取扱ハサル郵便局ノ區内ニ向テ小包郵便物ヲ送ラントスルトキハ最寄取扱局留置又ハ別配達トナシテ之ヲ差立ルコトヲ得 (同上)

第二章 差出

第四條 小包郵便物ハ表面ニ差出人受取人ノ宿所氏名及小包ノ文字ヲ記載シ小包郵便取扱局所ニ差出シ其ノ受取證書ヲ受クヘシ (同上)

郵便圖ニ投入シタルモノハ小包ノ文字ヲ記シタルモノト雖モ之ヲ小包郵便物ト爲サス處ヲ通常

郵便物トシテ取扱フヘシ

第五條 小包郵便物ハ送票(甲號)ニ其ノ郵便料並ニ手数料ニ對スル相當郵便切手ヲ貼付シ之ヲ添

フヘシ(同上)但送票紙ハ郵便局所ヨリ之ヲ交付ス

第六條 小包郵便物ハ其ノ品質形狀ニ應シ適當ニ包裝封緘シ外包ヲ破却スルニアラザレハ内品ニ

損傷ヲ被ラシムルコト無キ様充分ノ手當ヲ爲スヘシ

價額登記ノ小包郵便物ハ其ノ外部ヨリ容易ニ内品ヲ察知シ能ハサル様堅固ニ包裝シ之ニ三箇所

以上封印ヲ施スヘシ

第七條 貨幣、舊貨幣、古錢、金銀地金、金銀細工物及寶玉、寶玉細工物ノ類ハ蓋付ノ罐又ハ堅固ナ

ル蓋付ノ箱類ニ納メ内品ノ動搖セザル様詰込ミ其ノ蓋ノ合セ目ニ錫蠟等ヲ注キ若ハ蓋ヲ釘著ト

ナシ麻繩若ハ絲等ニテ嚴重ニ之ヲ縛リ更ニ之ヲ封緘スヘシ

郵便切手、葉書、封皮、帶紙其ノ他諸印紙類及有價證券、手形類モ亦前項同様ニ包裝封緘スヘシ郵

便局ノ承認ヲ經テ差出スヘキモノ又ハ惡臭ヲ發スヘキモノハ其品質ニ應シ罐又ハ箱其ノ他適當

ノ包裝ニ依リ充分ニ自他ノ損害ヲ防キ得ヘキ様手當ヲナシ其ノ品名ヲ表面ニ明記スヘシ

第八條 小包郵便物ノ包裝不充分ナリト認ムルモノハ差出人ナシテ更ニ之ヲ改裝セシムヘシ

第九條 小包郵便物ノ表書ハ明瞭正確ニ記載スヘシ但包裝ノ都合ニ依リ直ニ其ノ郵便物ニ記載シ

雖キモノハ厚紙若ハ木札等ヲ附著シテ之ニ記載スヘシ

第十條 小包郵便物ノ表書ハ差出人受取人ノ宿所氏名、職業家號、符號、商標及年月日ニ限ルヘシ

但特ニ表書スヘキ規定アルモノハ此限ニアラス

第十一條 郵便局所ニ於テ小包郵便物ニ郵送禁止ノ物件ヲ包入シタリト思料スルトキ又ハ表記品

名ト包中物品ト相違セリト思料スルトキハ何時ニテモ其ノ差出又ハ受取人ヲ立會ハシメ之ヲ開

封検査スルコトヲ得

第十二條 小包郵便物差出人其ノ差出ノ際ニ於テ受取人ノ宿所ニ關シ或ハ異動アルヘシト掛念ス

ルトキハ豫メ之カ還付ヲ差立局所ニ請求シ置クコトヲ得

第三章 料金

第十三條 小包郵便料及保險料ハ之ヲ前納スヘシ但差出人ニ還付ノ場合ハ此限ニアラス

第十四條 小包郵便料ニ關スル里程ハ遞信省ニ於テ定メタル里程表ニ依ル

差立配達トモ郵便局同シクスルモノハ最近里程ノ率ニ依ル

第十五條 小包郵便物ノ重量ハ總テ郵便局所ノ秤量ニ依ルヘシ

第十六條 小包郵便物ヲ轉送又ハ還付スルトキハ其ノ轉送又ハ還付ノ里程ニ從ヒ更ニ郵便料ヲ徵

收ス但其ノ轉送若ハ還付ニシテ同一郵便區内ニ止リ其ノ料金ニ異動ヲ生ゼサルモノハ此限ニア

ラス

第十七條 轉送又ハ還付ノ郵便料ハ之ヲ差出人ヨリ徵收ス

第二十七條及第三十三條ニ依リ受取人ヨリ轉送ヲ請求シタルモノハ之ヲ受取人ヨリ徵收ス(同

上)

第十八條 小包郵便物ノ受取人別配達料若ハ解船料ノ納付ヲ拒ムトキハ該小包郵便物ハ差出人ニ

還付シ本條ノ料金ヲ徵收スヘシ但小包郵便物ノ受取人自ラ其ノ轉送又ハ配達ヲ請求シタル場合

ニ於テハ本條料金ノ納付ヲ拒ムコトヲ得ス若シ其ノ郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ更ニ原留置局又

ハ原到著局マテ回送スル郵便料及本條ノ料金ヲ併納スヘシ(同上)

第十九條 未納料金又ハ不足料金ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ送票ニ加貼シ未納又ハ不足ノ印ヲ捺スヘシ

第二十條 價額登記小包郵便物ノ轉送還付ニ對シテハ別ニ其保險料ヲ徵收セズ  
第四章 留置

第二十一條 小包郵便物ヲ留置トナサントスルトキハ差出人ノ差立局ニ請求シ其ノ留置證ヲ申受ケヘシ

小包留置證ハ差出人ノ受取人ニ送付スヘシ

第二十二條 留置小包郵便物到着シタルトキハ其ノ留置局ヨリ直ニ其ノ通知書ヲ受取人ニ發スヘシ但受取人ノ宿所ヲ記載セサルモノハ此限ニアラス

第二十三條 小包郵便物ノ留置期限ハ其ノ到達ノ日ヨリ起算シテ十五日以内トス但交通不便ニシテ其ノ受取人本文規定ノ期限内ニ出局スルコト能サル地ハ出局シ得ヘキ最短日限マテ特ニ之ヲ留置スルコトアルヘシ(明治二十六年遞信省令第十四號ヲ以テ本條改正)

其ノ期限ヲ經過シタルトキハ直ニ之ヲ差出人ニ還付ス

第二十四條 留置小包郵便物ヲ受取ラントスルトキハ小包留置證ニ記名調印シテ之ヲ差出シ受取人タルコトヲ證スヘシ但留置證ヲ差出シ能ハサル場合ニ在テハ第二十五條第三項ニ依リ證明書ヲ以テ受取人タルコトヲ證シ別ニ受領證ヲ差出スヘシ(明治二十七年遞信省令第六號ヲ以テ本條改正)

第二十五條 留置小包郵便物ノ受取人其ノ留置證ヲ失ヒタルトキ又ハ通知書到達ノ後尙留置證ノ送達ヲ受ケサルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ報スヘシ

差出人項ノ前報知ヲ受ケタルトキ又ハ自ラ留置證ヲ失ヒタルトキハ最初小包郵便物ヲ差出シタル局所ニ就キ其ノ受取證書ヲ證トシテ留置證ノ謄本ヲ申受ケ之ヲ受取人ニ送付スヘシ若シ其ノ受取證書モ俱ニ失ヒタルトキハ確實ナル保證人ヲ立テ其ノ事由ヲ證明スヘシ(明治二十九年遞信省令第六號ヲ以テ本條改正)

第一項ニ依リ差出人ニ報スヘキ場合ニ於テ其ノ差出人旅行其ノ他ノ事故ニ依リ小包郵便物ニ表記シタル宿所ヲ異ニシ所在判明ナラサルカ爲メ差出人ヲシテ前項ノ手續ヲ爲サシムル能ハサルトキハ受取人ニ於テ確實ナル保證人ヲ立テ其ノ事由ヲ證明スヘシ此手續ニ依リ留置小包郵便物ヲ受領シタルトキハ曾テ差出人ノ受領シタル留置證ハ無効トス(明治二十七年遞信省令第六號ヲ以テ本條追加)

本條ノ場合ニ於テハ留置期限ノ相當猶豫ヲ留置局ニ請フコトヲ得

第二十六條 留置小包郵便物ノ受取人其ノ代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ其ノ留置證ノ裏面ニ代人氏名及之ニ委任スル旨ヲ記シテ署名捺印スヘシ其ノ代人該小包ヲ受取ル手續ハ第二十四條ニ依リ但留置證ヲ差出シ能ハサル場合ニ於テハ代人ノ氏名及之ニ委任スル旨ヲ記載シタル正當ノ委任狀ヲ差出スヘシ(同上法令ヲ以テ本項追加)

第二十七條 留置小包郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ小包郵便物ノ配達還付若ハ轉送ヲ其ノ留置局ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ轉送ノ上更ニ留置ヲ請求スルモノノ外其ノ留置證ハ總テ無効トス

第五章 送達

第二十八條 郵便局ニ於テ小包郵便物取扱中包裝損傷シタルトキハ相當ノ手當ヲ施シ其ノ旨ヲ記



シ取扱者ノ檢印ヲ捺スヘシ(同上法令ヲ以テ第二十八條ヲ删除シ第二十九條ヲ第二十八條トシ第三十三條マテ順次繰上ク)

第二十九條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ其ノ配達證書ニ調印シ之ヲ受取ルヘシ同居ノ家族雇人ノ受取ルトキハ其ノ旨ヲ記載シ本人ニ代リテ記名調印スヘシ肩書ノ家ニ於テ之ヲ受取ルトキハ其ノ家主記名調印スヘシ官衙、公署、社寺、學校、病院、會社、協會、船舶等ニ於テ之ヲ受取ルトキハ相當ノ資格アルモノ其ノ配達證書ニ記名調印スヘシ

第二項第三項及第四項ノ場合ハ之ヲ正當受取人ニ交付シタルモノトス

第三十條 小包郵便物ノ配達又ハ還付ヲ受クルモノハ未タ配達證書ニ調印セサル前ニ於テ其ノ小包郵便物ヲ開封スルコトヲ得ス若シ之ヲ開封シタルトキハ異議ナク其ノ郵便物ヲ受取リタルモノトスヘシ

第三十一條 小包郵便物受取人不在等ノ事故ニ依リ初度配達ノ際之カ配達ヲ遂クル能ハサルトキハ一週間内便宜配達ヲ試ミ尙之ヲ配達シ能ハサルトキハ差出人ニ還付スヘシ但別配達ノモノニシテ配達郵便局ノ區外ニ達スヘキモノハ再ヒ配達ヲナサス直ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ其ノ區内ニ達スヘキモノモ爾後ノ試配達ハ總テ通常配達便ニ依ル(同條法令ヲ以テ但書改正)

第三十二條 小包郵便物ノ受取人移轉シタルトキハ郵便局ハ速ニ差出人ニ向ケ送票(乙號)ヲ發シ之ヲ轉送スヘキカ又ハ之ヲ還付スヘキカヲ問合スヘシ差出人此問合ヲ受ケタルトキハ送票(乙號)中希望ノ欄ヲ存シ不用ノ欄ハ總テ之ヲ塗抹シ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回送スヘシ但小包郵便ノ取扱ヲナササル郵便局ノ區内ニ移

轉シタルトキ又ハ第十二條ニ依リ還付ヲ請求シタルモノハ直ニ之ヲ還付ス(同上)

其ノ轉送スヘキ地同一郵便區内ニシテ轉送料ヲ増徴スルコトヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ配達スヘシ

第三十三條 小包郵便物ノ受取人ハ其ノ小包郵便物ノ轉送ヲ其ノ到着局ニ請求スルコトヲ得(同上法令ヲ以テ本條追加)但前條ニ依リ差出人ニ向ケ送票(乙號)ヲ發シタル後ニアリテハ此ノ請求ニ應セス

受取人前項ニ依リ轉送ノ請求ヲナシタルトキ又ハ第二十七條ニ依リ留置小包郵便物ノ轉送ヲ請求シタルトキハ郵便局ハ其ノ受取人ニ向ケ送票(丙號)ヲ發スヘシ此ノ場合ニ於テハ差出人ニ向テ前條ノ問合ヲナササルモノトス

受取人送票(丙號)ノ送付ヲ受ケタルトキハ相當郵便切手ヲ貼付シ速ニ之ヲ該郵便局ニ回送スヘシ

第三十四條 第三十二條及第三十三條ニ依リ差出人又ハ受取人ニ向ケ送票ヲ發シタル後普通郵便往復日限ヲ經過スルコト五日ニ至ルモ尙其ノ送票ヲ返送セサルトキハ其ノ小包郵便物ハ差出人ニ還付スヘシ(同上法令ヲ以テ本條改正)

第三十五條 小包郵便物配達ノ際其ノ外部ニ破損ノ痕迹ナク且重量ニ變異ナキトキハ受取人ノ力ヲ受取方ヲ拒ムコトヲ得ス但破損ノ痕迹トハ之ニ依リテ其ノ内品ヲ損傷シタルヘシト認ムル程ノ著大ナルモノニ限ル又遞送中ニ於ケル普通ノ摩擦若ハ濡濕乾燥等ノ故ニ依リテ増減シタル重量ノ異動ハ本條ノ限ニアラス

前項ニ依リ小包郵便物ノ受取ヲ拒ムトキハ其ノ事由書ヲ認メ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條 受取人前條ニ依リ小包郵便物ノ受取方ヲ拒ミタルトキハ郵便局ニ於テ之ヲ調査シ相  
當理由アリト認ムルモノハ直ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ  
若シ郵便局ニ於テ相當理由ナキモノト認ムルトキハ受取人ヲ召喚シ立會ノ上之ヲ調査スヘシ  
受取人召喚ニ應セサルトキ又ハ立會調査ノ上之ヲ拒ムヘキ理由ナキコトヲ示シタルトキハ再ヒ  
之カ受取方ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十七條 小包郵便物ヲ差出人ニ還付スヘキ場合ニ於テ其ノ差出人小包郵便取扱局ノ郵便區外  
ニ在ルトキハ最寄小包郵便取扱局ニ留置キ其ノ旨ヲ通知スヘシ  
差出人其ノ通知ヲ受ケタルトキハ最初受領シタル受取證書ヲ差出シ其ノ差出人タルコトヲ證シ  
テ之ヲ受取ルヘシ

代人ヲ以テ該小包ヲ受取ラントスルトキハ代人某ニ受取方委任スル旨ヲ記載シタル書面ヲ差出  
スヘシ

第三十八條 通知書ヲ發シテ十五日以内ニ尙其ノ受取方ヲ請求セサルトキハ配達還付シ能ハサル  
郵便物トシテ處分スヘシ

第三十九條 第三十五條及第三十六條ノ規定ハ差出人カ其ノ小包郵便物ノ還付ヲ受ル場合ニモ亦  
之ヲ適用ス但受取人カ第三十五條第二項ニ依リ事由書ヲ附シタル小包郵便物ニ對シテモ差出人  
ハ更ニ還付ヲ受ケサル事由書ヲ配達人ニ交付スルヲ要ス

第四十條 差出人前條ノ事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルトキハ速ニ郵便局ニ出頭シ若ハ相  
當代人ヲ差出シ尙其ノ事由ヲ陳述スヘシ

第四十一條 差出人前條ノ手續ヲナストキハ郵便局ハ其ノ出頭人ヲ立會ハシメ郵便物ヲ開封シテ

損害ノ有無ヲ検査シ果シテ損害アルコトヲ認ムルトキハ損害證明書ニ通テ作り其ノ一通ヲ出頭  
人ニ交付スヘシ

第四十二條 差出人還付ヲ受ケサル事由書ヲ郵便物配達人ニ交付シタルノミニテ第四十條ノ手續  
ヲ爲ササルトキハ郵便局ヨリ其ノ差出人ヲ召喚スヘシ若シ其ノ召喚ニ應セサルトキハ異議ヲ取  
消シタルモノト看做シ其ノ郵便物ハ之ヲ還付スヘシ此場合ニ於テ差出人ハ之カ受取ヲ拒ムコト  
ヲ得ス

第四十三條 第四十一條ニ依リ損害證明書ヲ作りタル小包郵便物ハ其ノ賠償處分ノ終了ニ至ル迄  
之ヲ郵便局ニ留置クヘシ

其ノ賠償ヲ請求セサルモノハ速ニ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第四十四條 配達還付シ能ハサル小包郵便物ハ郵便沒書取扱ノ例ニ準ス  
前項ノ取扱ニ附シタル小包郵便物ヲ更ニ送達スルトキハ第十六條ニ依リ料金を徴收ス

第六章 賠償

第四十五條 小包郵便物損害ノ賠償ハ其ノ差立局所ヲ管スル一等郵便局ニ之ヲ請求スヘシ

損害賠償ヲ請求スルニハ其ノ品名箇數實價請求金額並ニ之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書  
ヲ作り差立ノ際受取りタル受取證書ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ其ノ損害證明書ヲ受取りタルモノハ  
尙ホ之ヲ添フヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スルトキハ前項請求書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條 小包郵便物受取證若ハ損害證明書ヲ失ヒ之ヲ前條請求書ニ添ユルコト能ハサルモノ  
ハ當該郵便局ニ就テ其ノ謄本ヲ申受クルコトヲ得

第四十七條 價額登記小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 登記金額

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 殘存ノ價額ト登記金額トノ差

但登記ノ價額實價ニ超過スルモノハ總テ之カ賠償ヲナサス

第四十八條 通常小包郵便物損害ノ賠償ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 重量百匁ニ付金十錢ノ割合

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 損害部分ニ對シ重量百匁ニ付金十錢ノ割合

第四十九條 損害ノ賠償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郵便料返付ノ請求アルトキハ左ノ區別ニ依リ之ヲ返付ス

第一 全部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 料金ノ全部

第二 幾部ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ 亡失毀損セル部分ノ重量ニ對スル料金、但料金算出方ハ既納料金ノ比例ニ依ル

第五十條 損害賠償ノ請求ヲ受ケタル一等郵便局ニ於テハ其ノ請求ノ當否ヲ審査シ賠償ヲ要セサルモノト認ムルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知シ其ノ賠償ヲ要スルモノト認ムルトキハ第四十七條及第四十八條ニ依リ賠償金額ヲ定メ之ヲ請求人ニ通知スヘシ

郵便料ノ返付ヲモ請求スル場合ニ於テハ其返付ニ關スル決定ヲ其ノ通知書中ニ記載スヘシ

第五十一條 賠償請求人前條ノ通知ヲ受ケ之ニ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ該郵便局ニ不服ノ申立ヲ爲スヘシ

前項ノ期限内ニ不服ノ申立ヲ爲ササルモノハ不服ナキモノト看做シ假ニ之カ處分ヲ爲スヘシ

第五十二條 小包郵便物毀損ニ對スル損害賠償ノ請求ハ其ノ處分終了ニ至ル迄何時タリトモ差出人ノ隨意ニ之ヲ取消シ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 亡失小包郵便物ノ賠償ヲ爲シタル後該郵便物ヲ發見シタルトキハ郵便局ハ之ヲ差出人ニ通知スヘシ

第五十四條 亡失小包郵便物發見ノ通知ヲ受ケタルモノ其ノ物品ノ還付ヲ請求スルトキハ其ノ請求書ヲ作り該通知書ヲ添ヘテ之ヲ差出シ同時ニ罷ニ受取リタル賠償金及郵便料ヲ返納スヘシ

小包郵便物ノ郵便料保險料賠償金額容積

重量及價額登記制限 (明治二十五年六月勅令第五十七號)

朕小包郵便物ノ郵便料、保險料、賠償金額、容積、重量及價額登記制限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 小包郵便料ハ小包郵便物ノ重量及其差立郵便局ヨリ配達郵便局マテノ里程ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ徵收ス

第二條 (明治二十九年勅令第五百三十三號ヲ以テ本條削除)

第三條 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

容積	長	曲尺二尺
	幅	曲尺二尺
厚	曲尺二尺	

但幅及厚各五寸以内ノモノハ長三尺ヲ限リ差出スコトヲ得(同上法令ヲ以テ但書追加)

重量 一貫五百匁

第四條 小包郵便物ノ登記價額ハ金百五十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 價額登記小包郵便物ノ保険料ハ登記金額一圓マテ金七錢トシ一圓以上ハ一圓マテ毎二金一錢ヲ加フ

第六條 通常小包郵便物ノ損害ニ對シテハ重量百匁ニ付金十錢ノ割合ヲ以テ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ此制限内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス

第七條 價額登記小包郵便物ノ損害ニ對シテハ其登記金額マテ之ヲ賠償シ其一部分ノ損害ニ對シテハ登記金額内ニ於テ其損害ノ多少ニ從ヒ之ヲ賠償ス

附則

第八條 小包郵便物ヲ取扱フ郵便局ハ遞信大臣隨時之ヲ告示ス

(別表) (同上法令ヲ以テ本表ヲ改正ス)

小包郵便料		二百匁マテ	四百匁マテ	六百匁マテ	八百匁マテ	一貫匁マテ	一貫二百匁マテ	一貫五百匁マテ	
十里マテ	五錢七錢九	錢七	錢九	錢十一	錢十三	錢十五	錢十七	錢十九	
百里マテ	八錢十二錢十六錢二十錢二十四錢二十八錢三十二錢	錢十二	錢十六	錢二十	錢二十四	錢二十八	錢三十二	錢三十六	
百里以外	十六錢二十四錢三十二錢四十錢四十八錢五十六錢六十四錢七十二錢八十錢八十八錢九十六錢	錢十六	錢二十四	錢三十二	錢四十	錢四十八	錢五十六	錢六十四	錢七十二

### 郵便貯金條例 (明治二十三年八月法律第六十三號)

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

#### 郵便貯金條例

第一條 郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス 遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條 郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及十錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發布ノ月ヨリ利子ヲ付セス

郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其拂戻ヲ請求スルコトヲ得但分額  
ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公債  
證書ハ額面五十圓又ハ五十圓ヲ追加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得  
郵便貯金預ケ人貯金全額ノ拂戻ヲ請求スルコトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求ス  
ヘシ

第八條 郵便貯金ノ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ  
制限以內ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直チ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公  
債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五十圓ヲ超過スルコトヲ得  
ス

第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル  
者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セシテ拂戻ヲ爲サシム若シ  
二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子  
ヲ付セシテ拂戻ヲナサシム

第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ  
前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シ其書換又

ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ  
請求セス又ハ通帳遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證  
書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯  
金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併テ政府  
ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキ  
ハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ  
一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除クノ外其名前書換ヲ請求  
スルコトヲ得ス

第十四條 郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ  
人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一  
箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモ  
ノトス

第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條 郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印稅ヲ免除ス

第十七條 本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附 則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第五十七條乃至第二百二條及第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

### ● 郵便貯金條例施行細則

(明治二十三年十一月遞信省令第二十三號)

郵便貯金條例施行細則左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス  
郵便貯金條例施行細則

#### 第一款 貯金預入

第一條 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ到リ貯金預入申込書用紙ヲ申受ケ式ノ如ク記入シ記名調印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ

第二條 貯金預ケ人通帳ヲ受領シタルトキハ其通帳ニ氏名、住所、居所、身分、職業ヲ記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘテ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ之ヲ所持スヘシ

第三條 貯金預ケ人再度以後ノ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ既ニ所持セル通帳ニ預ケ金ヲ添ヘテ貯金取扱局所ニ差出シ其記入ヲ受ケヘシ

第四條 貯金取扱局所ノ主務者預ケ金及通帳ヲ受領シタルトキハ通帳ニ其金額及預年月日ヲ記載

シ記名調印ノ上日附印ヲ捺捺シテ預ケ金ノ領收ヲ證シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第五條 貯金預ケ人利子記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ差出申預ケ金ヲナサントスルトキハ預金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ自己ノ氏名ヲ陳述シ預ケ金ヲ差出シ其假領收證書ヲ領置スヘシ

前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ノ轉記ヲ受ケヘシ

貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第六條 貯金預ケ人預ケ金記入済ノ通帳ヲ受領シタルトキハ其場ニ於テ通帳記入ノ金額其他ニ相違遺漏等ナキヤヲ點檢シ若シ之アルトキハ直ニ訂正ヲ求ムヘシ

第七條 貯金ノ預入アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其原簿ニ登記シ貯金登記済通知書ヲ添ヘ預ケ人ニ送達スルモノトス

貯金預ケ人貯金ヲ爲シタル日ヨリ三十日(島嶼又ハ交通不便ノ地ハ相當ノ時日ヲ加フ)以内ニ貯金登記済通知書到達セサルトキハ其期日ノ翌日ヨリ又通知書到達セルモ其記載ノ金額年月日等相違アルトキハ到達ノ翌日ヨリ十日以内ニ其事故ヲ郵便爲替貯金局長ニ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第八條 貯金預ケ人ハ一ノ貯金取扱局所ニ於テ受領シタル通帳ヲ以テ他ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第九條 印形ヲ所持セサル者預ケ金ヲ爲サントスルトキハ引受人一名ヲ定ムヘシ  
町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ擔當人一名ヲ定ムヘシ

二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ但共同者中一名ヲ加印者ト爲スコトヲ得

第十條 町村、學校、病院、社寺、會社、組合及共同ノ金金ハ其町村、學校、病院、社寺、會社組合若クハ總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第十一條 印形ヲ所持セサル者ノ貯金ニ關シ調印ヲ要スル書類ニハ本人記名シ尙引受人記名調印スヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ貯金ニハ町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ尙擔當人記名調印スヘシ

共同者ノ貯金ニハ總代人記名調印シ加印者アルトキハ尙加印者連署スヘシ

第十二條 郵便爲替貯金局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人郵便爲替貯金分局受持區内ニ移轉シ又ハ同分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區内ニ移轉シタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ所持ノ通帳ヲ差出シ其引換ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テ通帳ノ引換及交付ノ手續ハ第五款ノ各條ニ準據スルモノトス

第二款 貯金拂戻

第十三條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求ヘルコトヲ得但郵便貯金

預所ニ於テハ拂戻金ノ拂渡ヲ取扱ハス

第十四條 貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申受ケ之ニ金額及拂戻金ヲ受取ラント欲スル局名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上通帳ヲ添ヘテ之ヲ其局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ受領スヘシ

第十五條 貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其請求書到達ノ日ヨリ五日以内ニ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ノ居所ニ發送スヘシ

若シ相當ノ期限内ニ拂戻證書到達セサルカ又ハ到達セサルモ金額其他ニ相違アルトキハ拂戻請求人ニ於テ郵便爲替貯金局長ニ宛テ其事故ヲ申告スヘシ但郵便貯金爲替分局受持區内ノ貯金取扱局所ヨリ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第十六條 貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書ニ記名調印シ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂戻局ニ差出シ拂戻金ヲ受領シ且通帳ノ返戻ヲ受ケヘシ但貯金全額拂ノ通帳ハ返付セサルモノトス

第十七條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人届書ヲ添ヘテ之ヲ拂渡局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ届書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其局所ニ預入チ爲シタル預ケ金高ノ内金十圓迄又再度通帳ヲ所持スル者其再度通帳ヲ受領シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其繰越金高ノ内金十圓迄ヲ限り即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ一圓以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノトス

前項即時拂ノ請求ハ一箇月一回ヲ超ルコトヲ得ス

第十九條 貯金即時拂ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テ其請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求ヲ拒ムコトアルヘシ

第二十條 即時拂ヲ要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス但拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ便宜請求人ニ直ニ交付スルコトアルヘシ(明治二十五年遞信省令第一號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第二十一條 郵便爲替貯金局及同分局所在地ノ貯金取扱局所ニ於テハ貯金即時拂ノ取扱ヲ爲ササルモノトス

第三款 貯金預ケ人異動

第二十二條 貯金預ケ人氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但改印ニ係ル届書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ

引受人、擔當人、加印者アル預ケ人前項ノ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シ若クハ此等ノ氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其引受人、擔當人、加印者ニ連署ヲ以テ前項同様届出ヘシ但引受人、擔當人、加印者ノ變更ノ場合ニ於テハ前任者モ亦届書ニ連署スヘシ若シ連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十三條 共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ要スルトキハ前任後任ノ總代人及加印者連署ヲ以テ後任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十四條 貯金預ケ人第二十二條及第二十三條ノ届書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通帳ノ氏名、住所、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ際ヲ訂正スヘシ

第四款 貯金通帳利子記入

第二十五條 貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通帳ヲ差出ストキハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳差出人ニ其通達書ヲ送達シ通帳ハ其經由局所ニ還付スヘシ

通帳差出人前項ノ通達書ヲ受ケタルトキハ該ニ領置セル通帳受取證書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入済通帳ヲ受領スヘシ

第二十六條 貯金通帳差出人利子記入済通帳ヲ前條ノ經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ通帳ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第五款 貯金再度通帳

第二十七條 貯金預ケ人所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ其通帳ヲ差出シ再度通帳ノ交付ヲ請求スヘシ但請求書及通帳ハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

通帳亡失ノ爲メ再度通帳ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但再度通帳ノ交付ヲ請求シタル後前ノ通帳ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第二十八條 郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳發行通知書ヲ請求書經由ノ局所ニ廻送シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス

第二十九條 貯金再度通帳ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ該告知書及通帳受取證ヲ



請求書經由ノ局所ニ差出シ新規通帳ノ交付ヲ受クヘシ但請求人親規通帳ヲ請求書經由ノ局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ  
第三十條 貯金再度通帳發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ求メニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通帳ヲ調製シ前條ノ告知書及通帳受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス  
第三十一條 貯金通帳毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手数料金十錢ヲ徴收スヘシ  
手数料ハ再度通帳請求書ニ郵便切手ヲ貼附シテ前納スヘシ

第六款 貯金相續

第三十二條 貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セントスルトキハ預ケ人相續人連署ノ書面ヲ以テ通帳並相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ名前書換ヲ請求スヘシ

第三十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其家督相續人ニ於テ相續人タルコトヲ證明セル書面ヲ以テ通帳ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ貯金ノ拂戻ヲ請求スルカ又ハ名前書換ヲ請求スヘシ但名前書換ヲ請求スルトキハ同時ニ相續人ノ印鑑ヲ差出スヘシ  
第三十四條 第三十二條及第三十三條ノ名前書換ヲ要スル場合ニ於テ相續人既ニ自己ノ貯金通帳ヲ所持セルトキハ共ニ其通帳ヲ差出シ其相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十五條 前三條ノ場合ニ於テ通帳ヲ貯金取扱局所ニ差出シタルトキハ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第三十六條 家督相續人ナキ貯金預ケ人死亡シタルトキハ其貯金ヲ相續シタル者ニ於テ證人ヲ立

テ其事實ヲ證明シ第三十三條ノ手續ニ由リ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第三十七條 郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ貯金ノ讓與又ハ相續ニ關スル請求書ヲ受ケタルトキハ正當相續人タルコトヲ認ムル爲メ其請求人ヲシテ市町村長又ハ區長ノ與書證明ヲ要メシメ若クハ其他ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七款 貯金拂戻證書ノ亡失、毀損、汚斑

第三十八條 貯金拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金拂渡局ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ證書ヲ差出シ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スヘシ

第三十九條 貯金拂戻證書亡失ノ爲メ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但拂渡認可證書ヲ請求シタル後前ノ證書發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第八款 公債證書ノ購入、保管、下渡

第四十條 貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書トシ總テ無記名トス

第四十一條 公債證書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス

時價トハ東京ニ於ケル購入當日ノ賣買價格ニ購入口錢ヲ加ヘタルモノトス

第四十二條 公債證書ノ購入ヲ爲ストキハ左ノ手数料ヲ徴收スヘシ

公債證書金額五十圓マテ 金二十錢

同 百圓マテ 金三十錢

以上五十圓ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ加フ

第四十三條 公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ通帳

受取證書ヲ領置スヘシ

第四十四條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書購入請求書ヲ領收シタルトキハ其到達ノ日ヨリ七日以内ニ公債證書ヲ購入スルモノトス

第四十五條 公債證書購入ノ代金及手数料ハ郵便爲替貯金局ニ於テ請求人ノ貯金ヨリ拂出シ且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ

第四十六條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ之ヲ公債證書保管原簿ニ登記シ其保管證書及通帳ヲ請求書經由ノ局所ヲ經テ請求人ニ交付スヘシ  
保管證書ニハ公債證書ノ記號番號金額購入代價及購入年月日ヲ記載スルモノトス

第四十七條 保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金局ニ於テ之ヲ受取り其預ケ人ノ貯金ニ受入ルヘシ

第四十八條 保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スル者ハ其請求書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ  
下渡請求書ニハ其請求人ニ於テ公債證書ヲ受取ラント欲スル貯金取扱局ヲ指定スヘシ但郵便貯金預所ニ於テハ公債證書ノ渡方ヲ取扱ハス

第四十九條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書ヲ廻付シ且請求人ニ下渡證書ヲ送達スヘシ  
請求人前項ノ下渡證書ヲ受ケタルトキハ其證書受領ノ部ニ記名調印シ前ニ受領シタル受取證書ト共ニ下渡局ニ差出シ之ヲ引換ヘ公債證書ヲ受領スヘシ

第九款 雜則

第五十條 貯金預ケ人貯金事務ニ關シ郵便爲替貯金局又ハ同分局又ハ貯金取扱局所ニ差出ス書面ニハ所持通帳ノ記號番號ヲ記載シ又之ヲ郵送スルトキ其封皮ノ表面ニ貯金事務ト明記スヘシ  
第五十一條 天災其他非常ノ場合ニ於テハ特ニ本則ニ定メタル手續ヲ省略シテ取扱ハシムルコトアルヘシ (明治二十六遞信省令第十七號ヲ以テ本條追加)

● 郵便貯金利子ノ割合 (明治二十三年十一月勅令第二百七十八號)

朕郵便貯金利子割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金ノ利子ハ來明治二十四年一月ヨリ一箇年元金百分ノ四分二厘ト定ム但本年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金額千圓ヲ超過シタルモノハ一箇年元金百分ノ三分トス

● 郵便條例電信條例郵便貯金條例小包郵便等臺灣へ施行ノ件 (明治二十九年四月勅令第五百五十四號)

朕郵便條例電信條例郵便貯金條例明治二十三年法律第二十一號中郵便貯金預所貯金郵便爲替金ニ關スル規程及小包郵便法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年法律第六十三號第五條ニ依リ郵便條例電信條例郵便貯金條例明治二十三年法律第二十一號中郵便貯金預所貯金郵便爲替金ニ關スル規程及小包郵便法ハ左ニ掲クル事項ニ關スル規程ヲ除クノ外之ヲ臺灣ニ施行ス

一 郵便條例第七章中市外別配達郵便但臺灣ヨリ内地ヘ向ケ發スル市外別配達郵便ハ此ノ限ニ

在ラス

二 郵便條例第十章貨幣封入郵便

三 電信條例第三十九條中別使配達電報但臺灣ヨリ内地へ向ク發スル別使配達電報ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

◎ 電信條例 (明治十八年五月第八號布告)

電信條例別冊ノ通改定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス但明治七年(九月)第九十八號布告十二年

(五月)工部省第九號布達其他本條例ニ牴觸スル從前ノ布告布達ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス (別冊)

電信條例

第一章 電報

第一條 凡電報別テ三種ト爲ス

一 官報

二 局報

三 私報

第二條 官報局報私報各別テ七類ト爲ス

一 通常電報

二 至急電報

三 追尾電報

四 同文電報

五 照校電報

六 受信電報

七 返信料前納電報

第三條 電報ヲ護送スルノ順序ハ官報ヲ先トシ局報之ニ次キ私報又之ニ次クモノトス

第四條 「電信局長」ニ於テ法律規則ニ違背シ又ハ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル私報ハ其傳送ヲ止ムヘシ

第五條 政府ハ時機ニ依リ線路又ハ地方又ハ語辭ヲ限リ私報ヲ停止スルコトアルヘシ

第二章 電報書法

第六條 凡電報ヲ書載スルニハ普通辭又ハ祕辭隱語ヲ間ハス和文ハ片假名及數字ヲ用ヒ歐文ハ羅馬字及亞刺比亞數字ヲ用フヘシ

第七條 「電信局長」ニ於テ私報ニ用フル祕辭隱語ノ解釋又ハ其合符原本ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第三章 電報料

第八條 凡電報料ハ國內ヲ通シテ同一ト爲ス但一市内「及壹岐對馬」ニ發着スルモノハ此限ニアラス

第九條 電報料及手數料ノ金額ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 電報料及手数料ハ(電信切手)ヲ以テ納ムルモノトス其切手ハ賴信紙ニ貼付スヘシ但返信電報料ノ前納及尋問電報料ノ假納ハ貼付スルノ限ニアラス

第十一條 「電信中央局及分局並電信切手賣下所ノ設ケアラサル地ヨリ郵便ニ付シテ電報ヲ發出スルトキハ郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得其郵便切手ハ賴信紙ニ貼付セサルモノトス)

第十二條 電報料及手数料ニ用ヒタル「電信切手」ハ「電信中央局及分局」ニ於テ消印スヘシ

第十三條 電報料及手数料ハ過納アルモ已ニ「電信切手」ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス未タ傳送セサル電報ヲ返還スルトキ已ニ消印シタルモノ亦同シ

第十四條 第四條ニ據リ私報ノ傳送ヲ止ムルトキハ其既ニ納メタル料金を還付セス

第十五條 電報取扱ノ過失ニ因テ甚シク遲延シ若クハ到達セサルモノハ其料金を還付ス照校電報ニシテ傳送ノ際誤謬ヲ生シテ其用辨ヲ闕キタルコト判然タルモノ亦同シ

第十六條 料金を還付ノ請求ハ發信ノ日附ヨリ六十日以内ニ「電信局長」ニ申出ヘシ此期限ヲ過クルトキハ一切之ヲ受理セス

第十七條 電報料及手数料ニ不足アルトキハ「電信中央局及分局」ニ於テ其電報ヲ傳送スルモ其不足ノ料金を二倍ヲ發信人ヨリ追納セシムヘシ

第十八條 發信人又ハ受信人ヨリ納ムヘキ料金を七日以内ニ徵收シ難キトキハ發信人ノ納メサルモノハ受信人ヨリ受信人ノ納メサルモノハ發信人ヨリ徵收スヘシ

第四章 電信切手 (本章第十九條乃至第二十六條ハ電信切手使用禁止ノ爲メ消滅)

第五章 電信發送

第二十七條 電報ノ傳送ハ「電信中央局及分局」ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第二十八條 「電信中央局及分局」ノ廢置並開局時間ハ「工部卿」之ヲ告示スヘシ

第二十九條 電報ヲ依托スル時間ハ開局時間ニ限ルヘシ但急至官報ハ此限ニアラス

第三十條 發信人ノ請求アルニ非サレハ電報ノ受取證書ヲ交付セス之ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第三十一條 官報ハ官廳又ハ官吏ノ印ヲ押捺スヘキモノトス但官報タルノ確證アルトキハ此限ニアラス

第三十二條 官報ノ原信ヲ證據トシテ差出ストキハ其返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三十三條 「電信中央局及分局」ニ於テ私報ノ發信人タルノ證據ヲ要スルトキ其發信人ハ賴信紙ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三十四條 電報ハ其宛名ノ家又ハ本人ニ之ヲ配達スヘシ但受取ルヘキ人名ノ指定アルモノハ此限ニアラス

第三十五條 電報ヲ受取タル者ハ電報受取紙ニ時刻ヲ記入シ記名ノ下ニ捺印シ直ニ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

第三十六條 宛名ノ家又ハ本人ニ屬セサル電報ノ配達ヲ受取タル者ハ其由ヲ附箋シ直ニ之ヲ著信局ニ返付スヘシ

其電報ヲ誤テ開封シタル者ハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書スヘシ

第三十七條 「電信中央局及分局」ヨリ一里ヲ超ヘサル地ニ配達スル電報ハ手数料ヲ要セス但別使配達島嶼配達船配達ハ此限ニアラス

第三十八條 「電信中央局及分局」ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ配達スル電報ニシテ發信人ヨリ其配  
達方ヲ指定セサルモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第三十九條 郵便ニテ遞送スル電報ハ其郵便稅ヲ納ムヘシ

第四十條 受信人ニ配達シ能ハサル電報ハ著信局ニ留置キ本人或ハ其委任ヲ受ケタル代人ヨリ  
請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ若シ著信ノ日ヨリ六十日以内ニ請求スル者アラサルトキハ之ヲ  
没書トナスヘシ

第四十一條 未タ傳送セサル電報ハ其發信人タルノ證據ヲ以テ返還ヲ請求スルトキハ之ヲ還付ス  
ルコトアルヘシ

第四十二條 電報ノ傳送ヨリ生シタル損失又ハ異議アルモ「電信局」ハ一切其責ニ任セス

第四十三條 受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルトキハ其電報ヲ受取リタル時ヨリ二十  
四時以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得但其料金ヲ假納スヘシ

「電信中央局及分局」ニ於テハ其請求ニ應ジ電報ヲ校正シ通信上ニ誤謬ナキトキハ假納ノ料金  
ヲ收入シ若シ誤謬アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第四十四條 發信人電報ノ字句ニ改正ヲ要スルトキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以内ニ  
之ヲ請求スルコトヲ得但發信人タルノ證據ヲ差出スヘシ

第七章 閱覽正寫

第四十五條 發信人又ハ受信人ハ電報發著ノ日ヨリ三十日以内ニ本人又ハ其代人タルノ證據ヲ以

テ發著局ニアル原信ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得又其原信ニ相違ナキノ證印アル正寫ヲ請求スル  
コトヲ得此期限ヲ過キタルトキハ更ニ六十日以内ニ之ヲ「電信局」ニ請求スルコトヲ得此期限  
ヲ過クルトキハ一切之ヲ許サス

原信ノ正寫ヲ請求スルトキハ其手数料ヲ納ムヘシ

第八章 電機私設

第四十六條 凡電氣ノ機器ヲ以テ通信傳話及號報ヲナサントスル者ハ「工部卿」ニ願出ヘシ

第四十七條 私設ノ電線ハ官設ノ電線アラサル地ニ於テ一人又ハ兩人ノ用ニ供スルモノニ限リ許  
可スルモノトス但傳話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノハ官設ノ電線アル地ニ於テモ許可スルコトア  
ルヘシ

第四十八條 電線私設ノ許可ヲ得タル者ハ「電信局」ニ於テ定メタル規約ニ從フヘシ

第四十九條 私設ノ電線ハ最寄「電信分局」ニ連續設置スヘシ但電話又ハ鐵道ノ用ニ供スルモノ  
ハ此限ニアラス

第五十條 私設ノ電線ハ他人ノ電報ヲ傳送スルコトヲ許サス

第九章 海外電報

第五十一條 海外電報ハ同盟諸國ノ會議ヲ以テ定ムル所ノ萬國條約書ニ據リテ取扱フヘシ

第十章 罰則

第五十二條 第七條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 「第二十二條第二十三條ヲ犯シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス」

第五十四條 第三十五條第三十六條ヲ以テ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第四十六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其機器ヲ沒收ス  
第五十六條 第四十八條第四十九條ヲ犯シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其情狀ニ依リ  
電線私設ヲ禁止ス

第五十七條 第五十條ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五百圓以下ノ罰  
金ヲ附加シ其機器ヲ沒收ス

第五十八條 電線ヲ切斷セスト雖モ電氣ヲ吸引シ易キ物ヲ纏繞シテ不通ニ致シ若クハ其效力ヲ妨  
害シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十九條 疎虞懈怠ニ因リ電信ノ器械柱木條線ヲ損壞切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ其效力ヲ妨  
妨害シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス  
其水底電信線ニ係ルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 電信ノ柱木條線ニ紙屑ヲ懸ケ若クハ瓦礫其他ノ雜物ヲ纏チ又ハ柱木及測量標木ニ獸  
畜ヲ繫キ若クハ貼紙シ或書シ又ハ柱木ノ記號及測量標木ヲ毀棄汚穢シタル者ハ五圓以上一圓九  
十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十一條 政府ノ指定シタル水底電信線路内ニ於テ艦船ヲ繫泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ土砂ヲ掘  
鑿シ又ハ電信線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

政府ノ指定シタル電信船ノ號標距離内ニ於テ前項ノ所爲ヲ行ヒ又ハ航行シタル者亦同シ

第六十二條 偽計又ハ威力ヲ以テ電報ノ傳送配達及架線其他ノ工事ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタ  
ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 己レニ屬セサル電報ヲ開封シ若クハ私用シ或ハ毀棄汚穢抑留隱匿シ若クハ受取人ニ  
非サル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ收受シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上  
二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 「電信切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重  
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」

第六十五條 「己ニ貼用シタル電信切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」

第六十六條 電信事務ヲ奉スル者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第六十七條 「電信局長」ノ許可ヲ得スシテ通信室ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處  
ス之ヲ入レタル者ハ一等ヲ加フ

第六十八條 電信事務ヲ奉スル者私報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處  
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但法律規則ニ從ヒ開披説明スルハ此限ニアラス

第六十九條 電信事務ヲ奉スル者頼信紙ニ貼用シタル切手ヲ剝取タルトキハ一月以上一年以下ノ  
重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
其未タ消印ナササル切手ヲ剝取タル者ハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第七十條 電信事務ヲ奉スル者故ナクシテ電信ノ依託ヲ拒ミタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第七十一條 疎虞懈怠ニ因リ電報ヲ遺失シ又ハ傳送配達ヲ延滞シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢  
以下ノ科料ニ處ス

第七十二條 配達人謝儀若クハ不當ノ賃錢ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ料ニ處ス

第七十三條 第五十八條第六十二條「第六十四條第六十五條」ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂クサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス  
第七十四條 「第六十四條」第六十九條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

電信取扱規則 (明治十八年五月第七號布達)

電信取扱規則別冊ノ通相定ム  
(別冊)

電信取扱規則

第一章 電報

- 第一條 官報トハ各官廳ノ公信並締盟國ノ大臣長官陸海軍將帥公使及知事ノ通信ヲ云フ但應ニシテ領事ヲ兼ムル者ヨリ發出スル電報ハ在官者ニ宛テ且公務ニ關スル者ニ非レハ官報ト爲サズ
- 第二條 局報トハ電信事務ニ關シ「電信局及中央局並分局」相互ニ送受スル通信ヲ云フ
- 第三條 私報トハ官報局報ヲ除クノ外諸般ノ通信ヲ云フ
- 第四條 發信人ハ條例第二條ニ記載シタル各類ノ電報ヲ單用シ又ハ併用スルコトヲ得
- 第五條 至急電報ハ通常電報ヨリ先ニ傳送シ同種類ノ電報ハ發信局ニ於テハ受托ノ前後ニ由リ中繼局ニ於テハ受信ノ順序ニ從テ傳送スルモノトス

第二章 電報書法

第六條 電報ニ用フル文字及數字ハ莫爾斯字號ニ翻書スルコトヲ得ヘキモノニ限ル  
第七條 莫爾斯字號左ノ如シ (莫爾斯ノ字號略ス)  
「二十六年通信省令第十號ヲ以テ本條中片假名及數字ノ部半濁點ノ次ニ——長音——

符號ヲ追加シ和文句讀點及記號ノ部句讀點ノ次新章ノ下ニ」ノ記號ヲ追加  
片假名及數字

イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ	リ	ヌ	ル	チ	ヲ	カ
ヨ	タ	レ	ソ	ツ	ネ	ナ	ラ	ム	カ	井	ノ	オ	ク
ヤ	マ	ケ	フ	コ	エ	テ	ア	サ	キ	ユ	メ	ミ	シ
エ	ヒ	モ	セ	ス									
○半濁點		——	長音	——				一	二	三	四	五	六
七	八	九	零	○									

羅瑪文字及亞刺比亞數字

a	ä	á	又ハ	à	b	c
k	l	m	n	ñ	o	d
v	w	x	y	z	1	e
2	ö	3	p	4	q	é
5	r	6	s	7	t	h
8	u	9	ü	j		

歸除線 /

和文句讀點及記號  
 新章「 括弧( ) 小括弧「」  
 歐文句讀點及記號  
 終點・ 讀、 小讀、 重點、  
 問標？ 感符！ 略符、 新章  
 連續點— 括弧( ) 轉回句讀“ ” 字下線—  
 略符號  
 至急(官私)報  
 追尾電報  
 改追尾電報  
 同文電報  
 照校電報  
 受信電報  
 返信料前納電報  
 局待  
 親展  
 郵便配達  
 書留郵便配達  
 別使配達  
 ヲナ  
 チラ  
 ナチ  
 ヨム  
 ムニ  
 ニナ  
 ナツ  
 ナム  
 ニカ  
 ツツ  
 カナ  
 マツ  
 XPLRPPCLWT RP CR TC MT RF SUR

解船配進

- 第八條 普通辭トハ和文片假名歐文ハ羅旬語又ハ常ニ通用スル歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ但電報新書及電報新編ニ依リ語辭ニ代用スル數字ヲ以テ書シタル電報ハ普通辭ト看做スヘシ
- 第九條 秘辭ハ普通辭ニ非ス文字又ハ數字ノ孤立或ハ聯集シテ其意味ノ通解シ難キモノヲ云フ
- 第十條 隱語トハ每語ニハ通スヘキ意味アルモ作文全體ニ於テ通解シ難キモノヲ云フ
- 第十一條 (明治二十六年遞信省令第十號ヲ以テ本條削除)
- 第十二條 (同上)
- 第十三條 電報ニハ文字數字トヲ混用スルコトヲ得但歐文ノ秘辭ニハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スヘカラス(同上法令ニテ本條改正)
- 第十四條 小括弧ハ第十五條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ用フルヲ得ス(同上)
- 第十五條 和文ニハ商標又ハ記號等片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ歐字又ハ亞刺比亞數字及之ニ附屬スル句讀點記號ヲ挿入スルコトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ(明治二十九年同省令第二號ヲ以テ本條改正)
- 第十六條 受信人ノ住所氏名ハ著信地ニ於テ配達シ易キ爲メ詳ニ之ヲ肩書スヘシ若シ町村名等他ニ類似ノ地名アルモノハ府縣名又ハ國名及郡區名ヲ記スヘシ但詳明ヲ要スルモ贅語ヲ用フヘカラス
- 第十七條 宛名ノ不十分ヨリ起リタル損失ハ總テ受信人ノ負擔タルヘシ
- 第十八條 受信人ノ住所氏名ハ豫メ「電信局」ト約定シテ略號ヲ常用スルコトヲ得但歐文電報ニ略



號ヲ常用スルトキハ略號常用料ヲ納ムヘシ其金額及納付手續ハ別ニ之ヲ定ム (明治二十三年遞信省令第二號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第十九條 第七條ニ記載シタル略符號ハ賴信紙中受信人ノ名下ニ記スヘシ若シ普通ノ文字ヲ以テ記シタルトキハ發信局ニ於テ之ヲ略符號ニ改書スルモノトス

第二十條 發信人ノ賴信紙中ニ記シタル略符號判然タラサルモノハ都テ通常電報ト爲シテ取扱フヘシ

第三章 字數計算

第二十一條 和文電報ノ住所氏名ハ字數ニ算入セス歐文電報ノ住所氏名ハ語數ニ算入ス

第二十二條 和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字及和文中ニ用ヒタル括弧小括弧ハ之ヲ片假名二字ニ計算スヘシ (明治二十六年遞信省令第十號ヲ以テ本條改正)

第二十三條 和文中ニ用ヒタル長音數字歸除線句讀點新章及第十五條ニ記載シタル歐字又ハ亞刺比亞數字及之ニ附屬スル句讀點記號ハ其一字又ハ一箇ヲ片假名ニ計算スヘシ但歐字又ハ亞刺比亞數字ニ附屬スル括弧及轉倒句讀ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス (明治二十九年遞信省令第二號ヲ以テ本條改正)

第二十四條 (明治二十六年遞信省令第十號ヲ以テ削除)

第二十五條 歐文ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ越ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ (明治三十年遞信省令第二十六號本條改正)

第二十六條 歐文中文字又ハ數字ノ弧孤シタルモノハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十七條 歐文中聯記シタル數字五箇ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

ハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十八條 歐文中順序數字ヲ作ル爲メ數字ニ加ヘタル文字ハ之ヲ數字一個ニ計算スヘシ

例 17th 一語 (數字文字合セテ四個)

1778th 二語 (同六個)

第二十九條 歐文數字中ニ用ヒタル分數點讀點及歸除線ハ一個ヲ一字ニ計算スヘシ

例 44.55 一語 (數字分數點合セテ五個)

44.560 二語 (數字讀點合セテ六個)

510½ 二語 (數字歸除線合セテ六個)

第三十條 歐文中ニ記入シタル句讀諸點連續點略符新章ハ之ヲ語數ニ計算セス但此記號ハ必スシモ傳送スルヲ要セス

第三十一條 歐文中連續點ヲ以テ綴キタル辭及略符ヲ以テ分チタル辭ハ其分辭毎ニ一語ニ計算スヘシ

例

West-super-mare 三語

New-York 二語

I've 二語

第三十二條 歐文中字下線ヲ每語ニ引キ又ハ二語以上ニ繫ケテ引クトキハ一個ヲ一語ニ計算スヘシ

例

The mater is urgent.  
Leave at once

七語並字下線二個合セテ九語

第三十三條 歐文中ニ用ヒタル括弧轉倒句讀ハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第三十四條 歐文普通辭中秘辭ノ雜リタルモノハ其普通辭ノ通常ノ例ヲ以テ之ヲ計算シ數字又ハ文字ノ聯集シタルモノハ數字ノ例ニ依テ之ヲ計算シ第八號ニ記載シタル國語ニ非サル語辭ハ文字ノ聯集ト看做シテ之ヲ計算スヘシ

第三十五條 歐文中國語ノ用法ニ反シテ語辭ノ聯綴シタルモノ若クハ省略シタルモノハ普通辭ノ例ヲ以テ計算スルコトヲ得ス然レトモ府縣名地名其他官位氏名等及文字ニテ記載シタル數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明スル爲メ用ヒタル語數ニ因テ計算スヘシ

第三十六條 第七條ニ記載シタル略符號ハ和文ハ二字歐文ハ一語ニ計算スヘシ

第四章 電報料及手数料

第三十七條 國內(一市内ヲ除ク)ヲ通スル電報料左ノ如シ(明治二十三年遞信省令第四號ヲ以テ本條改正)

一和文 片假名十字以内(一音信)金十五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ増ス

一歐文 五語以内住所氏名共 金二十五錢(明治二十年遞信省令第二號ヲ以テ本項改正)

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第三十八條 一市内ニ發著スル電報料左ノ如シ

一和文 片假名十字以内(一音信)金五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

一歐文 五語以内住所氏名共 金十錢(同上)

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス

第三十九條 至急官報ノ電報料ハ通常電報料ノ二倍トス

第四十條 至急私報ノ電報料ハ通常電報料ノ三倍トス

第四十一條 追尾電報料ハ追尾一回毎ニ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十二條 同文電報料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ和文ハ金五錢歐文ハ金十五錢トス

第四十三條 照校電報料ハ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十四條 受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ増ス

第四十五條 電報料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキ其端數ハ切捨ルモノトス

第四十六條 (明治二十三年遞信省令第二號ヲ以テ本條削除)

第四十七條 條例第三十條ノ電報受取證書ノ手数料ハ金三錢トス

第四十八條 條例第三十九條ノ別使配達料ハ九丁毎ニ金三錢トス

第四十九條 條例第三十九條ノ解船配達料ハ金二十錢トス

第五十條 條例第四十五條ノ原信正寫ノ手数料ハ和文百字以内毎ニ金二錢歐文百語以内毎ニ金十錢トス

第五十一條 料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不違ニ係ルモノハ若信局又ハ受信人ノ書面ヲ添ヘ誤謬

遅延ニ係ルモノハ受信人ニ到達シタル電報ノ原書ヲ添へ發信人ヨリ「電信局長」ニ申立ヘシ但時宜ニ依リ受信人ヨリ申立ルコトヲ得

第五十二條 電報遅延ノ申出ハ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ届出ニ達シタルモノニ限ルヘシ

第五十三條 電報料手数料ヲ還付スルトキハ都テ郵便切手ヲ以テスヘシ(同上法令ヲ以テ本條改正)

第五十四條 同文電報ノ内若干通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信ノ料金及通數ニ因テ收入シタル料金ヲ併セテ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トスヘシ

第五十五條 (同上法令ヲ以テ本條削除)

第五十六條 追徵電報料及手数料ハ之ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シタル追徵證書ヲ發スルニ依リ發信人又ハ受信人ニ於テ其金額ヲ追納スヘシ(同上法令ヲ以テ本條改正)但鐵道所屬電信取扱所ニ於テ追徵スルトキハ追徵證書ニ郵便切手ヲ貼附セス(明治二十四年遞信省令第八號ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第五章 電報發送

第五十七條 發信人ハ電報一通ニ三名マテ連署スルコトヲ得

第五十八條 受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ「電信中央局又ハ分局」ニ預ケ置カントスルトキハ其局宛トナスモ妨ナシ

第五十九條 電報ノ受取證書ニハ其手数料ニ當ル「電信切手」ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第六十條 郵便ニテ電報ヲ發出スルトキハ電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ「電信分局」ハ宛テ之ヲ差出スヘシ

宛テ之ヲ差出スヘシ

第六十一條 郵便ニテ發出シタル電報ニテ閉局後ニ受取リタルモノハ翌日開局ノ時傳送ノ手續ヲナスモノトス

第六十二條 發信人速ニ返信ヲ望ミ發信局ニ在テ之ヲ待ツトキハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信人電信ノ受信家へ到達スル時他人ノ披見スルコトヲ憚ルトキハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ニシテ發信局ニ於テ里程分明ナラサルトキハ發信人ニ豫算ノ金額ヲ納メシメ著信局ニ於テ實地ノ調査ヲナシ過剩アラハ登信人ニ還付シ不足アラハ受信人ヨリ徵收スヘシ

第六十六條 郵便ヲ以テ遞送スヘキ電報ハ郵便又ハ書留郵便ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ但別配達郵便ハ之ヲ取扱ハス

第六十七條 艦船宛ノ電報ニシテ解船ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十八條 艦船宛ノ電報ニシテ別使ヲ以テ配達スヘキモノハ解船配達並別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十九條 艦船宛ノ電報ニシテ解船配達ノ指定ナク實際解船ヲ要スルトキハ其解船料ヲ受信人ヨリ徵收スヘシ

第七十條 島嶼配達ノ電報ハ著信局ヨリ一里内外ニ拘ハラス別使又ハ郵便ヲ用ユヘキニ依リ何

レカ其略付號ヲ以テ指定スヘシ但其記入ナキモノハ先拂郵便ヲ以テ遞送スヘシ  
第七十一條 島嶼ノ別便配達料ハ水陸トモ實費ヲ徵收スヘキニ依リ發信人ヨリ豫算ノ金額ヲ發信局ヘ納ムヘシ其過不足ハ第六十五條ニ依リ處分スヘシ

第七十二條 電報ハ著信局ニ於テ受信シタル順序ニ依リ配達スヘシ  
第七十三條 電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ  
受信人名ヲ連署シタル電報ハ一通ノ送達紙ニ記載シテ其内ノ一名ニ配達スヘシ(明治二十六年遞信省令第十號ヲ以テ本項追加)

第七十四條 受信人ニ配達スル送達紙ニハ無手数料ニテ其發信局名及依托ノ月日時分ヲ記スルモノトス  
第七十五條 送達紙ニ記載シタル宛名ノ者他所ヘ移轉シ其居所分明ナルモノ一里ヲ超ヘサルトキハ別ニ手数料ヲ要セスシテ配達スヘシ一里ヲ超ユルトキハ郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第七十六條 條例第三十四條ニ依リ受信人豫テ電報ヲ受取ルヘキ人名ヲ指定スルトキハ其旨書面ヲ以テ申出置クヘシ  
第七十七條 郵便電信局電信局ニ預リ置キ及留置ク電報ハ其受信人ノ住所氏名ヲ記載シテ七日ヨリ少ナカラサル間其局前ニ揭示スヘシ(明治三十年三月遞信省令第一號ニシテ本條改正)

第六章 至急電報  
第七十八條 官報私報ヲ問ハス通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スルモノハ至急電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ  
第七十九條 至急電報ニシテ返信料ヲ前納シ其返信モ至急電報ト爲ストキハ至急電報ノ略付號ノ

次ニ「ヘンシンシキヤ」ト記スヘシ

第七章 追尾電報

第八十條 發信人豫メ受信人ノ轉居又ハ旅行等ヲ知リテ電報ヲ追送セントスルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第八十一條 追尾電報ノ第一著局以外ノ料金を受信人ヨリ徵收スヘシ但一市内ニテ追送スルモノハ料金ヲ要セス

第八十二條 追尾電報ノ賴信紙ニハ追尾スヘキ受信人ノ居所ヲ逐次ニ記スヘシ

第八十三條 追尾電報ノ略符號アルモ追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記セサルモノニシテ若シ受信人不在ノトキ更ニ追尾スヘキ居所ヲ知ルコトヲ得タルトキハ直ニ之ヲ追送スヘシ若シ追送スヘキ居所不明ナルカ又ハ之ヲ追送スルモ受信人ヲ尋得サルトキハ電報ヲ留置クヘシ

第八十四條 追尾電報ノ略符號アリテ且追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記シタルモノハ受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送シ若シ受信人ヲ尋得ルサトキハ其終尾ノ局ニ於テ前條ニ依テ之ヲ取扱フヘシ但追尾電報ノ本文ハ固ヨリ一字モ省略セス逐局之ヲ傳送ス然レトモ逐書シタル居所ハ其當サニ送ルヘキモノノミヲ存シ已ニ經過セシモノハ之ヲ削除スヘシ

第八十五條 追尾ノ指定ナキ電報ニテモ受信家ノ者ヨリ之ヲ追尾電報ト爲ストキハ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ之ヲ逐局傳送スルコトヲ得

第八十六條 追尾電報ニシテ其返信料ヲ前納スルトキハ追尾電報ノ略符號ノ次ニ返信料前納ノ略符號ヲ記シ第一著局マテノ返信料ヲ納スヘシ

第八十七條 返信料ヲ前納シタル電報ヲ更ニ追尾電報ト爲ストキハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ改

追尾電報ノ略符號ヲ記スヘシ其著信局ニ於テハ第一著局マテノ返信料ヲ受信人ニ交付ス

第八十八條 何人ニテモ電報ノ配達ヲ受ル所ノ「電信分局」へ移轉等ノ事由ヲ書面ニテ申出置キ其電報ノ到着次第追尾電報ノ規則ニ依リ再送ヲ受ント請求スルコトヲ得此電報ハ著信局ニ於テ更ニ改追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定シ移轉ノ居所所在ノ著信局へ追送スヘシ

第八十九條 追尾電報ヲ著信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ遞送スルトキハ前拂郵便ヲ用ヒ其郵便稅額ハ追徵證書ニ合記シ之ヲ追徵スヘシ(明治二十三年遞信省令第二號ヲ以テ本條改正)

第九十條 受信人ニ配達スル追尾電報ノ送達紙ニハ第一發信局ノ局名月日時分ヲ記スルモノトス

第九十一條 追尾電報ヲ傳送シタル後受信人ノ所在不分明ニテ配達シ得サルトキ又ハ受信人ヨリ追尾料金ヲ出スコトヲ拒ムトキハ其追尾依託人ニ事實ヲ報シテ其料金ヲ追徵スヘシ

第八章 同文電報

第九十二條 發信人ヨリ同時ニ同文ノ電報ヲ一市内又ハ一市内ニ非サルモ著信局ヲ同クスル地方ニ住シテ居所ヲ異ニスル數名へ差出サントスルトキハ同文電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第九十三條 同文電報ノ賴信紙ニハ初筆ノ受信人ノ名下ニ略符號ト受信人ノ員數ヲ記スヘシ

第九十四條 同文電報ハ原信一通ニ定則ノ電報料ヲ課シ其餘ハ一通毎ニ同文電報料ヲ課スルモノトス

第九十五條 照校電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ照校電報ノ略符號ヲ記スヘシ其電報ハ原信一通ニ照校電報料ヲ課シ其餘ハ同文電報ノミヲ課スルモノトス

第九十六條 受信電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ受信電報ノ略符號ヲ記シ

同文電報料ノ外其通數ニ應シ受信電報料ヲ納ムヘシ

第九十七條 同文電報ハ發信人ニ於テ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルコトヲ請求セザルトキハ一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス故ニ之ヲ請求スル者ハ同文電報ノ略符號ノ次ニ「レンメ」ト記スヘシ

第九十八條 住居ヲ同クスル者ニ宛タル電報ニテモ同文電報ト爲スニ非サレハ電報一通ニ三名ヲ超ヘタル連名ヲ記スルコトヲ得ス

第九十九條 同文電報ヲ送達スルニ或ハ郵便ヲ以テシ或ハ別使ヲ以テスル等各配達ノ方法ヲ異ニスルモノハ受信人ノ名下ニ一郵便配達若クハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第九章 照校電報

第一百條 發信人ニ於テ電報中字句ノ誤謬ヲ豫防セントスルトキハ照校電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百一條 照校電報ハ各局傳送ノ際全文ヲ校正スルモノトス

第一百二條 返信料ヲ前納シタル照校電報ニテ其返信モ亦照校電報ト爲ストキハ照校電報ノ略符號ノ次ニ「ヘンシンセウカウ」ト記スヘシ

第十章 受信電報

第一百三條 發信人電報ノ正ニ受信人ニ到達センヤ否ヤノ報知ヲ受ケントスルトキハ受信電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百四條 受信報知ヲ要スル電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル時刻ヲ報知スヘシ

第一百五條 受信電報ハ其原信ノ種類ニ依テ之ヲ傳送スヘシ

第六百六條

受信報知ヲ要スル電報ヲ受信人ニ配達スル能ハサルトキハ著信局ニ於テ先ツ發信局ニ其旨ノ局報ヲ送ルヘシ然ル後電報ヲ配達スルコトヲ得タルトキハ直ニ受信電報ヲ送ルヘシ若シ局報ヲ送リタル後二十四時ヲ過ルモ尙配達スル能ハサルトキハ更ニ其事由ヲ確報スヘシ

第六百七條

受信報知ヲ要スル電報ニシテ其著信局ヨリ受信人へ別使又ハ郵便ヲ以テ配達スヘキモ其郵便ヲ以テ配達スヘキモノハ郵便局へ付托セシ時刻ヲ答報ス

第六百八條

發信人配達區外ニ居住スルニ依リ別使又ハ郵便ヲ以テ受信電報ノ配達ヲ得ントスルトキハ賴信紙ノ端末ニ「別使」又ハ「郵便」下記シ其別使料又ハ郵便稅ヲ前納スヘシ

第六百九條

發信人ニ於テ受信人ヨリ納ムヘキ電報料ヲ前納シテ返信ヲ受ケントスルトキハ返信料前納電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六百十條

一音信又ハ五語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルトキハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ其字數又ハ語數ヲ記スヘシ

第六百十一條

郵便ニテ返信料前納電報ノ送達ヲ要スルトキハ尙書留郵便ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ(明治二十四年遞信省令第九號ヲ以テ本條改正)

第六百十二條

返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲メ著信局ニ於テ

例

和文 (ナツ110)

歐文 (RP6)X(RP10)

返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ(二十四年遞信省令第九號ヲ以テ本條改正)

一 返信料前納ノ金額及之ニ對スル字數(歐文ハ語數)

一 受信人名

一 發信局名、發信年月日及發信番號

一 本書發行ノ年月日

第六百十三條 返信料前納電報ノ返信ハ何レノ郵便電信局電信局ヨリ發送スルヲ問ハズ返信料前納

ヲ證明シタル返信用紙ニ記載シテ差出スヘシ(二十四年遞信省令第九號ヲ以テ改正次項追加)

其返信電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其超過額ニ相當スル郵便切手ヲ貼付スヘシ

第六百十四條 返信料前納證書使用ノ期限ハ發行ノ日ヨリ六十日以内トス此期限ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ(同下)

第六百十五條 返信電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ前納シタル日ヨリ百二十日以内ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ返信電報ヲ添ヘ其殘額ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得(同上)

返信料前納證書不用ニ屬スルトキハ證書發行ノ日ヨリ百二十日以内ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ其證書ヲ添ヘ返信料ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

第六百十六條 受信人返信料前納證書ヲ受令スルコトヲ拒ムトキハ其事由ヲ發信人ニ報知スル爲メ著信局ヨリ電報ヲ以テ其旨發信局ニ報知シ此報知電報ハ返信ノ代ト見做スヘシ但和文一音信分

歐文五語分ヲ超過シテ返信料ヲ前納シタルモノハ發信人ヨリ其超過額ノ還付ヲ遞信省ニ請求ス

ルコトヲ得其請求期限ハ第百十五條ニ同シ(同上)

居所不明其他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付スルコト能ハサルトキハ七日間著信局前ニ其旨ヲ揭示シ此期限内ニ尙交付スルコト能ハサルトキハ前項ノ例ニ依テ處分スヘシ

第十二章 尋問改正

第百十七條 條例第四十三條第四十四條ニ依リ既送現送ノ電報ニ關シ發信人又ハ受信人ノ依頼ニ依リ傳送スル電報ハ其種類ニ依リ取扱フモ之ヲ往復スルニハ局名ヲ以テスルモノトス

第十三章 原信正寫

第百十八條 原信ノ正寫ニハ其手数料ニ當ル「電信切手」ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

◎電報局渡規則 (明治二十三年八月遞信省令第十七號)

電報局渡規則左ノ通相定メ來十月一日ヨリ執行ス  
電報局渡規則

第一條 凡ソ電報ノ受信人ニシシ其電報ノ配達ヲ待タズ郵便電信局又ハ電信局ニ就キ直ニ之ヲ受領セント欲スル者ハ豫メ書面ヲ以テ其配達ヲ受クヘキ局ニ其旨申出ツヘシ

郵便電信局又ハ電信局ハ其申出ニ對シ電報局渡證書ヲ交付スヘシ

第二條 電報ノ受信者郵便電信局又ハ電信局ニ於テ電報ヲ受領スルトキハ其時時電報局渡證書ヲ當該局員ニ示スヘシ其電報受領ノ爲メ出頭シタルトキ及立去ルトキハ其旨ヲ當該局員ニ陳告スヘシ

第三條 郵便電信局又ハ電信局ニ於テハ電報局渡證書攜帶者ヲ正當受信人ト見做シテ其電報ヲ交

付スヘシ

第四條 電報局渡證書ヲ交付セル者ニ宛タル電報著信スルモ其證書攜帶者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第五條 電信局渡證書ヲ所持スル者住所氏名ヲ變換シタルトキハ其旨書面ヲ以テ當該局ニ申出ツヘシ

第六條 電報局渡證書不用ニ屬スルトキハ之ヲ當該局ニ還納スヘシ

第七條 電報局渡證書ヲ亡失シタル者ハ速ニ其旨ヲ當該局ニ報告スヘシ此證書ハ當該局ニ其報告ヲ受ケタル時ヨリ無効トス但此場合ニ於テハ當該局ヨリ更ニ證書ヲ交付スヘシ

第八條 電報局渡證書ヲ受領シタル者ハ電報局渡料トシテ一箇年六圓及一名ノ受信人ニシテ二箇以上ノ局渡證書ヲ受領シタル者ハ一箇ヲ増ス毎ニ一箇年三圓ヲ納ムヘシ(明治二十七年遞信省令第七號ヲ以テ本條改正)

其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ掲ケル四期ノ別ニヨリ一期分毎ニ之ヲ當該局ニ前納スヘシ(明治二十六年遞信省令第一號ヲ以テ本項改正)但二期以上ノ分ヲ一時ニ前納スルモ妨ケナシ

第一期 一月ヨリ三月マテ

第二期 四月ヨリ六月マテ

第三期 七月ヨリ九月マテ

第四期 十月ヨリ十二月マテ

第九條 一期ノ中途ニ於テ電報局渡證書ヲ交付シタルトキ其期ノ料金ハ年額ヲ十二分シ證書交付ノ月ヨリ其期ノ末月マテノ月數ニ應シテ之ヲ即納スヘシ(同上)

第十條 電報局渡料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ(同上)

第十一條 料金ノ既納ニ係ルモノハ一期ノ中途ニ於テ證票ヲ還納スルト雖モ之ヲ還付セス(同上) 但證票ヲ還納シタル次期以下ニ屬スル局渡料前納アルトキハ其次期以下ノ分ハ郵便切手ヲ以テ還付ス

第十二條 電報局渡證票ヲ受領シタル者其料金ヲ納付期限ニ完納セサルトキハ其證票ハ之ヲ無効トス

◎電報差出力ヲ配達人ニ依托スルノ規程

(明治二十三年十一月遞信省令第二十一號)

電氣通信ノ利便ヲ増進セシカ爲メ電報配達人ニ電報差出方ヲ依托スル規程左ノ通之ヲ定ム

一 郵便電信局電信局ニ於テ左ノ電報ヲ配達スルトキ之ヲ受取リタル者ハ其電報配達人ニ依托シテ電報ヲ差出スコトヲ得但萬國電信條約書ニ據リ發送スヘキ電報、返信料ヲ前納スヘキ電報、豫算ヲ以テ料金ヲ納付スヘキ電報及受領證ヲ要スル電報ハ此限ニアラス(明治二十六年遞信省令第八號ヲ以テ本條改正)

一 返信料前納ノ電報

一 局待指定ノ電報

一 郵便電信局電信局ヨリ一里以外ニ配達スル電報

一 島嶼配達ノ電報

一 解船配達ノ電報

二 前項ニ據リ電報ヲ依托スル者ハ配達ヲ受ケタル電報ノ受取紙ニ「電報依托」ノ文字及其料金額ヲ記載シ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

其電報ニシテ秘密ヲ要スルモノハ切手貼附ノ部分ヲ配達人ニ示シ後之ヲ封緘スヘシ

三 電報ヲ依托スル者電報ノ交付ヲ遲延シ五分時間ヲ超過スルトキハ電報配達人ハ其依托ヲ待タスシテ立去ルコトアルヘシ

四 電報、配達人ニ依托シタル電報ハ其配達人當該郵便電信局又ハ電信局ニ持歸リタル時ヲ以テ受付時刻トナス但閉局後ニ持歸リタルトキハ閉局後受付ヲナスヘキ電報ヲ除クノ外翌日閉局ノ時ヲ以テ受付時刻トナスヘシ

◎軍用電信法 (明治二十七年六月法律第五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍用電信法

第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス

第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一 固定軍用電信

二 遊動軍用電信

第四條 固定軍用電信ハ要塞、衛戍、軍港、要港、海岸望樓、監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建設スルモノトス



固定軍用電信ヲ建設スルトキハ明治二十三年法律第五十八條電信線建設條例ヲ準用ス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス  
遊動軍用電信ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコトヲ得其ノ徵用及  
損害賠償ノ手續並徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

第八條 刑法第六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第五十八條乃至第六十三條及第七十  
一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條乃至第六十三條ノ罪ヲ  
犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及第六十二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル若ハ  
刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

電話交換規則 (明治二十三年四月遞信省令第七號)

電話交換規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 遞信省ハ必要ト認ムル市町ニ電話交換局及電話所ヲ置キ電話交換加入ノノ使用ニ供スル  
電話線及電話所ノ電話線ヲ電話交換局ニ湊合シ又甲乙地間ニ電話線ヲ架設シテ電話交換ノ媒介  
ヲ爲スヘシ但加入者ノ請求ニ依リ其市町接近ノ地ニ電話線ヲ延長スルコトアルヘシ

第二條 加入者ノ使用ニ供スル電話線及電話器ノ設置並其維持ハ遞信省之ヲ負擔スルモノトス但  
加入者ノ過失ニ由リ毀損シタルトキハ遞信省之ヲ修補シ其費用ハ加入者ヲシテ辨償セシムヘシ

第三條 加入者ハ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得

- 一 市町ノ内外ヲ問ハス晝夜ノ別ナク加入者相互直接ノ電話通信
- 二 市町ノ内外ヲ問ハス規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到ルモノト直接ノ電話通信
- 三 規定ノ時間ニ於テ和文電報送受ノ郵便電信局又ハ電信局ト直接ノ電話通信 (明治二十三年  
遞信省令第二十二號ヲ以テ本項改正)

第四條 何人ト雖規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到リ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得但其時間ハ遞信省

ニ於テ之ヲ定メ時時廣告スヘシ

- 一 加入ト直接ノ電話通信
  - 二 他ノ電話所ニ到ル者ト直接ノ電話通信
- 第五條 左ノ電話通信ハ總テ五分時間迄ヲ以テ一通信時トス
- 一 甲乙市町間相互直接ノ電話通信
  - 二 電話所ニ到ル者相互及電話所ニ到ル者ト加入者ト直接ノ電話通信
- 第六條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ關スル電話器ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ自家所用外ノ目的  
ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 電話交換局ハ時時加入者ノ住居ニ技術員ヲ派遣シテ電話器故障ノ有無ヲ點檢セシムヘシ

第八條 加入者ハ其使用ニ關スル電話線又ハ電話器障害アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ電話交換  
局ニ報告スヘシ

固定軍用電信ヲ建設スルトキハ明治二十三年法律第五十八條電信線建設條例ヲ準用ス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス  
遊動軍用電信ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコトヲ得其ノ徵用及  
損害賠償ノ手續並徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

第八條 刑法第六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第五十八條乃至第六十三條及第七十  
一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條乃至第六十三條ノ罪ヲ  
犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ  
重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及第六十二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル若ハ  
刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

### 電話交換規則

(明治二十三年四月遞信省令第七號)

電話交換規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 遞信省ハ必要ト認ムル市町ニ電話交換局及電話所ヲ置キ電話交換加入ノノ使用ニ供スル  
電話線及電話所ノ電話線ヲ電話交換局ニ湊合シ又甲乙地間ニ電話線ヲ架設シテ電話交換ノ媒介  
ヲ爲スヘシ但加入者ノ請求ニ依リ其市町接近ノ地ニ電話線ヲ延長スルコトアルヘシ

第二條 加入者ノ使用ニ供スル電話線及電話器ノ設置並其維持ハ遞信省之ヲ負擔スルモノトス但  
加入者ノ過失ニ由リ毀損シタルトキハ遞信省之ヲ修補シ其費用ハ加入者ヲシテ辨償セシムヘシ

第三條 加入者ハ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得

- 一 市町ノ内外ヲ間ハス晝夜ノ別ナク加入者相互直接ノ電話通信
- 二 市町ノ内外ヲ間ハス規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到ルモノト直接ノ電話通信
- 三 規定ノ時間ニ於テ和文電報送受ノ郵便電信局又ハ電信局ト直接ノ電話通信 (明治二十三年  
遞信省令第二十二號ヲ以テ本項改正)

第四條 何人ト雖規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到リ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得但其時間ハ遞信省  
ニ於テ之ヲ定メ時時廣告スヘシ

一 加入ト直接ノ電話通信

二 他ノ電話所ニ到ル者ト直接ノ電話通信

第五條 左ノ電話通信ハ總テ五分時間迄ヲ以テ一通信時トス

一 甲乙市町間相互直接ノ電話通信

二 電話所ニ到ル者相互及電話所ニ到ル者ト加入者ト直接ノ電話通信

第六條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ關スル電話器ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ自家所用外ノ目的  
ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 電話交換局ハ時時加入者ノ住居ニ技術員ヲ派遣シテ電話器故障ノ有無ヲ點檢セシムヘシ

第八條 加入者ハ其使用ニ關スル電話線又ハ電話器障害アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ電話交換  
局ニ報告スヘシ

第九條 加入者ノ加入約束期限ハ其使用ニ屬スル電話線及電話器ヲ交付シタル日ヨリ起算シ滿二箇年トシ爾後ノ繼續ハ滿一箇年以上トス(一箇年未滿ノ端數ヲ加フルヲ得ス)但左ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ之ヲ交付シタルトキハ尙ホ該期ノ末日ニ至ルマテノ日數ヲ加ハタルモノヲ以テ約束期限ノ一箇年ト看做スヘシ

- 第一期 一月ヨリ三月マテ
- 第二期 四月ヨリ六月マテ
- 第三期 七月ヨリ九月マテ
- 第四期 十月ヨリ十二月マテ

第十條 加入者其加入約束ノ繼續ヲ望マサルトキハ約束滿期三箇月以前ニ其旨ヲ電話交換局ニ通知スヘシ若シ其通知ヲササルトキハ更ニ一箇年繼續スルモノト看做スヘシ

第十一條 加入者ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル電話線及電話器ノ使用料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ

- 一 使用料ハ第九條ニ掲グル四期ノ別ニ從ヒ年額ヲ四分シ毎年一月四月七月十月ノ四回ニ通算ヲ以テ其期ノ分チ電話交換局ニ納付スヘシ但特ニ納期ヲ定ムル者ハ此限ニアラス
- 二 一期ノ中途ニ於テ加入シタルトキハ其期ノ分ハ年額金ノ日割ヲ以テ電話線及電話器ノ交附ヲ受ケタル日ヨリ一週日以内ニ通貨ヲ以テ電話交換局ニ納付スヘシ

第十二條 加入者納期ニ至リ使用料、電話料又ハ電話ニ由リ發送シタル電信料ヲ納付セサルトキハ其電話通信ヲ停止シ若クハ加入ヲ除クコトアルヘシ但加入ヲ除キタルトキハ其既納ノ料金ヲ還付セス(明治二十四年遞信省令第六號ヲ以テ本條改正)

第十三條 電話交換局アル市町外ニ電話器ヲ設置スルモノ及一人ニシテ同一ノ家屋又ハ地所内ニ於テ同一ノ回線中ニ二箇以上ノ電話器又ハ電話器ノ外ニ電鈴ヲ設置スルモノハ第十一條使用料ノ外左ノ料金ヲ增加スヘシ(明治二十三年遞信省令第二十二號ヲ以テ本條改正)

- 一 市町外ノ地ニ電話器ヲ設置スルトキハ其市町ノ境界ヲ去ル三町迄毎ニ一箇年料金三圓
- 二 二箇以上ノ電話器ヲ設置スルトキハ一箇ヲ除キ其他一箇毎ニ一箇年料金八圓
- 三 別ニ電鈴ヲ設置スルトキハ一箇毎ニ一箇年料金八十錢

第十四條 加入者ニ於テ其使用ニ屬スル電話線ヲ他ニ轉架シ若クハ其電話器ヲ同一ノ家屋又ハ地所内ニ轉置センコトヲ望ムトキハ之ヲ電話交換局ニ請求スヘシ其轉架ニ要スル費用ハ(線條柱本其他器械物品ノ代價ヲ除ク)請求者ノ支辨トス但電話線ノ轉架ニ依リ使用料額ニ異動ヲ生スルトキハ轉架工事竣工ノ日ヨリ其料額ヲ改定スヘシ

第十五條 電話所ニ到リテ電話通信ヲ爲スモノ及加入者ニシテ他ノ市町ノ加入者又ハ其電話所ニ到ル者ト電話通信ヲナス者ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル電話料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ但加入者ニシテ其市町内ノ電話所ニ到ルモノト電話通信ヲナス場合ハ電話料ヲ支拂フヲ要セス

- 一 電話所ニ到ルモノハ郵便切手ヲ以テ電話料ヲ其電話所ニ納付スヘシ
- 二 加入者ハ通貨ヲ以テ其月分ノ電話料ヲ翌月十日迄ニ電話交換局ニ納付スヘシ(明治二十四年遞信省令第一號ヲ以テ本項改正)

第十六條 加入者ニシテ第三條第三項ニ據リ電報ヲ各地ニ發送スル爲メ郵便電信局又ハ電信局ニ電話通信ヲシタルトキハ其月分ノ電報料ヲ通貨ヲ以テ翌月十日迄ニ其郵便電信局又ハ電信局ニ納付スヘシ(同上)

第十七條 加入者ノ使用ニ屬スル電話線又ハ電話器ニ障害ヲ生シ三日以上電話通信ヲ休止シタルトキハ第四日ヨリ電話通信休止ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ使用料ヲ還付スヘシ但第二條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十八條 凡ソ加入者タラントコトヲ望ムモノハ左ノ書式ノ申込書ヲ差出スヘシ但他人所有ノ家屋又ハ地所内ニ電話器ノ設置ヲ要スルモノハ其所有者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

(書式之ヲ略ス)

鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱規則

(明治二十一年十一月勅令第七十八號)

朕鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則

第一條 遞信大臣ニ於テ鐵道所屬ノ電信電話線ヲ以テ公衆ノ通信ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認ムルトキハ當該官廳又ハ其所有者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二條 前條ノ取扱ヲ爲ストキハ總テ電信條例及電信取扱規則ニ依ルヘシ但鐵道事務ニ係ル電報ハ官報其他ノ電報ニ先タチ之ヲ傳送スヘシ

第三條 第一條ニ據リ公衆ノ通信ヲ爲サシメタルトキハ遞信省ハ當該官廳又ハ其所有者ニ對シ手数料ヲ交付ス其金額ノ割合ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱規則

(明治二十八年十月遞信省令第六號)

明治二十一年(十一月)遞信省令第四號鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱規則左ノ適改正シ來十一月一日ヨリ施行ス

鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱規則

第一條 鐵道所屬ノ電信電話線ヲ以テ通信スル公衆ノ電報ハ特ニ規定スルモノノ外總テ電信條例及電信取扱規則ニ依ルヘシ

第二條 電信局設置アル地ノ鐵道電信取扱所ニ於テハ留置トナス電報ノ外著信ヲ取扱ハス

第三條 電信局設置ナキ地ノ鐵道電信取扱所ニ於テハ區域ヲ限リ配達ヲナシ其區域外ニ宛タル電報ハ郵便配達トナスヘシ但特ニ指定シタル鐵道電信取扱所ニ於テハ別使配達又ハ解船配達ヲナスヘシ

第四條 公衆ノ電報ヲ取扱フ鐵道電信取扱所ノ位置名稱及通信取扱時限ハ之ヲ告示スヘシ

通 信 條

第五類 道路

◎ 國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ヲ定ム

(明治十八年一月太政官布達第一號)

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四間以上並木敷濕拔敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狹少ヲサルモノトス但國道線路ハ内務卿ヨリ告示スヘシ

◎ 鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入ス

(明治二十年七月勅令第二十八號)

朕鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
東京ヨリ鎮守府ニ達スル道路及鎮守府ト鎮守府ト拘聯スル道路ハ自今國道ニ編入ス

◎ 道路等級ヲ更定ス (明治九年六月太政官達第六十號)

明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管内限詳細取調内務省ヘ可伺出此旨相達候事但費用ノ儀ハ道テ一般布告候迄從前ノ通相心得可シ  
國道(等級ハ十八年一月太政官布達第一號ヲ以テ廢止ス)

縣道

一等 各縣ヲ接續シ及各鎮臺ヨリ各分營ニ達スルモノ

二等 各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ  
三等 著名ノ區ヨリ郡府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ開港等ニ達スルモノ  
里道

一等 彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ  
二等 用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ  
三等 神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設クルモノ  
右ノ内一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從テ國道或縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ

各地名殊ナルモノナレハ今邊ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖モ豫メ一般ノ法則ナキ時ハ  
道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定テ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設  
スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ  
國道(幅員ハ同上法令ニ依リテ定ム)  
縣道 道幅四間乃至五間  
里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ  
要セス

橋梁ハ即チ路線ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フテ至當トス然レトモ其幅ノ如キハ必  
スシモ道幅ニ隨フテ要セス

### ◎道路ノ敷地貸渡ヲ禁ス

(明治八年十二月內務省達乙第百六十五號)

從來ノ因襲ヲ以是迄道路ノ敷地ヲ貸渡住居差許置候分モ有之候處自今往來障害ノ有無ニ拘ハラヌ  
新タニ貸渡候儀難相成候爲心得此旨相達候事

### ◎道路河川變換ニ付民有地ヲ新道新川敷ト爲 ストキ舊道舊川敷ヲ代地トシテ下渡サシム

(明治九年六月內務省達乙第八十一號)

一般便宜ノ爲メ道路河川ヲ變換スルニ際シ民費ヲ以テ民有地ヲ新道新川敷ト爲シ舊道舊河敷不用  
ニ屬シ土功著手者其地ヲ請求スル時ハ右舊道舊川敷ハ新道新川敷ノ代地トシテ悉皆無代價ニテ可  
下渡此旨相達候事但官林内ニ在ル舊道舊川敷地ハ此限ニアラス(明治十六年乙第四十五號省達ヲ  
以テ但書ヲ追加ス)

### ◎道路掃除法 (明治五年十月布告第三百二十五號)

近來道路掃除ノ儀多クハ等閑ニ相成甚以不相濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ追テ道路ノ制  
被相立候マテハ從前掃除請持有之道筋ハ勿論持場無之場所ハ最寄町村へ公平ニ割渡左ノ條目ノ通  
掃除可爲致事

#### 第一條

一 總テ掃除請持丁場ハ風雨等ノ障リ有無ニ不拘必ス三箇月中一度ツツ掃除可致事

#### 第二條

一 風雨ノ後ハ必ス其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝へ導キ水溜ノ場所相減候様可致事  
第三條

一 竝木根返リ風折雪折等ハ追テ其廳ヨリ處分有之ト雖モ不取敢通路妨ナキ様取片付置可申事  
第四條

一 左右ニ溝渠無之道路ハ可成丈ケ路ノ兩縁ヲ低下ニシ雨水ノ捌方宜敷様可致事  
第五條

一 掃除丁場標杭往往等閑ニ致シ置候向モ有之右ハ必ス其請持丁場境ニ從是東或ハ南北何百何  
十何丁何那何村掃除丁場ト誌シ標杭可相建事  
第六條

一 路舖往往田畑ニ功添候ヨリ竝木根サシヲ失シ之カ爲メ根返ニ及ヒ易ク以ノ外ノ事ニ候以來  
決テ右等ノ所樂致ス間敷事  
右之通堅可相守候若等閑ニ差置ニ於テハ掛リ官員巡回ノ節屹度可申付事

鐵道略則 (明治五年五月第四百四十六號布告)

第六十一號布告鐵道略則別紙ノ通改正候條此旨相達候事但開局日限ノ限ハ治定ノ上追テ可相達候  
事

(別紙)

鐵道略則

第一條 賃金ノ事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然ラサレハ決  
シテ列車ニ乗ル可ラス

第二條 手形検査及渡方ノ事

手形検査ノ節ハ收ヲ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ検査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡  
ササル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」(「ステーション」トハ列車ノ立場ニテ旅客ノ乗下  
リ荷物ノ積ミ下ロシヲ爲ス所ヲ云フ)ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニシト  
其確證判然タル時ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中「ステーション」ニテ乘組立手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取  
リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乘込ムコト  
ヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アル時ハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乗ルコトヲ得ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ送ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車  
ニ乗ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ増賃金ヲ拂ハスシテ違  
キ場所ニ至リ送ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ到リナカラ  
車ヨリ下リ去ルコトヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃レントスル者ハ夫夫法ニ隨  
テ罰スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコト又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乗ルコトヲ禁ス

第六條 瘡癩等ノ病人ヲ禁止スル事

瘡癩及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乗車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外竝鐵道構外ヘ退去セシムヘシ

第七條 吸烟竝婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」構内吸烟ヲ禁セシ場所竝ニ吸烟ヲ禁セシ車内ニテ吸烟スルコトヲ許サス且婦人ノ爲ニ設ケアル車及部屋等ニ男子妄リニ立入ルヲ許サス若右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ戒ヲ用ヒサル者ハ車外竝ニ鐵道構外ニ直ニ退去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ不限總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」竝鐵道構内ニテ醉ニ乘シ妄狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛ノ者ヨリ車外及鐵道構内ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ不限浪リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等ヘ乗込ヲ禁スルノ事

機關方竝火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乘ラント爲ス可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其ノ筋ノ許シヲ得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲ニ設サル車ニ乘リ又ハ乘ラント爲ス可ラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛ノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直ニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道地所ヘ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道構内ヘ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリトモ總テ之カ爲メニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受取證書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且賃金モ五十圓ニ過ルコトナシ

第十三條 高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事

金銀紙貨幣郵便切手「爲替會社通用券」爲替手形約定證書金銀請拂證書地所建家沽券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫鑄細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及硝子器類陶器漆器酒類蠶繭絹布生熟絲等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄竝價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲ササル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルトモ牛一疋金二十圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ金五十圓以上羊或ハ豚一疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條 砲發ヲ禁スル事

何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事



「鐵道寮」ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトロリヤム」「クロシン、チイル」「トルペンタ  
イ」(石炭油等ヲ云)硝性並ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セザルヘシ

第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ請取ノ度毎ニハ右荷主或ハ掌領人ヨリ其品柄數量及姓  
名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ

第十八條 物品並蓄類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品並蓄類紛失損害アリトモ鐵道掛ノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非サレハ政府リ  
於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條 荷物運送賃金ノ事

何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尙拂ハサル時ハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若又其荷物既  
ニ他所ニ運送セシ時ハ其後同人附屬ノ荷物鐵道掛ヘ送來ルコトアル時ハ之ヲ留置キ同人ヘ告知  
ヲセタル上ニテ滯金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滯金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ  
又時宜ニヨリ右ノ取計ヒヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條 規則ニ從ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ從ハスンハ乘車及ヒ荷物ノ運送ヲ許ササルヘシ

第二十一條 規則等ノ變更布達ノ事

此規則中變更及加除アルトキハ遍ク告達スヘシ

第二十二條 荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條 此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫夫法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ「鐵  
道頭」或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第二十四條 旅客並荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變更アルト雖モ其變更毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ  
尤「鐵道頭」鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ  
以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條 此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ

右ノ條條此度確定候事

### 鐵道犯罪罰例 (明治六年三月第一號布告)

壬申第四百七十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事  
(別紙)

鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以內  
ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルトキハ其事情ニ  
依リ五百圓以內ノ罰金又ハ三月以內ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(明治十二年第十二號布告ヲ以テ本  
條改正以下同シ)

第二條 規則第四條ニ記スル處ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以內ノ罰金或ハ三十日以內ノ禁獄ニ處  
ス

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以內ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ没シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス  
第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ没シ十圓以内ノ罰金ニ處ス  
第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂ヒタル賃金ヲ没シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス(同上)

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(同上)

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス(同上)

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條 規則第十七條ニ記スル處ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三箇月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物一噸(千七百斤ヲ云)毎ニ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス一噸以下ハ十圓以内九一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス(同上)

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但其償金ノ追徴モ「鐵道察」ヨリ法官ヘ乞フトキハ法官ニ於テ追徴スヘシ

### 鐵道略則及同犯罪罰例私設鐵道ニ適用ノ件

(明治十六年七月第二十三號布告)

明治五年(五月)第四百四十六號布告鐵道略則及同六年(三月)第四百一號布告鐵道犯罪罰例ハ私設鐵道ニモ適用ス

### 私設鐵道條例

(明治二十年五月勅令第十二號)

朕私設鐵道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 私設鐵道條例

第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ

馬車鐵道ハ本條例定ムル所ノ限ニアラス

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第一 社名及本社所在地

第二 線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但略圖ヲ添フヘシ

第三 資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額

第四 鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算

第五 發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘキ株數ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ

第三條 政府ニ於テ第一條ノ願書及目論見書ヲ查閱シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ムルトキハ假免狀ヲ下付シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムルトキハ願書

ヲ却下スヘシ

第四條 政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審查シ妥當ナリト認ムルトキハ裁可ヲ經テ會社設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ鐵道布設ノ工事ニ著手スルコトヲ得ス

第六條 會社ハ其登記ノ日ヨリ六箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クトモ二箇月以內本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス(明治三十年三月法律第二十三號ヲ以テ本條改正)

第七條 軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ三呎六吋トス

第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス

第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地

第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四 鐵道布設及ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條 鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セントスルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ横斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危險防止ノ爲

メ必要ノ場所ニハ牆欄門戶堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルトキハ「鐵道局長官」ニ届出ヘシ

第十二條 「鐵道局長官」ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若シ不完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ會社ハ前項ノ開業免許狀ヲ得スシテ運輸ノ業ヲ開クコトヲ得ス

第十三條 「鐵道局長官」ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルトキハ更ニ監査ヲ受クヘシ

第十五條 官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ「公用土地買上規則」ニ據リ買上ケ會社ニ拂下ケヘシ但其土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初

「公用土地買上規則」ニ據テ買上ケラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以内ニ之ヲ買戻ササルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十七條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ

使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但其一部ニ對スル費用ヲ支辨スヘシ

第十八條 會社ハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナストキハ其實費ヲ支辨スヘシ

第十九條 明治十五年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ

第一 下等旅客二十人ノ坐位ニ當ル積量 一哩ニ付金一錢五厘以内

第二 一車(四噸積)貨切 一哩ニ付金五錢以内

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乘車セシムヘシ但其官吏ハ常乘切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工織兵器具天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但其公務タルコトヲ證スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ

第二十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムヘシ平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍事上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ載卸用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 「鐵道局長官」ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シテ之ヲ施設セシムルコトヲ得

第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接續シ若クハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若クハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第二十八條 會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルトキハ本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 旅客及貨物ノ運輸又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ増加スル場合ニ於テハ少クトモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ(明治三十年三月法律第二十四號ヲ以テ本條改正)

前項ノ旅客運賃額ヲ算定スルニ當リ一人ニ對スル最低額ヲ金三錢マテニ定ムルコトヲ得本條例ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ及哩數ニ對シテ運賃額ヲ定ムルトキ厘位以下端數ヲ生スルトキハ之ヲ錢位ニ切上グルコトヲ得

第三十條 列車發着時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ「鐵道局長官」ニ報告スヘシ

第三十一條 會社ハ半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ「鐵道局長官」ニ差出スヘシ

第三十二條 會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但其額ハ株主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

毎勘定季中ニ支拂フヘキ負債ノ元利金ヲ完償シタル後ニアラザレハ株主ニ純益金ノ配當ヲナス  
コトヲ得ス

第三十三條 會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一 資本勘定 軌道車輛器備停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設ニ係ル出納  
第二 收益勘定 前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納

第三十四條 私設鐵道ノ官設鐵道ニ接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及資金ノ割合等ハ「鐵道  
局長官」之ヲ定ムヘシ

二箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及資金ノ割合ニ係リ雙方ノ議協ハサル  
トキハ「鐵道局長官」ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ「鐵道局長官」ノ裁定ハ終局トス

第三十五條 政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後（特ニ營業期限ヲ定メタルモノハ其滿  
期後）ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權アルモノトス

第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ以テ買上  
價格ト定ムヘシ

第三十七條 會社ハ其登記ノ日ヨリ六箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延期内  
ニ竣功セサル時ハ免許狀ヲ返納ヲ命スヘシ但事宜ニ由リ其既設鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ附シ其  
買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ（明治三十年三月法律第二十三號ヲ以テ本條改正）  
第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ會社其賠  
償ノ責ニ任スヘシ

第三十九條 第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設工事ニ著手シタル  
時ハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理ヲサ  
サスシテ營業ヲナシタル時ハ「鐵道局長官」ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス  
第四十條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨  
害シタルトキハ政府ハ役員ヲ改選セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局  
ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス  
第四十一條 本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

### 私設鐵道條例ニ依ル電氣鐵道電氣取締規則

（明治三十年七月遞信省令第二十四號）

明治二十九年（五月）遞信省令第八號私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則左ノ通改正ス

私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣取締規則

第一條 此ノ規則中電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用フル金屬線ヲ謂フ

第二條 此ノ規則中電路ト稱スルハ發電機、電線其ノ他ノ器具、大地等電流ノ通過スル一全路ヲ  
謂フ

第三條 此ノ規則中低壓ト稱スル直流法ニアリテハ六百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三百實效

「ヴォルト」ヲ超過セザル電壓ヲ謂フ

高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニアリテハ三千五百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三  
千五百實効「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

特別高壓ト稱スルハ高壓ノ體限ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

第四條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流法ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴォルト」以下タルヘシ但六百「ヴォルト」以上ノ電壓又ハ交流法ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第五條 特別高壓電氣ノ使用ハ特種ノ保安裝置ヲ爲スモノニ限り遞信大臣其ノ土地ノ狀況ニ依リ許可スルモノトス

第六條 遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ歸線ノ一部トシテ大地ヲ使用スルコトヲ許可セサルコトアルヘシ

第七條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコトナク且絶縁物ニ變化ヲ顯ハサルモノタルヘシ

第八條 各電線ニハ完全ナル安全器ヲ備ヘ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度ヲ増サシムヘカス

第九條 架空電車線ノ太サハ直徑二分五厘以上ニシテ極メテ強硬ナル線條ヲ用フヘシ但危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十條 架空電線ハ電車線ヲ除ク外總テ絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外裝シタルモノタルヘシ

三百「ヴォルト」以上ノ電壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ適當ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里一百「オーム」以上ノモノタルヘシ

高壓ニ使用スル電線ノ被覆ハ護膜又ハ之ニ相當スル善良ナル絶縁物ヲ以テシ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ヴォルト」

以上ノ電壓ヲ以テ試験シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里四十万「オーム」以上ノモノタルヘシ  
人家ヲ隔離シ交通稀少ニシテ危險ノ虞ナシト認ムル場所ニ於ケル架空電線ハ遞信大臣ノ許可ヲ得テ前各項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十一條 各電路ノ必要ナル場所及電車ニハ避雷ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十二條 大地ト接續セサル電路ニハ必ス漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十三條 道路ニ架設スル架空電線ハ電車線ヲ除ク外道路ノ片側ニアラサレハ其架設ヲ許サス若  
架空ノ電燈線、電力線又ハ他ノ電氣鐵道用電線ノ架設シアル道路ニ架設スルトキハ之ト同側ニ架設シ若道路ノ片側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ片側ニ架設スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十四條 架空ノ電車線ハ地表ヲ距ル十六尺以上其ノ他ノ架空電線ハ道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上造營物ノ上ヲ架設スルトキハ六尺以上隔離セシムヘシ但土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十五條 電信線、電話線其ノ他電氣信號線ヲ架設セル場所ニ架空電線ヲ架設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル様隔離スヘシ

第十六條 電信線、電話線又ハ其ノ他ノ電氣信號線ト其ノ上部ニ於テ交又シ若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ

第十七條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部三尺以上ノ距離ニ於テ少クトモ二條ノ金屬線ヲ絶縁架設スルカ若ハ適當ナル方法ヲ設ク電信線、電話線其ノ他電氣信號線ト電氣的混觸ヲ豫防スルノ裝置

ヲ爲スヘシ但危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第十八條 架空電線ハ他人ニ屬スル架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト並行、交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ三尺以上ヲ離隔スヘシ但其ノ關係管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ本條規定ノ距離ニ據ラスシテ架設スルコトヲ得ヘシト雖二尺以内ニ接近セシムヘカラス

第十九條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障起リタル場合ニ於テ容易ニ電流ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但逓信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ本條ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ幹線ハ各要所ニ開閉器ヲ裝置シ火急ノ場合ニ於テ送電ヲ停止スルニ便ナラシムヘシ各幹線ニハ發電所ニ於テ鋭敏ナル自動遮斷法ヲ設クヘシ

第二十條 他人ニ屬スル架空ノ電燈線電力線又ハ電氣鐵道用電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ架設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但工事止ムヲ得サル場所ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架設スルモノハ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十一條 歸線ハ軌道ノ中間若ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設スル部分及軌道ヲ除ク外ハ總テ大地ヨリ絶縁スヘシ但他ニ障害ヲ及ボスノ虞ナシト認ムル場所ハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十二條 絶縁セサル歸線ヲ使用スルトキハ其ノ歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但土地ノ狀況ニ依リ逓信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

第二十三條 絶縁セサル歸線ヲ使用スル場合ニ於テ地下ニ埋設シタル金屬體アルトキハ左ノ各項ニ據リ施設ヲ爲スヘシ但金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 歸線ハ地下埋設ノ金屬體ヨリ成ルヘク離隔シ其ノ距離六尺以上タルヘシ但工事止ムヲ得サルトキハ六尺以内ニ近クルコトヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通過スルニアラサレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムヘシ

二 歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四「ヴォルト」又金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差二「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

三 軌道ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ

四 軌道ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル歸線ヲ用フヘシ

五 軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設シタル絶縁セサル歸線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌道ト接続スヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ最大電位ノ差及第二十五條ニ規定スル接地点ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝置ヲ爲シ之ヲ毎日記録シ置クヘシ

第二十五條 發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ於テ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地点間ニ「アマペア」以上ノ電流ヲ發セシムル様施設シ少クトモ毎月一

同以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ  
前項接地点ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設シ又埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上タルヘシ

本條ニ適合セル接地点ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得  
第二十六條 絕緣電線ノ絕緣力ハ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ「アマムペアー」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様維持スヘシ若其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ「アマムペアー」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ停止スヘシ但地下ニ埋設シタル絕緣電線ノ絕緣力ハ一里四百萬「アマム」ヲ下ルヘカラス

遞信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ノ制限ヲ輕減スルコトアルヘシ

第二十七條 前條第一項本文漏洩電流ハ毎日一回第一項但書ノ絕緣力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試験シ其成績ヲ記録シ置クヘシ

第二十八條 歸線ト金屬體トノ電氣的接觸ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接觸ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第二十九條 架空電線以外ノ電線ヲ他ノ金屬體ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ施設スルトキハ其ノ電線又ハ之ヲ納メ若ハ保護スル爲用フル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル様豫防方法ヲ設クヘシ

第三十條 埋線試験口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトナキ様築造スヘシ若瓦斯ノ浸入スルコトアルモ電氣作用ノ爲爆發セサル様豫防方法ヲ設クヘシ

第三十一條 高壓電線ト低壓電線トナ同一ノ管若ハ樋内ニ納ムルコトヲ許サス

第三十二條 架空電線以外ノ高壓電線ヲ人畜ニ危害ヲ及ホスノ虞アル場所ニ施設スルトキハ完全ナル絕緣方法ヲ施シ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ納ムヘシ

第三十三條 電線ヲ納ムル暗渠、管若ハ樋等ハ堅牢ニシテ荷重其ノ他重大ナル重量ノ壓力ニ堪ヘ且容易ニ瓦斯又ハ水ノ浸入セサル様築造スヘシ

第三十四條 電線ヲ納メ若ハ之ヲ體裝スル爲用フル金屬體ハ充分大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短小ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 開閉器、安全器、抵抗器及其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質ノモノタルヘシ否ラザレハ耐火質ノ物體ニ取附クヘシ

第三十六條 變壓所ハ事業ノ爲專用スル場所ニ設置スヘシ

變壓器ハ營業者ノ外容易ニ之ニ觸ルルコト能ハサル場所ニ設置スヘシ

第三十七條 變壓器ノ内外ヲ問ハス低壓電線ト高壓電線ト相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ノ方法ヲ設クヘシ

第三十八條 電柱上ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ圍内ニ納メ地上十六尺以上ノ所ニ取附ヘシ

第三十九條 電柱ニハ事業者名並電柱ノ番號ヲ記スヘシ

高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第四十條 此ノ規則中第七條第三十四條及第三十五條ノ規定ハ發電所、配電所及變壓所内ニ適用セス

第四十一條 毎日運轉スル車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記録シ置クヘシ



第四十二條

事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添ヘ逓信大臣ニ届出ヘシ爾後之ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ届出ヘシ但逓信大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四十三條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電車ニ避難器、速度制限器、特種ノ緩急器等ヲ装置セシムルコトアルヘシ

第四十四條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ事業者ニ命シ電氣用器具及物品ノ見本ヲ差出シ其ノ試験ヲ受ケシムルコトアルヘシ若シ試験ノ成績不完全ナリト認ムルトキハ改修又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ但其ノ試験ニ係ル費用ハ事業者ノ負擔トス

第四十五條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ此ノ規則規定以外ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第四十六條 逓信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ第二十四條第二十五條第二十七條第二十八條及第四十一條ノ記録ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第四十七條 逓信大臣ハ出火其他非常ノ場合ニ際シ危險豫防ノ手續ヲ爲サシムルカ爲必要ト認ムルトキハ常ニ電氣線路ノ各要所ニ技術者又ハ工夫ノ散宿ヲ命スルコトアルヘシ

第四十八條 事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ出張員ハ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯スヘシ

第四十九條 事業者ハ電送中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ其ノ區域内ノ電流ヲ遮斷ス

ヘシ

前項ニ依リ送電ヲ止メタル區域内電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲ケヘシ

第五十條 前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第五十一條 事業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ逓信大臣ニ届出ヘシ

第五十二條 左ノ事項ハ三日以内ニ逓信大臣ニ届出ヘシ

- 一 主任技術者ノ改氏名
- 二 送電ノ停止及廢止但其ノ理由ヲ記スヘシ
- 三 幹線又ハ絕緣歸線ノ増設又ハ變更
- 四 車輛數及其ノ増減

第五十三條 私設鐵道條例第十二條ニ據リ開業免許狀ヲ下付セラレタル後ニ於テ工事設計中電氣ニ關スル事項ヲ變更セムトスルトキハ同條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書中關係事項ヲ記載セル書類ヲ添ヘ逓信大臣ニ願出認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル工事落成シタルトキハ其旨逓信大臣ニ届出ヘシ

逓信大臣ハ前項ノ届出ニ依リ工事ヲ検査シ完全ナリト認ムルトキハ使用認可書ヲ下付スヘシ但検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ

第五十四條 此ノ規則ニ據リ逓信大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

第五十五條 事業者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ據リ發スル命令ヲ遵守セサルカ爲危險ノ虞アリト認ムルトキハ逓信大臣ハ其ノ危險ノ除去セラルルマテ電氣ノ使用ヲ停止スルコト

アルハシ

第五十六條 事業者此ノ規則第四條第二十八條前段第三十九條第四十二條第四十八條及第四十九條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十一條及第五十二條ノ届出ヲ爲サス又ハ第四十六條ノ記録ヲ差出サス若ハ第二十四條第二十五條第二十七條第二十八條及第四十一條ノ記録ヲ爲ササル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス  
前項ノ罰則ハ其ノ所爲ヲ爲シタル取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス  
第五十七條 此ノ規則ハ明治三十年八月一日ヨリ實施ス

◎軌道條例 (明治二十三年八月法律第七十一號)

朕軌道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軌道條例

第一條 一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得  
第二條 馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若ハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ内閣ノ認定ヲ經テ之ヲ收用スルコトヲ得  
第三條 在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

◎鐵道敷設法 (明治二十五年六月法律第四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道敷設法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
鐵道敷設法

第一章 總則

第一條 政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス  
第二條 豫定鐵道線路ハ左ノ加シ

中央線

- 一 神奈川縣下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ四筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道
- 一 長野縣下長野若ハ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ前項ノ線路ニ接續スル鐵道
- 一 山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道

中央線及北陸線ノ連絡線(明治三十年法律第六號ヲ以テ本項改正)

- 一 岐阜縣下多治見ヨリ岐阜ニ至ル鐵道

- 一 前項ノ線路ヨリ分岐シ若ハ長野縣下松本ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

北陸線

- 一 福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ石川縣下七尾ニ至ル鐵道

- 一 京都府下舞鶴ヨリ福井縣下小濱ヲ經テ敦賀ニ至ル鐵道 (明治二十八年法律第十一號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

北陸線及北陸線ノ連絡線

一 富山縣下富山ヨリ新潟縣下直江津ニ至ル鐵道

北越線

一新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豊野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道

羽越線及岩越線(明治二十八年法律第十二號ヲ以テ本項改正)

一新潟縣下新發田ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道

一新潟縣下新津ヨリ福島縣下若松ヲ經テ白河、本宮近傍ニ至ル鐵道

奥羽線

一福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ山形縣下酒田ニ至ル鐵道

一宮城縣下仙臺ヨリ山形縣下天童若ハ宮城縣下石ノ巻ヨリ小午田ヲ經テ山形縣下船形町ニ至ル鐵道

一巖手縣下黒澤尻若ハ花巻ヨリ秋田縣下横手ニ至ル鐵道

一巖手縣下盛岡ヨリ宮古若ハ山田ニ至ル鐵道

總武線及常磐線

一東京府下上野ヨリ千葉縣下千葉佐倉ヲ經テ銚子ニ至ル鐵道及本線ヨリ分岐シテ木更津ニ至ル鐵道

鐵道

一茨城縣下水戸ヨリ福島縣下平ヲ經テ宮城縣下岩沼ニ至ル鐵道

近畿線

一奈良縣下奈良ヨリ三重縣下上柘植ニ至ル鐵道

一大阪府下大阪若ハ奈良縣下八木又ハ高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一京都府下京都ヨリ奈良縣下奈良ニ至ル鐵道

一京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道

山陽線

一廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道

一廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道

山陰線

一京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豊岡、鳥取縣下鳥取、島根縣下松江、濱田ヲ經テ山口縣下山口近傍ニ至ル鐵道

山陰及山陽連絡線

一兵庫縣下姫路ヨリ生野若ハ笹山ヲ經テ京都府下舞鶴又ハ園部ニ至ル鐵道若クハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道

一兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下米

子及境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷又ハ玉島ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道

一廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

一廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

一廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

四國線

一香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道

一德島縣下德島ヨリ前項ノ線路ニ接續スル鐵道

一香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道

九州編

- 一 佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下佐世保及長崎ニ至ル鐵道
  - 一 熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道及宇土ヨリ分岐シ八代ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道
  - 一 熊本縣下熊本ヨリ大分縣下大分ニ至ル鐵道
  - 一 福岡縣下小倉ヨリ大分縣下大分、宮崎縣下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道
  - 一 福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道
  - 一 福岡縣下久留米ヨリ山鹿ヲ經テ熊本縣下熊本ニ至ル鐵道
- 以上ノ線路ニ變更増減ヲ要スルモノアルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ決定スヘシ
- 第三條 鐵道工事ハ緩急ニ應ジテ其期限ヲ數期ニ區分シ每期ノ工事ヲ繼續事業トス
  - 第四條 鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
  - 第五條 鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス
  - 第六條 鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル
- 第二章 第一期鐵道及公債募集
- 第七條 豫定線路中左ノ線路ハ第一期間ニ於テ其ノ實測及敷設ニ著手ス
- 一 中央豫定線ノ内「神奈川縣」下八王子若ハ靜岡縣下御殿場ヨリ山梨縣下甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ伊那郡若ハ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第六號ヲ以テ東京府下八王子ヨリ山梨縣甲府及長野縣下諏訪ヲ經テ西筑摩郡ヨリ愛知縣下名古屋ニ至ル線路ニ決ス）

- 一 北陸豫定線ノ内福井縣下敦賀ヨリ石川縣下金澤ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道
- 一 北越豫定線ノ内新潟縣下直江津又ハ群馬縣下前橋若ハ長野縣下豊野ヨリ新潟縣下新潟及新發田ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第七號ヲ以テ新潟縣下直江津ヨリ新潟及新發田ニ至ル線路ニ決ス）
- 一 奥羽豫定線ノ内福島縣下福島近傍ヨリ山形縣下米澤及山形、秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道
- 一 山陽豫定線ノ内廣島縣下三原ヨリ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道及廣島縣下海田市ヨリ吳ニ至ル鐵道
- 一 九州豫定線ノ内佐賀縣下佐賀ヨリ長崎縣下長崎及佐世保ニ至ル鐵道及熊本縣下熊本ヨリ三角ニ至ル鐵道
- 一 近畿豫定線ノ内京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル鐵道若ハ兵庫縣下土山ヨリ京都府下福知山ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第八號ヲ以テ京都府下京都ヨリ舞鶴ニ至ル線路ニ決ス）
- 一 近畿線ノ内大阪府下大阪若ハ奈良縣下高田若ハ八木ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道（明治二十七年法律第九號ヲ以テ奈良縣下高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル線路ニ決ス）
- 一 山陰山陽聯絡豫定線ノ内兵庫縣下姫路近傍ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル鐵道又ハ岡山縣下岡山ヨリ津山ヲ經テ鳥取縣下境ニ至ル鐵道若ハ岡山縣下倉敷ヨリ鳥取縣下境ニ至ル鐵道（明治二十七年法律十號ヲ以テ兵庫縣下姫路ヨリ鳥取縣下鳥取ヲ經テ境ニ至ル線路ニ決ス）

一中央豫定線ノ内長野縣下長野若ノ篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ第一項ノ線路ニ接續スル鐵道(明治二十七年法律第十一號ヲ以テ本項ヲ追加シ且同年法律第十二號ヲ以テ長野縣下篠ノ井ヨリ松本ヲ經ル線路ニ決ス)

一九州豫定線ノ内熊本縣下宇土ヨリ八代ヲ經テ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道(同上)

以上線路ノ外ニ尙敷設ノ急ヲ要スヘシト認ムルモノアルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ更ニ第一期工事トシ特ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

比較線路ハ政府ニ於テ更ニ調査ヲ遂ケ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ決定スヘシ

第八條 第一期鐵道工事ハ起工ノ年ヨリ向フ十二箇年ヲ以テ成效期限トス

第九條 第一期鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金六千萬圓ヲ限リ明治二十六年ヨリ十二箇年間ニ漸次公債ヲ募集スヘシ(明治二十六年法律第十一號ヲ以テ明治二十五年ヨリ明治二十六年度ニ改ム)

第十條 政府ハ第一期ニ敷設スヘキ鐵道線路ヲ實測シ每線路ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第三章 私設鐵道ノ處分

第十一條 既成私設鐵道ニシテ第二條ニ依リ敷設スヘキ線路ノ爲買收ノ必要アリト認ムルモノハ政府ハ其ノ會社ト協議ノ上價額ヲ豫定シ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第十二條 私設鐵道買收ノ費用ハ公債ヲ發行シ代價トシテ其ノ會社ニ交付スヘシ

第十三條 豫定鐵道線路中私設會社ニ敷設ヲ許可シタルモノハ其ノ會社ノ全部線路ヲ買收スルカ又ハ會社ノ申請ニ依リ相當ノ處分ヲシタル上ニアラサレハ之ヲ敷設セス

第十四條 豫定鐵道線路中未タ敷設ニ著手セサルモノニシテ若私設鐵道會社ヨリ敷設ノ許可ヲ願出ル者アルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章 鐵道會議

第十五條 政府ハ鐵道會議ニ諮詢シテ左ノ事項ヲ施行ス

一鐵道工事著手ノ順序

一第十條ノ決定ニ基キ鐵道工事ノ都合ニ依リ其ノ都度募集スヘキ公債金額

第十六條 鐵道會議ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎北海道鐵道敷設法 (明治二十九年五月法律第九十三號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル北海道鐵道敷設法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道鐵道敷設法

第一條 政府ハ北海道ニ必要ナル鐵道ヲ完成スル爲漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設ス

第二條 北海道豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

一石狩國旭川ヨリ十勝國十勝太及釧路國厚岸ヲ經テ北見國網走ニ至ル鐵道

一十勝國利別ヨリ北見國相ノ内ニ釧路國厚岸ヨリ根室國根室ニ至ル鐵道

一石狩國旭川ヨリ北見國宗谷ニ至ル鐵道

一石狩國雨龍原野ヨリ天鹽國増毛ニ至ル鐵道

一天鹽國奈與呂ヨリ北見國網走ニ至ル鐵道

一後志國小樽ヨリ渡島國函館ニ至ル鐵道

- 第三條 北海道鐵道工事ノ實地ノ緩急ニ應シ各線ヲ數區ニ分テ每區ノ工事ヲ繼續事業トス
- 第四條 北海道鐵道事業ニ要スル費用ハ公債ヲ募集シテ之ニ充ツ
- 第五條 北海道鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トス
- 第六條 北海道鐵道公債ニ關シ本法ニ規定ナキモノハ總テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ據ル
- 第七條 北海道鐵道敷設ノ費用ニ充ツル爲金三千三百萬圓ヲ限リ明治三十年度ヨリ工事ノ緩急ト  
財政ノ都合ヲ圖リ漸次公債ヲ募集ス
- 第八條 政府ハ鐵道線路ヲ實測シ每區ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ
- 第九條 明治二五十年法律第四號鐵道敷設法第十四條、第十五條ハ本法ニ適用ス

道路終

### 第六類 稅關

#### 稅關法

(明治二十三年九月法律第八十號)

朕稅關法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命  
ス

#### 稅關法

- 第一條 各開港ニ於テ西洋形船舶外國通航ノ日本形船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ニ關スル事項ハ總  
テ稅關ノ所管トス
- 第二條 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項ハ其所管ノ稅關ニ於テ之ヲ處理ス
- 第三條 船舶ハ法律命令ニ特例ヲ掲ケタル場合ヲ除ク外不開港ヨリ外國ニ向テ出港シ若ハ外國ヨ  
リ不開港ニ入港スルコトヲ得ス犯ス者ハ船長ヲ千圓ノ罰金ニ處ス
- 外國通航船ハ法律命令ニ特例ヲ掲ケタル場合ノ外開港ヲ經テ不開港ニ入港スルコトヲ得ス犯ス  
者ハ罰前項ニ同シ
- 第四條 外國ニ通航セントスル船舶ハ豫メ稅關長ノ認許ヲ受クヘシ其認許ヲ受ケスシテ外國ニ向  
テ出港シタル者ハ船主ヲ千圓ノ罰金ニ處ス其積載シタル貨物ハ之ヲ沒收ス
- 第五條 納稅ヲ遁脫若ハ減少センカ爲メ詐僞ノ文書ヲ稅關ニ差出シタル者ハ百二十五圓ノ罰金ニ  
處ス
- 第六條 輸入手數未済ノ貨物ヲ積載シタル沿海通航船ヨリ稅關規則ニ依リ仕留港稅關ニ差出シタ

ル積荷目録仕出港税關ニ差出シタル積荷目録ニ對シ貨物不足アリテ其所爲不正ニ出タルトキハ船長ヲ千圓ノ罰金ニ處ス

第七條 税關規則ニ依リ輸出禁制品ヲ開港間ニ回漕スル者ハ同規則ニ定ムル期限内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ仕出港税關ニ差出スヘシ違フ者ハ原價同額ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條 税關規則ニ依リ貨物ヲ開港間ニ回漕シ其回漕免狀ヲ紛失若ハ遺忘シタル者同規則ニ定ムル期限内ニ其手續ヲ爲ササルトキハ其回漕シタル貨物原價百分ノ五ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

第九條 積荷目録ニ記載セサル輸入貨物ヲ陸揚シタル者ハ其貨物輸入税ノ外同額ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 輸出禁制品ヲ輸出シタル者又ハ法律命令ニ背キ不開港ニ於テ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲シタル者ハ其貨物ヲ沒收ス

税關規則ニ依リ陸揚免狀ヲ受ケスシテ貨物ヲ船卸シ船積免狀若ハ回漕免狀ヲ受ケスシテ船積シ又ハ輸入免狀ヲ受ケスシテ輸入シタル者ハ其貨物ヲ沒收ス

第十一條 輸出入包貨内ニ禁制品ヲ藏匿シ又ハ輸出入申告書若ハ仕入書ニ記載セサル有税品ヲ藏匿シタルトキハ其包貨ヲ併セテ之ヲ沒收ス

旅具中ニ有税品ヲ藏匿シタルトキハ其物品ヲ沒收ス  
本條ヲ以テ刑法ノ適用ヲ妨グルコトナシ

第十二條 沒收スヘキ貨物ニシテ既ニ之ヲ賣却シ又ハ消費シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第十三條 税關長ハ本法及税關規則執行上必要ト認ムルトキハ船舶ノ出港ヲ止メ又ハ税關監吏ニ令狀ヲ發シ輸出入貨物及ヒ運送ノ用ニ供スル物件ヲ差押ヘシムルコトヲ得

第十四條 税關監吏ハ入港ノ船舶ニ乗込ニ要件ヲ尋問シ船内ヲ検査シ又ハ其船舶ニ臨監スルコトヲ得

船長ハ臨監ノ監吏ニ船室ヲ與ヘ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十五條 税關監吏ハ密輸入品アルヲ知リ若ハ密輸入品アリト思料スルトキハ家屋及其他ノ場所ニ立入り犯則ノ證據搜查ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前條及本條ノ場合ニ於テ税關監吏ハ主任タルノ證據ヲ携帯スヘシ

第十六條 税關長ハ本法及税關規則ヲ犯シタル者ニ對シ其罰金若ハ科料ニ相當スル金額又ハ沒收スヘキ貨物及犯則取調ニ要シタル費用ヲ税關ニ納ムヘキ旨ヲ申渡スコトヲ得

第十七條 前條ノ申渡ヲ受ケタル者ハ税關休日ヲ除キ二日內ニ其申渡ニ服従スルキ否ノ届書ヲ差出スヘシ

申渡ニ服従スル旨ヲ届出タルトキハ貨物ハ即日金額ハ十日內ニ納ムヘシ申渡ニ服従セサル旨ヲ届出若ハ第一項ノ期限内ニ届出ヲ爲サス又ハ金額貨物ヲ納メサルトキハ税關長ハ其犯則事件ヲ告發スヘシ

第十八條 税關長犯則事件ノ取調ヲ爲ストキハ犯人及證人關係人ヲ召喚スルコトヲ得

税關長ハ犯人及證人關係人召喚ニ應セズ又ハ證人タルコトヲ拒ミ又ハ事實ノ申告ヲ爲ササルニ因リ第十六條ノ申渡ヲ爲シ難キトキハ其犯則事件ヲ告發スヘシ

第十九條 税關長ノ處分スル犯則事件取調ノ費用ハ刑事裁判ノ例ニ依テ之ヲ算定ス

第二十條 本法及税關規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 本法ニ規定スル所ノ外外國通航船沿海通航船及輸出入貨物並ニ減稅免稅假納稅ニ關ル事項ハ稅關規則ヲ以テ之ヲ規定ス

稅關規則ニハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 稅關規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

明治三年正月二十七日布告商船規則中免許ナク外國へ通船ノ儀不相成云云ノ一項及同七年第百二十三號同八年第二十號同年第百六十三號同九年第百四十九號布告ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

稅關規則 (明治二十三年九月勅令第二百三號)

朕稅關規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

稅關規則

第一章 外國通航船及輸出入貨物

第一條 外國通航船入港シタルトキハ其船長ハ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ入港届書及積荷目錄ヲ稅關ニ差出ト同時ニ船籍證書船舶登記證書船鑑札及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ證書類ヲ稅關ニ預ク入港手数料十五圓ヲ納ムヘシ但貨物ヲ積卸セスシテ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ出港スル者ハ此手数料ヲ爲スニ及ハス

第二條 積荷目錄ニ遺漏者ハ相違ノ事項アルトキハ入港手数料了リタル時ヨリ二十四時内ハ稅關ノ認許ヲ得之ヲ訂正スルコトヲ得

前項ノ時限ヲ經過シタル後積荷目錄ヲ訂正セントスルトキハ手数料十五圓ヲ納ムヘシ

第三條 外國通航船出港セントスルトキハ其船長ハ出港ノ時ヨリ二十四時前ニ出港届書ヲ稅關ニ差出シ出港手数料七圓ヲ納メ第一條ニ依リ稅關ニ預ケタル船籍證書船舶登記證書船鑑札及證書類ヲ受戻シ出港免狀ヲ受クヘシ

第四條 外國通航船出航手数料了リタル後尙ホ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚セントスルトキハ更ニ第一條ノ手数料ヲ爲シ其手数料ヲ納メ其出港ノ時モ亦第三條ノ手数料ヲ爲シ其手数料ヲ納ムヘシ但稅關手数料既済ノ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚スル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 郵船ハ同時ニ入港及出港ノ手数料ヲ爲スコトヲ得

第六條 郵船ハ其港ニ陸揚スル貨物ノ外ハ積荷目錄ニ記載スルコトヲ要セス

第七條 郵船ハ出港手数料了リタル後ト雖第四條ノ手数料ヲ爲サスシテ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚スルコトヲ得

第八條 外國通航船航海中避難ノ爲メ已ムヲ得スシテ入港シタルトキハ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ其事由ヲ稅關ニ申出認許ヲ受クヘシ

前項船舶修繕其他已ムヲ得サル事故ニ由リ假ニ其積荷ヲ陸揚シ又ハ損傷ノ貨物ヲ賣拂ヒ若ハ船中必需ノ物品ヲ積入ル場合ニ於テハ入出港手数料ヲ爲スヲ要セス其他ノ貨物ヲ陸揚シ船積シ船移シ若ハ假ニ陸揚シタル貨物ヲ賣拂ハントスルトキハ第一條ノ手数料ヲ爲シ其手数料ヲ納メ其出港ノ時モ亦第三條ノ手数料ヲ爲シ其手数料ヲ納ムヘシ

第九條 外國通航船ハ日没ヨリ日出マテノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ陸揚シ船積シ若ハ船移スルコトヲ得ス



前項ノ日時間ハ艙口其他貨物ヲ納ルヘキ場所ハ税關監吏之ヲ封鎖スヘシ

第十條 外國通航船避難ノ爲メ已ムヲ得スシテ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ其事由ヲ記シタル書面ヲ其地ノ町村役場若ハ浦役場ニ差出スヘシ若船中需用品ヲ積入ルルトキハ別ニ其目錄ヲ差出シ各其證明ヲ受ケ他日開港ニ入港シタルトキ之ヲ税關ニ差出ヘシ

第十一條 船舶ヲ外國通航船ト爲シ及外國通航船ヲ沿海通航船ト爲サントスルトキハ船主ヨリ税關ニ申出船中ノ検査ヲ經免狀ヲ受クヘシ

第十二條 輸出貨物ヲ船積セントスル者ハ其申告書ヲ税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ經輸出税目ニ從ヒ納税シ船積免狀ヲ受クヘシ

第十三條 輸入手數既濟ノ外國產貨物ヲ外國ニ積戻サントスル者ハ輸出税ヲ納ムルニ及ハス但書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出検査ヲ經船積免狀ヲ受クヘシ

第十四條 船中ノ需用品ニ付キテハ輸出税ヲ納ムルニ及ハス但船長ハ前條ノ手數ヲ爲スヘシ

第十五條 輸入貨物ヲ陸揚セントスル者ハ其申告書ヲ仕入書ニ添ヘ之ヲ税關ニ差出シ陸揚免狀ヲ受ケ其貨物ヲ陸揚シ現品ノ検査ヲ經輸入税目ニ從ヒ納税シ輸入免狀ヲ受ケテ之ヲ引取ルヘシ

前項ノ仕入書ハ貨物ノ輸入手數濟ノ上其貨主ニ返付スヘシ

第十六條 內國產ノ貨物ヲ外國ヨリ積戻リ左ノ事項ヲ具備スルトキハ輸入税ヲ納ムルニ及ハス但前條ノ手數ヲ爲スヘシ

- 一 輸出ノ時ノ性質者ハ形狀ヲ變セザルコト
- 二 輸出ノ日ヨリ滿五箇年ヲ經過セザルコト
- 三 輸出免狀ヲ付スルコト

第十七條 無税品ヲ除クノ外仕入書ヲ付セザル貨物ハ輸入ヲ許サス但税關長其仕入書ヲ差出シ能ハサル理由アリト認メ該貨主税關官吏ノ査定セル數量、尺度若ハ價額ニ從ヒ納税スルモノハ此ノ限ニアラス

第十八條 價ニ從ヒ徵税スヘキ貨物ニシテ其原價ヲ税關ニ於テ不相當ト認ムルトキハ税關鑑定官吏ヲシテ其價ヲ査定セシメ其査定額ニ從ヒ納税セシムヘシ

若シ貨主前項ノ査定額ニ從ヒ納税スルコトヲ欲セザルトキハ該査定額ヲ以テ税關ニ其貨物ノ買上ヲ請フコトヲ得但第十七條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第十九條 外國通航船貨物ヲ他ノ船舶ニ若ハ他ノ船舶ヨリ積移サントスルトキハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出船移免狀ヲ受クヘシ但郵船ニ積載シタル貨物ヲ其會社所屬ノ庫船若ハ舢舨ニ積移スルニハ免狀ヲ受クルニ及ハス

第二十條 有税ノ貨物損傷シタルカ爲メニ減税ヲ請ハントスル者ハ現品ノ検査ヲ受クル前其旨ヲ税關長ニ申出ヘシ税關長ハ税關鑑定官吏ヲシテ現品損傷ノ程度ヲ査定セシメ相當ノ減税ヲ爲スヘシ

第二十一條 外國軍艦ノ備用品ヲ買受クルトキハ賣主ノ證明書ヲ受ケ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出相當ノ輸入税ヲ納ムヘシ

第二十二條 內國產金銀地金ハ政府ニ於テ購賣シタルモノヲ除クノ外ハ輸出スルコトヲ得ス

第二十三條 船客ノ旅具ハ陸揚船積共書面ヲ以テ其旨ヲ申出ルニ及ハス但通關前ニ税關監吏ノ検査ヲ受クヘシ

税關ニ於テ旅具ト認メザルモノハ相當ノ税金ヲ納メシムヘシ

第二十四條 第八條ノ船舶修繕其他已ムヲ得サル事故ニ由リ一時貨物ヲ陸揚スルトキハ之ヲ税關ニ預クヘシ

前項ノ貨物ヲ陸揚シ及之ヲ本船ニ積戻スニハ輸入出ノ手數ヲ爲スニ及ハズ但其貨物ノ保管ニ要スル諸費ハ船長ヨリ之ヲ税關ニ納ムヘシ

第一項ノ貨物ヲ賣拂ハントスルトキハ第十五條ノ手數ヲ爲シ其税金ヲ納ムヘシ

第二十五條 外國通航船者ハ外國船ヲ以テ貨物ヲ開港間ニ回漕セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出現品ノ検査ヲ經回漕免狀ヲ受ケテ之ヲ船積スヘシ

第二十六條 前條ノ貨物若シ有税内國產ナルトキハ相當ノ税金ヲ假納スルカ若ハ税關長ノ満足スヘキ證書ヲ差入レ置キ回漕免狀付與ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出シ其假納税金若ハ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スヘシ

前項ノ期限内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出ササルニ於テハ輸出シタルモノト看做シ其税金ヲ納メシムヘシ

第二十七條 第二十五條ノ貨物若シ輸出禁制品ナルトキハ回漕免狀付與ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出スヘシ

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ貨物ヲ積載シタル船舶航海中破船其他ノ事故ニ由リ貨物ヲ仕向港ニ回漕シ能ハサルトキハ其事由ヲ仕向港税關ニ届出該船出港ノ日ヨリ滿一箇年以内ニ其證據ヲ舉示シ假納税者ハ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スコトヲ得

第二十九條 第二十五條ノ回漕貨物ヲ仕向港ニ於テ陸揚セントスルモノハ書面ヲ以テ其仕向港ノ税關ニ申出仕向港税關ヨリ受ケタル回漕免狀ニ陸揚ノ證明ヲ受ケ現品ノ検査ヲ經テ之ヲ引取ヘシ

前項回漕免狀ノ紛失若ハ遺忘ニ因リ之ヲ仕向港税關ニ差出シ難キトキハ税關長ノ満足スヘキ證書ヲ差入レ置キ其證書ノ日付ヨリ滿四箇月以内回漕免狀若ハ之ニ代ルヘキ仕向港税關ノ證明ヲ差出シ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スヘシ

第三十條 外國通航船修繕ノ爲メ開港ヨリ不開港ニ同船セントスルトキハ又ハ重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸ヲ爲シ難ク不開港ニ同船セントスルトキハ書面ヲ以テ其旨ヲ申出税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第二章 沿海通航船及輸入手數未濟貨物回漕

第三十一條 沿海通航船入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時内ニ入港届書ヲ税關ニ差出シ同時船籍證書、船舶登記證書及船鑑札ヲ預クヘシ

第三十二條 沿海通航船出港セントスルトキハ其船長ハ出港ノ時ヨリ四時前ニ出港届書ヲ税關ニ差出シ船籍證書、船舶登記證書及船鑑札ヲ受戻スヘシ

第三十三條 船籍證書、船舶登記證書ノ受有ヲ要セサル諸船及一定ノ港津間ニ往復スル積量百噸以下ノ西洋形船舶ハ船主ヨリ豫テ税關ニ届出認許ヲ受クルニ於テハ第三十一條及第三十二條ノ手數ヲ爲スニ及ハズ

第三十四條 沿海通航船輸入手數未濟ノ貨物ヲ積載シテ出港セントスルトキハ其船長ハ第三十二條ノ手數ヲ爲スト同時ニ出港積荷目録ニ通テ税關ニ差出スヘシ

第三十五條 前條ノ船舶仕向港ニ入港シタルトキハ其船長ハ第三十一條ノ手數ヲ爲スト同時ニ入港積荷目録ヲ税關ニ差出スヘシ

第三十六條 沿海通航船ヲ以テ輸入手數未済ノ貨物ヲ開港間ニ回漕セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出船積免狀ヲ受クヘシ

前項ノ貨物ヲ陸揚セントスル者ハ第十五條ニ又船移セントスル者ハ第十九條ニ據ルヘシ

第三章 罰則

第三十七條 外國通航船第一條ノ時限内ニ入港手數ヲ爲ササルトキハ船長ヲ六十圓ノ罰金ニ處シ尙ホ其手數ヲ爲ササルニ於テハ初犯ノ時ヨリ二十四時ヲ過ル毎ニ更ニ同額ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第九條第二項ニ掲グル税關監吏ノ爲シタル封鎖ヲ破却シ若ハ之ヲ取除キタルトキハ船長ヲ六十圓ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第十九條及第三十六條第二項ノ船移免狀ヲ受ケスシテ船移シタル者ハ前條同額ノ罰金ニ處ス

第四十條 外國通航船第八條第一項ノ場合ニ於テ規定ノ時限内ニ入港ノ事由ヲ申出サルトキハ船長ヲ十五圓ノ罰金ニ處ス

第四十一條 外國通航船第十條ノ場合ニ於テ町村役場若ハ浦役場ノ證明ヲ受ケス又ハ證明ヲ受ケルト雖之ヲ税關ニ差出ササルトキハ船長ヲ十五圓ノ罰金ニ處ス

第四十二條 沿海通航船第三十一條ノ時限内ニ入港ノ手數ヲ爲サス又ハ第三十二條ノ時限前ニ出港ノ手數ヲ爲ササルトキハ船長ヲ五圓ノ罰金ニ處ス

第四章 雜則

第四十三條 輸出入貨物ノ類別ニ就キ税關鑑定官吏ノ査定ニ不服アル者ハ其査定ノ日ヨリ十日以内ニ税關長ニ申告シ判定ヲ請フコトヲ得

税關長ノ判定ニ不服アル者ハ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ判定書ヲ添ヘ大藏大臣ニ裁定ヲ請フコトヲ得

第四十四條 税關官吏ハ必要ノ場合ニハ輸出入貨物ノ小部分ヲ見本トシテ税關ニ留置クコトヲ得

第四十五條 此ノ規則ニ依リ税關ニ差出スヘキ書面ハ總テ税關一定ノ書式ヲ用ヒ船主船長若ハ貨主之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 税關ヨリ交付スル諸免狀ノ謄本其他別段ノ證書ヲ請フ者ハ一通毎ニ一圓五十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

第四十七條 此ノ規則ニ於テ日時ヲ以テ期限ヲ設ケタルモノハ其期限内ニ税關ノ休日ヲ算入セス又年月ヲ以テ期限ヲ設ケタルモノハ休日ヲ算入ス

第四十八條 税關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時マテトス但臨時開關ヲ請フ者ハ税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第四十九條 第九條第一項及第四十八條但書ノ場合ニ於テ特許ヲ請フ者ハ定規ノ手数料ヲ納ムヘシ但其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五十條 此ノ規則ニ於テ船主ト稱スルハ其船ノ所有主若ハ現ニ其船ノ使用權ヲ有スル者ヲ云ヒ船長ト稱スルハ現ニ其船ヲ管理シ若ハ指揮スル者ヲ云ヒ貨主ト稱スルハ貨物ノ所有主若ハ其受託人ヲ云フ

第五十一條 此ノ規則ニ於テ輸出ト稱スルハ貨物ヲ外國へ輸出スルヲ云ヒ輸入ト稱スルハ貨物ヲ外國ヨリ輸入スルヲ云ヒ貨物ト稱スルハ旅具及船用品ヲ除クノ外一切ノ物件ヲ云フ

第五十二條 此ノ規則ニ於テ入港ノ時ト稱スルハ船舶ノ投錨若ハ繫留セントキヲ云ヒ出港ノ時ト

稱スルハ拔釐若ハ解纜ノトキチ云フ

第五十三條 密輸出入ヲ稅關ニ申告スル者ニハ其沒收セシ貨物代價ノ半額ヲ給ス  
附則

第五十四條 露西亞國樺太島貿易ニ從事スル船舶ニ限リ當分ノ内出入港手数料及該船ニ搭載スル貨物ノ輸出入稅ヲ免除ス但船舶ノ出入港手數ニ限リ第三十一條第三十二條ヲ適用ス  
第五十五條 帝國政府ノ參同スル外國博覽會及共進會ニ出品スル物品及其附屬品ハ輸出稅及同品積戻ノ際輸出入稅ヲ課スルヲ限ニ在ラス(明治二十五年勅令第三十八號ヲ以テ本條追加)

海關輸出入荷物取扱條例 (明治六年六月第二百十號布告)

內國人民一般並御雇外國人ニ至ル迄海關輸出入荷物取扱條例別冊ノ通被定候條此旨相達候事  
(別冊)

海關輸出入荷物取扱條例

第一 「官」省「使」寮「司」及府縣官員並留學生徒ニ至ル迄政府ノ命ヲ奉シ海外ニ旅航スル者公用ノ荷物並本人相當ノ旅具ヲ除クノ外輸出入共商品同様一般收稅スヘシ  
第二 前款ニ掲クル官員並留學生徒發著ノ前後輸出入又ハ他邦滯留中送致セル貨物等無稅通關スヘキ旨大藏省ノ證書無之分ハ商品同様一切收稅スヘシ  
第三 華士族ヨリ平民ニ至ル迄商業或ハ留學遊歷等ノ爲メ自費ヲ以テ海外へ渡航スル者荷物輸出入ノ際本人相當ノ旅具ヲ除クノ外一切收稅スヘシ但相當旅具免稅ノ荷物ヲ定ムルハ稅關官吏ノ意見ニシテ本人之ヲ取捨増減スルコトヲ得ヘカラス

第四 「官」省「使」寮「司」及府縣ニ於テ雇役ノ外國人自用品其自國又ハ他國ヨリ取寄或ハ御國產ヲ其本國へ差送ル分トモ自今約定書中自用品無稅通關可指許旨ノ明文無之分ハ輸出入トモ商品同様收稅スヘシ但向後外國人備入ノ節有稅ノ自用品ハ輸出入トモ免稅致スヘキ旨條約面ニ記載スヘカラス

第五 前條ニ掲クル外國人來著又ハ滿期歸國ノ節輸出入ノ荷物本人相當ノ旅具ヲ除クノ外商品同様收稅スヘシ

特別輸出港規則 (明治二十二年七月法律第二十號)

朕特別輸出港規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特別輸出港規則

第一條 帝國臣民米、麥、麥粉、石炭、硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

- 一 伊勢國四日市
- 一 長門國下ノ關
- 一 筑前國博多
- 一 豊前國門司
- 一 肥前國口ノ津
- 一 肥前國唐津
- 一 肥後國三角
- 一 越中國伏木
- 一 後志國小樽
- 一 釧路國釧路(明治二十三年法律第七號ヲ以テ追加)
- 一 膽振國室蘭(明治二十七年法律第一號ヲ以テ追加)

第二條 前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ントスルトキハ大藏大臣へ出願シ外國船雇入